

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義（14コマ）、演習（1コマ）。講義中、随時10分程度のワーク（個別・グループ）も取り入れる。		
授業計画	第1回	心理学の歴史と方法 本講義のテーマ、講義の展開予定、受講上の注意などについて説明をする。また、心理学の歴史と研究方法について学び、本講義の到達目標について展望する。 key words：哲学における心理学、実験心理学の始まり（ヴェント）、ヴェント批判（ゲシュタルト心理学、行動主義、精神分析）	
	第2回	脳と心理学 脳科学と心理学は密接な関係にある。本講義では、心の働きの基盤となる脳と神経の基礎的な仕組みと働きについて学習する。 key words：人間の脳の構造、脳の働き、高次脳機能障害	
	第3回	心の発達 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では人間の発達の諸側面、子どもの認知発達について学ぶ。 key words：こどもの認知発達（ピアジェ）、こどもの社会性の発達、生涯発達心理学	
	第4回	神経発達症／神経発達障害（1） 平成19年度から全国で特別支援教育が開始され、ここ数年の間に発達障害に関する知識が急速に広まっている。本講義では発達障害の1つであるAD/HDの特徴について学び、支援の方法について理解を深める。 key words：発達障害、AD/HD、特別支援教育	
	第5回	神経発達症／神経発達障害（2） 前回に続き、発達障害の1つであるSLDと、発達障害とは区別される知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）の特徴について学び、支援の方法について理解を深める。 key words：SLD、知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）、特別支援教育	
	第6回	神経発達症／神経発達障害（3） 前回に続き、発達障害の1つである自閉スペクトラム症の歴史と特徴について学ぶ。また、太田ステージ理論に基づく自閉症支援について学ぶ。 key words：自閉スペクトラム症、太田ステージ理論、特別支援教育	
	第7回	感覚と知覚 人間が外界に適応した行動をとるためには、外界を理解する必要がある。本講義では、我々が外界の情報を受容し、それを利用する手段である感覚と知覚について学ぶ。 key words：感覚、知覚的な体制化、奥行き知覚と知覚の恒常性、錯覚、運動の知覚	
	第8回	学習 一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、行動主義が提唱した学習原理と、社会的学習理論を概観する。 key words：古典的（レスポナント）条件づけ（パブロフ）、オペラント条件づけ（スキナー）、社会的学習理論（バンデューラ）	
	第9回	記憶と思考 感覚・知覚によって入力されてきた情報は、私たちが環境に適応するために使用される。そのためには、情報を効率的に貯蔵し、この使用の方法についての戦略が必要になる。心理学では前者の課程を「記憶」と呼び、後者の課程を「思考」とよぶ。本講義では、人間の記憶と思考の仕組みについて学習する。 key words：記憶のしくみ、記憶の二重貯蔵モデル、問題解決と意思決定、推論	
	第10回	動機づけと情動 人の行動は多様であるが、それぞれの行動には、その行動と結びついた特定の原因があると考えられる。例えば、Aさんが勉強を中断して夜食を食べたのは「空腹だったから」であろうし、また、恋人と別れてBさんが泣いたのは「悲しかったから」であろう。行動の原因と考えられるもののうち、前者のグループは「動機づけ」とよばれ、後者のグループは「情動」とよばれる。本講義では、人間の動機づけと情動について理解を深める。 key words：動機づけと欲求、マズローの欲求階層モデル、感情・情動、表出行動とコミュニケーション、動機づけと情動の病理	
	第11回	性格（1） 私たちはそれぞれ、他の人とは違うその人らしい考え方、感じ方、そして行動の仕方（行動様式）を持っている。このような考え方や行動の仕方は、状況の変化にも関わらず、時や場所を越えて、比較的一貫し、安定している。このことから、私たちには、このような個人の独自性と統一性をもたらすものが存在すると考えられ、それは「性格」とよばれる。本講義では性格の代表的な理論である「類型論」と「特性論」や性格の5因子モデルについて学ぶ。 key words：類型論、特性論、性格の5因子モデル、性格検査の信頼性と妥当性	
	第12回	性格（2） 私たちの性格を客観的に測定する「性格検査」を体験し、自分の性格について把握する。	
	第13回	対人関係と集団 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生	

	<p>を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。</p> <p>key words : 対人認知, 対人感情, 関係の維持</p> <p>第14回 心理療法 (1) 「コラージュ療法」演習</p> <p>心理療法とは、「心の問題」に対する心理学の知見を用いた援助である。本講義では、心理療法の中でも「芸術療法」と呼ばれるものの1つである「コラージュ療法」を体験する。 key words : 芸術療法, コラージュ療法</p> <p>第15回 心理療法 (2) 「箱庭療法」</p> <p>箱庭療法はローエンフェルトによって考案され、その後、カルフがユングの考えを導入して発展させ、河合隼雄によって我が国へ導入され、さらに世界中に広がった技法である。本講義では、箱庭療法の分析方法を紹介し、それを応用し、自らが作成したコラージュについて検討を行う。</p> <p>key words : コラージュ療法, 箱庭療法, 空間象徴</p>
<p>科目の目的</p>	<p>心理学を学ぶことにより、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。自己および他者への理解を深め、社会の中で適応的に生活するために必要な心理学の知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>ディプロマポリシー：【知識・理解】</p>
<p>到達目標</p>	<p>1. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。 2. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に活かす。</p>
<p>関連科目</p>	<p>【教養・共通基科目群】教育学, 教育心理学, 生命倫理, 哲学, 人間と宗教, 社会学, 生活文化と医療, 大学の学び入門, 大学の学び-専門への誘い-, 多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ, 生理学Ⅱ, 人間発達学, 公衆衛生学, 臨床神経学Ⅰ (神経内科学), 臨床神経学Ⅱ (小児神経学・脳神経外科学), 精神医学, 小児科学, リハビリテーション医学, 老年医学, カウンセリング, リハビリテーション関連領域論, 臨床心理学, 安全管理, 医療統計学, 障害者スポーツ・レクリエーション論</p> <p>【専門科目群】小児理学療法学, 理学療法特殊講義</p>
<p>成績評価方法・基準</p>	<p>定期試験 (80%) に毎回の講義後に作成する小レポートの評価 (20%) を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>
<p>準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安</p>	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>【教科書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著 (2009) 「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房</p>
<p>オフィス・アワー</p>	<p>月・水・木・金の昼休み (1号館305研究室および1号館・4号館学生相談室)</p>
<p>国家試験出題基準</p>	<p>なし</p>
<p>履修条件・履修上の注意</p>	<p>講義中の私語, スマートフォン・携帯電話の使用, 講義と関係のない作業 (他の科目の学習等) は禁止します。注意しても止めない場合や, それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ, その回の講義の出席を認めない場合があります。</p>

講義科目名称：教育学

授業コード：2P002

英文科目名称：Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
黒羽 正見			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 教育学オリエンテーション 本講義を貫くキーワード説明（暗黙知、薫習、自己認識、気付き、自己更新）・講義方法と評価</p> <p>第2回 日本の現代的教育課題を考える 一枚の折り紙から鶴を折る過程に埋め込まれているものは何か</p> <p>第3回 学校の中で営まれる教育（授業）について考える 事例の中の子どもにかかわる教師の教育行為からみえるものは何か</p> <p>第4回 学校社会の中の教師を考える（1） 工藤先生と22人の子供たちのビデオ視聴と自己認識としての自分考えをもつ。</p> <p>第5回 学校社会の中の教師を考える（2） 北海道の工藤先生と子供たちの織りなす教育の原風景とは何か</p> <p>第6回 学校という組織を考える 教室空間に見立てた大きく膨らんだ袋の中に存在するものは何か</p> <p>第7回 西洋の教育思想から教育方法を考える。 直観と体験、静けさと沈黙、個性化と社会化</p> <p>第8回 日本の道徳教育を考える（1） 授業「道徳の時間」の基本的理解</p> <p>第9回 日本の道徳教育を考える（2） 次期学習指導要領の中の「道徳の教科化」ははじめ防止に効果的か（ビデオ視聴）</p> <p>第10回 日本の道徳教育を考える（3） 次期学習指導要領の中の「道徳の教科化」ははじめ防止に効果的か</p> <p>第11回 情報化・競争社会の中の子どもと学校を考える 華やかな情報化社会や競争社会に潜む落とし穴（暗影部）とは何か</p> <p>第12回 家庭・学校・地域社会の変化と教育を考える 家庭・学校・地域社会の3つから、今あなたが一番実感する変貌は何か</p> <p>第13回 望ましい集団活動を考える 谷川俊太郎「生きる」の群読から学んだことは何か</p> <p>第14回 社会教育と生涯学習を考える 学び続ける、地球市民として生きるためには</p> <p>第15回 まとめ 自分の専門領域から自分にとってのより良い教育を考える</p>
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた人間性と豊かな教養を有している。 ・学習内容について、深い認識を有している。 ・実践的な指導力を有している。 ・現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について確かな見識を有している。 <p>【知識・理解】</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の教育体験を対象化して、客観的にとらえることができる。 ・教育の世界の経験や問題から受けた示唆をもとに、自分の専門領域に引き寄せて自身の考えを深めていくことができる。 ・教育の世界で蓄積されたきた「人間を学ぶ主体として成長させるための智慧」について、その意義や現代的課題を述べることができる。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	①毎時間の課題に対する振り返りシートの内容、②課題レポート、③毎回の課題解決のためのグループ学び合い 総合点は、①が30%、②が30%、③が40%である。課題レポートシートは、精査・コメントを付し、毎時間毎に返却するところを通して、個人の学びを一層深めるような方法をとる。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について、予習・復習を4時間行うことを目安とする。
教科書・参考書	教科書：「学際型現代学校教育概論」シナジェティックス研究会 著（金子書房） 参考書：なし
オフィス・アワー	10時半から11時（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
原 芳典			

授業形態	講義（演習＝エクササイズを含む）15回
授業計画	<p>第1回 教育心理学を学ぶ意義 ガイダンス 学校教育とは 子供の誕生と消滅 エクササイズ（思い出に残る先生）</p> <p>第2回 発達の視点を持つ 様々な発達理論 思春期とは？ エクササイズ（自分史グラフ）</p> <p>第3回 思春期の仲間関係の発達 ギャンググループ チャムグループ ピアグループ エクササイズ</p> <p>第4回 児童期 フロイトの自我理論 心理学のあゆみ エクササイズ</p> <p>第5回 乳幼児期① 生理的早産仮説 有能な赤ちゃん 愛着形成 エクササイズ</p> <p>第6回 乳幼児期② ビデオ学習「赤ちゃん」</p> <p>第7回 青年期の心理と課題 エリクソンの発達理論 エクササイズ（アイデンティティ・ステータス）</p> <p>第8回 ジェンダー・アイデンティティ 自己概念 ジェンダー・アイデンティティ 男女の会話スタイル 自己概念 エクササイズ（ブラインドウォーク）</p> <p>第9回 学校教育相談① ビデオ学習「多様な性の子どもたち」 学校教育相談の歩み チェーン・インタビュー</p> <p>第10回 学校教育相談② アクティブ・リスニング アサーション エクササイズ（聞く態度で信頼関係がつけられる）</p> <p>第11回 特別支援教育 特別支援教育に至る経緯 発達障害の概念の整理 エクササイズ（視覚優位か聴覚優位か） エクササイズ</p> <p>第12回 教育現場での実践的諸問題① ビデオ学習「発達障害」 いじめ問題</p> <p>第13回 教育現場の実践的諸問題② ビデオ学習「傷つき傷つけられた果てに」 摂食障害 自傷行為（リストカット） 自殺</p> <p>第14回 学校教育と自己肯定感 自己肯定感 エレファントシンドローム エクササイズ（OKマークをペタン）</p> <p>第15回 まとめ 自己実現 エクササイズ（様々な私）</p>
科目の目的	自分や周囲が体験してきた教育を振り返り、その心理的意味を考察することで、人間を理解し、人との関係の取り方や自分自身の有り様を見つめる。【知識・理解】
到達目標	教育心理学の概要を自分および周囲の人々の体験から理解し、自分自身を考察し、他者との効果的な関係づくりを習得する
関連科目	教育学 心理学 臨床心理学 カウンセリング
成績評価方法・基準	定期試験50% および 課題（毎回提出を求める学習の理解や定着度を測る小レポートなど）による評価50% 小レポートは次回講義に評価をつけて返却し、必要があれば全体に補足コメントをする
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義終了時に、次回の予告をする。格別準備はいらないが自分の教育体験をよく想起しておく（10分程度）
教科書・参考書	教科書はとくに使用しない 参考書：

	保坂亨著「いま、思春期を問い直す」東京大学出版会 2010年 近藤邦夫他編「子どもの成長 教師の成長～学校臨床の展開」2000年
オフィス・アワー	昼休み及び授業前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	とくになし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
衣川 隆			

授業形態	講義・演習
授業計画	<p>第1回 はじめに ―健康の保持・増進という視点から運動・スポーツを科学する― ①ライフスタイルと生活習慣病について ②適正体重の維持 ③日常生活の歩数の増加 日常生活のなかで積極的に体を動かそう ④運動不足病としての生活習慣病 ⑤「運動基準」「運動指針」</p> <p>第2回 運動とスポーツの生理学① ―呼吸・循環器系機能と運動・スポーツ― ①運動の持続と呼吸・循環器系 ②循環器の働きと血液の循環経路 ③運動に伴う呼吸・循環器系機能の変化</p> <p>第3回 運動とスポーツの生理学② ―ATPと運動・スポーツ― ①運動時の酸素利用 ②トレーニングによる呼吸・循環器系の適応</p> <p>第4回 運動とスポーツの生理学③ ―神経・骨格筋系機能と運動・スポーツ― ①随意最大筋力を決めるもの ②身体運動にみられる筋と腱の相互作用 ③身体運動と神経機能</p> <p>第5回 運動とスポーツの生理学④ ―エネルギー代謝と運動・スポーツ― ①1日のエネルギー消費量と貯蔵エネルギー量 ②一過性運動時のエネルギー代謝 ③トレーニングによるエネルギー代謝の変化</p> <p>第6回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論① ―トレーニング概論― ①体カトレーニングの原理と原則</p> <p>第7回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論② ―瞬発系、持久力系、回旋系― ①エネルギー発現能力を高めるためのトレーニング</p> <p>第8回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論③ ―評価（アセスメント）― ①評価（アセスメント） ②コレクティブエクササイズ</p> <p>第9回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論④ ―アスリートトレーニング― ①一例（ケンブリッジ飛鳥）（目標まで3か月、週3回、1時間） ②ドローイン</p> <p>第10回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論⑤ ―筋肉とタンパク質― ①食事のアスリート度チェック ②栄養（タンパク質）チェック</p> <p>第11回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論⑥ ―筋肉とアミノ酸― ①アミノ酸とは ②BCAAについて ③グルタミンについて ④アルギニンについて ⑤クレアチンについて</p> <p>第12回 スポーツ心理① 他人のために自分ができること、目標設定とは？理想の自分とは？成功と失敗を振り返る、について考える。</p> <p>第13回 スポーツ心理② 起こり得る問題の対策、オープンウインド、について考える。</p> <p>第14回 スポーツ心理③ 気持ちをコントロールする、について考える。小テスト実施。</p> <p>第15回 スポーツ心理④ 1か月の目標設定、について考える。小テスト返却。レポート提出。</p>
科目の目的	<p>「健康と運動」、「老化と運動」に関しその維持と増進方法について、なぜ運動が重要なのかを学ぶ。特に有酸素運動と筋トレの効果は、心肺機能、呼吸器の向上、筋力の向上と筋肥大だけでなく、肥満防止や生活習慣病の予防・改善、姿勢の改善、高齢者生活の障害を低減すること等を説明する。本講義では有酸素運動や、筋力トレーニングを体験しながらその効果をも医療従事者として、地域社会に発信できるよう基礎を学ぶ。</p> <p>またスポーツを行なうことや、その能力を高めることに心の問題は切り離せない。本講義では、スポーツ心理学の概要と自己の目標設定の考え方、情動の自己コントロールについて振り返り、起こり得る問題の対策を学習する。そして生涯にわたって専門分野を探索し、その発展に貢献できるよう考え方を学ぶ。</p>
到達目標	<p>「健康と運動」、「老化と寿命」等に関しその維持と増進方法について考えるにあたって、日常生活とスポーツ、正しい筋力トレーニングやストレッチの方法を理解し、自発的に生涯に渡ってスポーツに取り組む心を身に着ける。またスポーツ心理学において、自己の目標設定と情動の自己コントロールを中心に学び、知識・行動を身に付ける。</p>

関連科目	健康スポーツ実技
成績評価方法・基準	講義時間内にレポートを実施（50％）。小テスト（50％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおいての、自分自身の健康や体力、栄養について管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、自分自身の健康や体力、栄養について振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	参考書 「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信監修 大修館書店
オフィス・アワー	講義室または体育館で、講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
衣川 隆			

授業形態	実技
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション オリエンテーションと班編成&トレーニング</p> <p>第2回 球技・トレーニング 腓腹筋、前脛骨筋等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>第3回 球技・トレーニング RFDの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び班対抗 バasketボール</p> <p>第4回 球技・トレーニング 大臀筋、ハムストリングス等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バasketボール</p> <p>第5回 体力測定 体力測定（長座体前屈、握力、背筋力、立ち三段跳び、反復横跳び、プッシュアップ30秒、腹筋30秒、20m）、体力測定小テスト、レポート提出</p> <p>第6回 球技・トレーニング 体幹を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>第7回 球技・トレーニング 大胸筋、小胸筋、三角筋を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バasketボール</p> <p>第8回 球技・トレーニング 菱形筋、前鋸筋等の肩甲骨周辺筋群を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>第9回 球技・トレーニング アイソトニック、アイソキネティック、アイソメトリックの考え方を中心とした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>第10回 心肺持久力 20mシャトルラン、持久力小テスト、レポート提出</p> <p>第11回 球技・トレーニング アナトミートレインの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>第12回 球技・トレーニング PNFストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>第13回 球技・トレーニング バランストレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バasketボール</p> <p>第14回 球技・トレーニング メディシングボールを使った筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>第15回 球技・トレーニング ドローインと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p>
科目の目的	<p>運動やスポーツが得意な人もあまり得意でない人も、手軽にできるトレーニングやストレッチを行い、体力をつけることを狙いとする。一人で簡単にできる筋力トレーニングやストレッチを行って、少しずつ無理なく、自分のペースでスポーツを楽しめるようにする。</p> <p>各種スポーツでの身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、その保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活が送れるよう自覚を促す。</p> <p>各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイルの形成を目指す。加えて、大学生活のスタート時が、より豊かで協同的な人間関係の構築と学生生活の充実の一助となるよう学生相互のコミュニケーションの機会を意図的に設ける。</p>
到達目標	<p>①健康と体力の重要性を理解し、維持向上をさせる。</p> <p>②生涯にわたって健康と体力を維持向上するための知識・行動を身に付ける。</p> <p>③自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策を立て心身の健康状態を整える。</p>
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法・基準	授業時間内に小レポートを実施（80%）。小テスト（20%）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおける体調管理と生活状況管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、生活リズムを振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	参考書

	「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「運動学」伊東元 高橋正明編集 医学書院
オフィス・アワー	体育館で授業の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：生命倫理

授業コード：2P006

英文科目名称：Bioethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
吉田 幸恵			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
金澤 秀嗣			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 予備考察：「自由と規範」 概論 本講の目的と講義計画とに関する説明 〈欠陥動物〉としてのヒト システムの〈意味〉</p> <p>第2回 神的自然法論 原罪・〈事物の本性〉と人間の自由：アウグスティヌス、トマス・アクィナス</p> <p>第3回 契約説的自然法論 アトムの個人の権利と国家権力：ホッブズ、ロック、ルソー</p> <p>第4回 カント批判哲学 ① 認識の枠組：〈世界〉はいかに在るか</p> <p>第5回 カント批判哲学 ② 徳論と法論：〈自己〉はいかに在るべきか</p> <p>第6回 ヘーゲルの観念論哲学 ① 「自然法論文」における近代自然法論批判と共同体論</p> <p>第7回 ヘーゲルの観念論哲学 ② イエナ精神哲学における相互承認論：〈愛〉と〈闘争〉</p> <p>第8回 ヘーゲルの観念論哲学 ③ 『精神現象学』における相互承認論：〈主と奴の弁証法〉</p> <p>第9回 ヘーゲルの観念論哲学 ④ 論理学と『法哲学綱要』の視座</p> <p>第10回 歴史法学の展開 法の基盤としての〈民族精神〉：サヴィニー</p> <p>第11回 世界精神の概念 個別の〈民族精神〉 vs. 〈世界法廷〉としての世界史</p> <p>第12回 普遍的人権概念と多文化主義の相克 ① 人権総説</p> <p>第13回 普遍的人権概念と多文化主義の相克 ② 文化相対主義・多文化主義・発展段階論</p> <p>第14回 普遍的人権概念と多文化主義の相克 ③ 事例研究：伝統文化 vs. 女性の権利</p> <p>第15回 講義の総括と展望</p>
科目の目的	<p>哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講では特に〈自由と規範〉をテーマに掲げ、法哲学・社会哲学の地平から個人と共同体の在り方について考察したい。</p> <p>講義は「授業計画」に則るものとする。但し、履修者の理解に鑑み、必要に応じて進捗を調整する場合もあるのでその旨留意されたい。</p> <p>ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における位置づけ：本科目は【態度】に該当する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の知的遺産たる哲学を学び、学士学位取得者が具備すべき知識を修得して教養を培う。 2. 1の営為を通じて、自分なりの人間観・社会観・世界観を確立する。 3. 1・2と併せて、高度の専門的職業人に必須とされる、論理的な思考方法を涵養する。
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 「法学（日本国憲法含む）」・「社会学」・「心理学」・「人間と宗教」等の諸科目と関連するテーマが適宜取り上げられる。
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ● 期末筆記試験（論述）の成績による（100％）。 ● 詳細については初回講義時に教場にて説明する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ● 次回講義のために Active Academy にて供せられている講義資料（レジュメ）をダウンロード・プリントアウトし（配布期間は原則として当該講義日までとする）、精読したうえで自分なりに要点・疑問点を摘示しておくこと。 ● 準備学習に必要な学習時間については、概ね1時間程度を目安とする。
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書は用いない。講義は講義資料（レジュメ）に基づいて行われる。 ● もっとも、哲学史を概観した書籍が手元にあると講義の理解も捗るものと思料される。 ● 参考書の一例として、岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）などが挙げられよう。 ● その他については、必要に応じて教場にて紹介したい。
オフィス・アワー	<ul style="list-style-type: none"> ● 講義の前後（場所：教場若しくは非常勤講師控室）

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	● 事前に Active Academy を経由して講義資料（レジユメ）をダウンロード・プリントアウトし、毎講義時に持参されたい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
尾形 大			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 〈変身〉する人間① ガイダンス カフカ「変身」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理</p> <p>第2回 〈変身〉する人間② カフカ「変身」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第3回 〈変身〉する人間③ カフカ「変身」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第4回 〈共存〉を許さない世界① 川上弘美「神様」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆前回小レポートの講評</p> <p>第5回 〈共存〉を許さない世界② 川上弘美「神様」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第6回 〈共存〉を許さない世界③ 川上弘美「神様」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第7回 〈傷〉ついていた心① 志賀直哉「城の崎にて」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆前回小レポートの講評</p> <p>第8回 〈傷〉ついていた心② 志賀直哉「城の崎にて」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第9回 〈傷〉ついていた心③ 志賀直哉「城の崎にて」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第10回 〈復讐〉される人間① 宮澤賢治「注文の多い料理店」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆前回小レポートの講評</p> <p>第11回 〈復讐〉される人間② 宮澤賢治「注文の多い料理店」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第12回 〈復讐〉される人間③ 宮澤賢治「注文の多い料理店」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第13回 〈戦争〉と文学① 太宰治「トカトントン」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆前回小レポートの講評</p> <p>第14回 〈戦争〉と文学② 太宰治「トカトントン」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第15回 〈戦争〉と文学③ 太宰治「トカトントン」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p>
科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文学作品の鑑賞を通じて、多様な社会・文化への幅広い視野と、他者に対する深い理解を得る。 2. 情報を正確に読み取り論理的に組み立てる能力を涵養する。 3. 複数回の小レポートの作成を通じて、自分の考えを他者に論理的に伝達する方法を学習する〔技能・表現〕。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 不明な語句・表現を調べ、自分の力で教材を丁寧に読解する。 2. 1を踏まえて授業内で解説された作者情報や同時代状況、読みのポイントを整理する。 3. 2を補助線にして作品をあらためて読み直す。その上で各自の初読の感想がどのように更新されたかを確認する。
関連科目	芸術・哲学・社会学
成績評価方法・基準	授業内で課される小レポート（60%）＋1600字程度の期末レポート（40%）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前＝配布された作品の黙読（0.5時間） ・授業後＝授業内容の復習（1.0時間）
教科書・参考書	教科書：使用しない（講義資料を授業内あるいはActive Academyを通して配布します）。
オフィス・アワー	授業の前後（非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
竹村 一男			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 宗教本質論 宗教とは何か 宗教の定義、類型と、宗教の研究分野について例をあげて解りやすく説明する。</p> <p>第2回 宗教本質論 宗教思想の変遷 過去の哲学、神学、心理学などの代表的な思想は、宗教をどのように解釈してきたか講述する。3大宗教について、その概要と現状に言及する。</p> <p>第3回 キリスト教概説 キリスト教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第4回 イスラム教概説 イスラム教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第5回 仏教概説 仏教の教義と歴史、現状について講述し、中国仏教、チベット仏教にも言及する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第6回 日本の仏教 日本の仏教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第7回 日本の民俗宗教 祖霊信仰や神社神道などの日本の民俗宗教について、その歴史や事例、様々な儀礼や祭祀について、画像を交え説明する。</p> <p>第8回 世界の民族宗教 特定民族に受け継がれる民族宗教について、長い歴史と多数の信徒をもつユダヤ教とヒンドゥー教を中心に、その文化・歴史など画像を交え講述する。</p> <p>第9回 中国の民族宗教 中国の民族宗教である儒教と道教について、その文化・歴史など画像を交え説明する。日本に与えた影響などにも言及し講述する。</p> <p>第10回 新宗教 1830年代以降に成立した新宗教について、天理教、創価学会、モルモン教会を例に、その概要と歴史、教義について講述する。</p> <p>第11回 宗教と科学 宗教研究の事例 主に比較宗教学、宗教社会学などの社会科学の視点からなされてきた研究学説について概説し、講師の研究事も交えて講述する。</p> <p>第12回 宗教と文化・芸術 宗教文化と芸術について画像を中心に講述する。宗教史跡などの世界文化遺産にも言及する。</p> <p>第13回 グローバル化と宗教 グローバル化が進む現在における宗教の諸問題や、宗教動向、宗教と民族紛争の事例などについて講述する。</p> <p>第14回 宗教と医療 宗教と医療に関する歴史や現状の諸問題について講述する。</p> <p>第15回 内村鑑三の宗教、及びまとめ 前半は、内村鑑三の宗教について講師の事例研究も交え講述する。後半は全講義のまとめを行う。</p>
科目の目的	<p>宗教は私達の身近に存在する。多くの家庭には仏壇や神棚が置かれ、年中行事や冠婚葬祭も宗教により執り行われる。旅行などで各地に足を運ぶと、おおよそ神社仏閣、宗教施設が存在しない地域はない。人は、ある時は宗教に救済を求め、宗教を畏敬の対象とし、宗教に自らの死生観を求め。また、宗教にモラル以上の価値観を認める人達もいる。その一方では宗教戦争の様相を呈した民族紛争がニュースに登場することも多い。本授業においては、このように多くの諸相において人間に関わりをもつ「宗教」とは何かについて考え、さらに様々な宗教を取上げ、その教義、歴史、さらに文化社会的側面について講述する。宗教理解は私達人間の理解、さらに文化・異文化・社会理解にも繋がる。講義を通して、受講生が各々の視点、切り口を通して人間と宗教、さらに文化・社会の理解に近づくことを目的とする。なお、医療現場においては宗教の救済観、死生観理解も大切であることを付記したい。【態度】</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの宗教を比較し、その歴史や教義、死生観などを分析、説明することが出来る。 ● 宗教にかかわる文化や時事問題などを理解し、適切に説明することが出来る。 ● 将来の医療現場において、患者や関係者の宗教観を理解し、適切かつ発展的な行動がとれる。
関連科目	哲学 心理学 社会学 芸術
成績評価方法・基準	定期試験（100％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自己学習15時間。講義内容の再確認と復習を行う。より深く学びたい受講生には、興味のある宗教分野に関する聖典や文学作品などに並行して、比較宗教学による文献の読解をお勧めする。文献例：『イスラーム文化』井筒俊彦（岩波文庫）、『ヒンドゥー教』森本達雄（中公新書）、『儒教とは何か』加地伸行（中公新書）、『日本の民俗宗教』宮家 準（講談社学術文庫）、『世界の宗教』岸本英夫編（大明堂 絶版）、『現代医学と

	宗教』日野原重明（岩波書店）など。仏教、キリスト教関係なども多数あり。
教科書・参考書	教科書 使用しない。必要に応じてその都度、プリントを配付する。 参考書1 『法華経』坂本幸男・岩本裕訳注（岩波文庫） 参考書2 『共同訳聖書』（日本聖書協会） 参考書3 『コーラン』井筒俊彦訳（岩波文庫）
オフィス・アワー	講義終了後の教室。または講師出校時の非常勤講師室。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	各回のプリントを事前にアップロードしておきます。受講者はプリントアウトして授業に出席してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
東 晴美			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：オペラ、歌舞伎から現代演劇まで。舞台芸術の幅広さと、他の芸術ジャンルとの交流 舞台芸術は、言語、音楽、身体、美術などの要素を備えた総合芸術であることを紹介します。また、舞台芸術が様々なジャンルの芸術と深い関係があることを理解し、その上で舞台芸術を学ぶ意義について考えます。</p> <p>第2回 ドラマ（物語）：創作された物語から、証言まで ギリシャ悲劇やシェイクスピアの作品において、ドラマはどのような構造を持っているかを考えます。またそのようなドラマを突き崩そうとしたベケットの作品や、ストーリーテリングや証言などポストドラマとしての現代演劇の取り組みを紹介します。</p> <p>第3回 劇場：社会と劇場、劇場と舞台芸術の関係 ギリシャ劇場から額縁舞台を経て、現代に至る劇場の変遷が、西洋の舞台芸術の歴史と呼応していることを学びます。また、舞台芸術における劇場の役割を考察します。</p> <p>第4回 観客：もう一人の作り手として 舞台芸術の観客は、他の芸術と異なり物語をともに作りあげる存在でもあります。舞台芸術と観客の関係性について、ギリシャ時代から現代までの変遷を考えます。</p> <p>第5回 身体：身体文化とことばの関係 俳優によって登場人物が表現されるリアリティについて、近代に絶大な影響を与えた俳優訓練法・スタニスラフスキーシステムを例に考察します。また、物語をつむぎだす言葉と身体の関係性を再考する実践も紹介します。</p> <p>第6回 ジェンダー：演じる性と演じられる性（小レポート） 演じる性として女優について考察します。また、舞台芸術では女性をどのように表現してきたか、演じられる性についても紹介します。翌週にレポートについてコメントをします。</p> <p>第7回 能：物語のビジュアルイメージ化 能楽の基礎について学びます。また物語がビジュアルにイメージ化され定着していくことを平家物語を題材にした作品を例に考えます。また、600年前に生まれた芸能が、今もなお息づいている理由に迫ります。</p> <p>第8回 狂言：笑いの表現 笑いは文化を象徴するキーワードです。笑いの芸能である狂言の基礎について学びます。またシェイクスピアの作品をもとにした新作狂言など、狂言師の新しい挑戦を紹介します。</p> <p>第9回 歌舞伎：現代に生きる古典芸能 歌舞伎の基礎について学びます。歌舞伎は冷凍保存された古典ではなく、常に同時代のエンターテインメントであろうとしています。能の物語を継承しながら、江戸時代としての現代劇として再生した「京鹿子娘道成寺」を例に考えます。</p> <p>第10回 文楽：人形の表現と語る表現（小レポート） 文楽の基礎について学びます。北野武の映画「ドールズ」を紹介しながら、今日における文楽の可能性を考えます。翌週にレポートについてコメントをします。</p> <p>第11回 ゲームと物語：日本の物語の再生 日本の歴史上の人物の伝記がゲームのコンテンツとなり、さらにその物語が、アニメ、漫画、舞台へと展開しています。このような流れを例に取りながら、日本の物語の新たな再生について考察します。</p> <p>第12回 アニメ・マンガ：絵画と文学、舞台メディアの交流史 欧米と異なり、大人も愛する日本のマンガ文化について、江戸時代における絵画、文学、演劇のメディアミックス文化を源流として考察します。また、能や、歌舞伎など日本の伝統的なコンテンツがどのようにアニメやマンガに取り入れられているかを探求します。</p> <p>第13回 「ライオンキング」と文楽 文楽の人形の技術は、世界的にも大きなインパクトを与え続けています。「ライオンキング」や「キングコング」など、文楽にインスパイアされた表現を紹介します。</p> <p>第14回 2.5次元ミュージカル 現代日本では、舞台芸術、アニメ、ゲームなどが、メディアの垣根を越え縦横に入り交じりつつあります。代表例として漫画「テニスの王子様」のアニメ、ゲーム、ミュージカル化を紹介します。また、二次創作と日本の著作権意識の源流について考察します。</p> <p>第15回 まとめ：ひろがる芸術の世界 ボーカロイド初音ミクによる近松門左衛門作「曾根崎心中」の道行きのパフォーマンスを例にとりながら、新しいメディアと既存の文化との関係について考察します。これまでの授業について振り返り、ポイントを整理します。その上で、講義全体を振り返ったレポートを書いてもらいます。</p>
科目の目的	<p>この授業では、オペラ、歌舞伎から現代演劇までを含む舞台芸術を例にとって、芸術について学びます。まず、他の芸術と異なる舞台芸術ならではの特色について、西洋舞台芸術の歴史を通して考えます。次に、西洋とは異なる独自の発展を遂げた日本の舞台芸術を概観します。また、難解だと思われがちな古典芸能の鑑賞のポイントも紹介します。最後に、漫画、アニメ、ゲーム、ミュージカルなどの現代の表象文化を、芸術の視点から考察します。これまでに舞台芸術が扱ってきたテーマを通して、人と社会に深い関心を持って、社会人としての教養を身</p>

	につけます。【態度】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術を例に、芸術学の基本を学ぶ。 ・日本の芸能の特色を学ぶ。また、伝統芸能は、江戸時代以前の文化でありながら、近代以降も同時代の文化の影響も受けていることを理解する。 ・現代のメディアに、伝統的なコンテンツがどのように取り入れられているかを学ぶ。 ・舞台芸術が扱っているテーマを通して、人と社会に深い関心を持つ力を身につける。
関連科目	社会学
成績評価方法・基準	授業中の小レポート（2回）各30%、期末教場レポート30%、授業中アンケートなど10%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	新聞、雑誌、テレビなどで紹介される舞台芸術や芸能に関する情報に関心を持つことがのぞましい。授業中のアンケートや授業後のレポートを提出に備えて1時間程度の学習をすることが望ましい。
教科書・参考書	webポータルシステムにて講義資料をデータで配布(授業日前にデータを掲載、授業終了後1週間はダウンロード可)
オフィス・アワー	木曜日 14:00～14:40
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	各テーマと、自分が現在関心をもっていることと関連づけながら学ぶことを求めます。

講義科目名称：法学（日本国憲法含む）

授業コード：2P011

英文科目名称：Law(the Constitution of Japan)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
道下 洋夫			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 法とは何かについて様々な角度から考える</p> <p>第2回 法と社会・法の種類 法と社会との関わりあい方について理解する</p> <p>第3回 法の特徴・法の目的 法にはどのようなものがあるか、どのような性質を持つかについて理解する</p> <p>第4回 憲法1 憲法の基本理念について理解する</p> <p>第5回 憲法2 基本的人権（平等権、受益権、平和的生存権）について理解する</p> <p>第6回 憲法3 基本的人権（自由権、社会権、包括的基本権）について理解する</p> <p>第7回 憲法4 統治機構（三権分立、地方自治）について理解する</p> <p>第8回 民法1 債権とは何か、契約とは何か、どんな契約があるかについて理解する</p> <p>第9回 民法2 不法行為など契約外の債権について、債権の一般的な規則について理解する</p> <p>第10回 民法3 物権とは何か、担保とは何かについて理解する</p> <p>第11回 民法4 身分とは何か、相続とは何かについて理解する</p> <p>第12回 刑法1 刑法の基本原則について理解する</p> <p>第13回 刑法2 個々の犯罪、および特別法について理解する</p> <p>第14回 刑法3 構成要件、違法性、責任とは何かについて理解する</p> <p>第15回 まとめ 法学の講義を通して得られた知識を振り返り、以後学習する医療関連法規・その他注目すべき法令の理解につなげる</p>
科目の目的	日本は、法治国家である。法治国家においては、法令が社会の仕組みを規定しており、その実施こそが社会を動かしているという過言ではない。したがって、諸君がこれから社会人として羽ばたいていくということは、いかに細かい法令であろうと「知りませんでした」では済まない世界に飛び込んでいくということでもある。法学を学ぶ意義はここにこそある。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法を中心とした日本の法システムの概要について理解する ・医療と法令の関わりについて理解する
関連科目	関係法規、社会福祉・地域サービス論
成績評価方法・基準	定期試験(70%)、授業内レポート(30%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回講義で扱った内容について目を通しておくこと(30分程度)
教科書・参考書	教科書：特にないが適宜に資料・統計などのプリントを配布する その他、一部法令について事前にプリントして用意すべき場合がある
オフィス・アワー	質問等があれば、講義中あるいは講義後に受け付ける
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	講義資料は当日配布するか、前日までにActive Academyにアップする

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
坂本 祐子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 家族をとらえる（1） 近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか あなたが考える家族とは①（小レポート）</p> <p>第2回 家族をとらえる（2） 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期 （小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第3回 家族の機能（1） 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障</p> <p>第4回 家族の機能（2） 生産機能 消費機能 社会的・個人的機能</p> <p>第5回 家族のつながり（1） 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化</p> <p>第6回 家族のつながり（2） 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り</p> <p>第7回 家族をめぐる制度 “夫婦別姓”とはどういう問題か あなたが考える家族とは②（小レポート）</p> <p>第8回 家庭経済（1） 家庭経済内部の4つの活動とその循環 （小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第9回 家庭経済（2） 生活とお金 ワーキングプア</p> <p>第10回 性別役割分業（1） 性別役割分業の始まり</p> <p>第11回 性別役割分業（2） 社会保障とジェンダー</p> <p>第12回 ワーク・ライフ・バランス（1） ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮</p> <p>第13回 ワーク・ライフ・バランス（2） 家庭責任をもつ人の仕事への支援</p> <p>第14回 ワーク・ライフ・バランス（3） 医療従事者としての成長と私生活の運営・充実 求められる家族への支援とは何か</p> <p>第15回 ふりかえり 家族とは 「家族」の存在や意味・社会のあり方</p>
科目の目的	<p>学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。【関心・意欲】</p>
到達目標	<p>1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する</p> <p>2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる</p> <p>3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる</p>
関連科目	法学（日本国憲法含む） 経済学 生活文化と医療 社会福祉・地域サービス論 地域ボランティア活動論
成績評価方法・基準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験70%・小レポート30%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyにより資料を配布するので、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にし、1週間で4時間半以上を自己学習に必要な時間の目安とする。
教科書・参考書	使用しない
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、各自必ず印刷して授業に持参すること。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
鈴木 英恵			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明をします。生活文化を軸に、人びとの病いに対する考えを理解します。</p> <p>第2回 医療民俗学について 民俗学（生活文化）からみた医療の特徴について学びます。</p> <p>第3回 人びとの暮らしと医療民俗学 病いをめぐる生活文化に焦点をあて、各地の医療習俗から人びとの病いの予防と治癒についてみていきます。</p> <p>第4回 民間信仰と石仏 路傍に佇む地藏、道祖神などの石仏は、人びとの信仰対象として造立されました。ここでは道祖神を取り上げ、石仏に込められた人びとの思いと信仰内容をみていきます。あわせて、現代社会に機能する石仏についても考えていきます。</p> <p>第5回 名づけとキラキラネーム 伝承的な名づけと、現代的な名づけといえるキラキラネームの命名方法と特徴を理解します。</p> <p>第6回 いのちと生死の表現 テキストを中心に『徒然草』、熊野観心十界曼荼羅図など、文学作品や絵画に描かれた生死の資料を取り上げてその内容を理解します。</p> <p>第7回 いのち観と人生儀礼 「いのち」とは何かをじっくり考える機会を持ちます。テキストの内容から、人の一生について、年齢を重ねるなかで人生の節目となる各種儀礼を取り上げて考えます。</p> <p>第8回 霊魂が宿るもの 私たちが普段何気なく使う物には、霊魂が宿るといわれています。テキストの内容を中心に、物に宿る霊魂観を理解します。</p> <p>第9回 老いと生きがい 地域社会に伝承する獅子舞の担い手は、主に高齢者の人が活躍しています。獅子舞を軸に、健康維持と生きがいについて考えてみます。</p> <p>第10回 長寿祝いと民俗 テキストに沿って全国各地の長寿祝いの方法と、高齢化社会を象徴する人生儀礼をみていきます。老いと福祉に関することも学びます。</p> <p>第11回 映像鑑賞 盲目の旅芸人瞽女 三味線を持ち、越後や北陸地方の村々をめぐる瞽女さんの生活様式についてみていきましょう。</p> <p>第12回 病いと民俗 病い治癒祈願をめぐる暦と、生活の関係を理解します。</p> <p>第13回 看取りと死 人は最後のときを迎えるにあたり、どのような思いを持つのかを考えてみましょう。家族や知人の臨終に際し、残された人はどのような行動をするのか、テキストを中心にその心情を考えます。</p> <p>第14回 先祖供養と葬送 現代社会の供養は、さまざまな形態と方法がみられます。地域社会に伝承する先祖供養の生活文化について考えます。</p> <p>第15回 まとめ（課題提出の説明） 本授業では「死生観」についてレポートを提出してもらいます。今後、医療従事者として患者やその家族と接する機会があると考えます。レポートでは、自らが「死生観」を考え、生を探求することで、どのような最期を迎えたいかを書いてもらいます。「死生観」に対する自分の考えを知ること、患者の気持ちを理解し、その家族の心理・精神的な面を考慮し接することが出来ると考えます。授業のなかでレポート課題の書き方と説明をします。</p>
科目の目的	本授業では、私たちの身近な暮らしから医療にかかわる事柄を取り上げ、ひとつずつ丁寧に紹介していきます。人は病いにかかると現代医療を受ける一方で、健康を願ってまじないや御守り、護符などを心の拠り所としています。普段見過ごしてしまう日常生活に目を向けることで、日々の生活と医療の繋がりを言及します。現代医療の諸問題にも触れ、患者や家族の心理・精神的な面を考慮できる保健医療従事者になることを目的とします。【関心・意欲】
到達目標	現代社会にみられる伝統的な習俗や儀礼を学ぶなかで、医療と関わりの深い生活文化と教養を身につけます。何気なく見過ごしてしまう日常生活に関心を持つことで、医療従事者としてのいろいろな視点から物事を捉え、豊かなコミュニケーション能力を保持することを目標とします。
関連科目	生命倫理、社会学
成績評価方法・基準	試験（80%）、課題提出（20%） 試験の点数に関わらず、課題提出は必須です。

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	毎日の生活のなかで、医療に関連すること（健康維持と回復、病いの予防と治療など）に興味を持ってください。人は生きている限り、病いと向き合って日々を過ごします。自分が病いにかかったとき、どのような行動をするのかを考えてみましょう。また身近な人たち（父母、祖父母、知人など）はどのように年齢を重ね、人生の節目を迎えたのか関心を寄せましょう。自分の周りを注意深く観察し、その意味を考えることで「何故」という疑問点を発見することが出来ます。授業前に、90分ほど時間をかけてテキストをじっくり読み、授業内容と合わせて自分なりの考えをまとめてみてください。
教科書・参考書	教科書：板橋春夫 2010『叢書・いのちの民俗学3 生死 看取りと臨終の民俗 ゆらぐ伝統的生命観』社会評論社 参考書1：福田アジオ他編 2011『図解案内 日本の民俗』吉川弘文館 参考書2：今村充夫 1983『日本の民間医療』弘文堂
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
飯島 正義			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 経済学で何を学ぶのか 経済学を学ぶことの意義、授業内容と進め方、成績評価等について説明します。</p> <p>第2回 経済学の歩み アダム・スミスからケインズまでの流れを取り上げます。</p> <p>第3回 国民経済の仕組み 経済の3主体（家計・企業・政府）とその関係について説明します。</p> <p>第4回 市場メカニズム 市場メカニズムとは何か、市場メカニズムのメリット・デメリットについて説明します。</p> <p>第5回 景気循環 景気循環とは何か、日本の「景気指標」を読んでいきます。</p> <p>第6回 物価 物価とは何か、物価指数、インフレ・デフレと私たちの生活について説明します。</p> <p>第7回 政府の役割 市場の失敗の是正、経済の安定化について説明します。</p> <p>第8回 金融政策と経済の安定化 金利政策、公開市場操作政策、預金準備率操作政策、金融の量的緩和策について説明します</p> <p>第9回 財政政策と経済の安定化 税制、財政支出、日本の財政状況について説明します。</p> <p>第10回 国内総生産（GDP）（1） 国内総生産とは何か、三面等価の原則について説明します。</p> <p>第11回 国内総生産（GDP）（2） 三面等価の原則の視点から「国民経済計算」（内閣府）のデータを読んでいきます。</p> <p>第12回 経済成長 経済成長とは何か、成長の要因、日本の経済成長の推移を確認します。</p> <p>第13回 貿易・国際収支（1） 貿易に関する理論、国際収支とは何か、日本の貿易・国際収支の現状を「国際収支表」で確認します。</p> <p>第14回 為替レート 為替レートとは何か、為替レートの変動と日本経済への影響について説明します。</p> <p>第15回 少子高齢化と日本経済 少子高齢化とは何か、少子高齢化が今後の日本経済にどのような影響を及ぼすのかについて説明します。</p>
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは、私たちの経済生活そのものを知ることにつながります。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の基礎知識を身につけることができます。 2. 経済学の基礎知識を使って、現実の経済ニュース等を理解できるようになります。
関連科目	特にありません。
成績評価方法・基準	授業内における小テスト40%（2回、プリント参照可）、定期試験60%で総合的に評価します。 なお、小テストのプリントは授業時に回収し、次週返却します。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	プリント資料で前回の授業内容を復習すると共に、次回の授業内容をシラバス、Web上の資料で大筋をつかんでおいて下さい。その際、授業で紹介する参考文献等を利用して2時間復習・予習にあてて下さい。
教科書・参考書	教科書は使用しません。授業ではプリント資料を使います。また、参考書については必要に応じて紹介します。
オフィス・アワー	授業の前後の時間に講師室で対応します。
国家試験出題基準	該当しません。
履修条件・履修上の注意	授業資料をWeb上に添付しますので、各自印刷して持参して下さい。なお、資料の添付期間は前回授業翌日から2週間とします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
竹澤 泰子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ボランティア活動の歴史と変化 ボランティア活動が時代により変化していることについて述べる。</p> <p>第2回 経験談の発表 学生各自が経験したボランティア活動について発表を行う。その経験を分析して学んだ点や問題点を考察する。</p> <p>第3回 エゴグラム の記入 記入したエゴグラムから自己分析を行い、ボランティア活動時や将来の就労時に必要な、自己の性格を客観的に把握する。</p> <p>第4回 経験談1 (持田みね子氏) 群馬県下で人形劇、防犯寸劇、コーラス、講演会等多種類の活動に従事し、多年代層に受け入れられているゲストスピーカーを招聘する。</p> <p>第5回 経験談2 (久保田光明氏) 3.11東日本大震災後、数十回の炊き出し、生活用品支援、わかめ販売促進活動支援等に従事し、カンボジアに小学校を十数校建設した実績をもつゲストスピーカーを招聘する。</p> <p>第6回 ボランティア活動の分析 ゲストスピーカー2名の経験談を分析し、ボランティア活動を行う上での注意点や問題点を考察する。</p> <p>第7回 専門職のボランティア活動 国内における専門職ボランティアの活動量の少なさに着目し、原因探求と将来への対応の仕方について討論する。</p> <p>第8回 ボランティア活動の紹介・日米の活動比較 講師が行うテディベアギフトリング (悲しい経験をした方々へベアの温もりと優しさを与える活動) について紹介する。また、日米でのボランティア活動の違いについて考察する。</p>
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の多様性を理解する。 ・心の温もりがボランティアの基礎である事を認識する。 【関心・意欲】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会、地域社会のニーズと連携に目を向け貢献しつつ、学生自らの将来像、医療人としての職業観の確立の基礎作りができる。 ・ボランティア活動の学習から、自分の性格を再考し、他人への思いやりの気持ちを生むことができる。
関連科目	なし
成績評価方法・基準	レポート (100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容を分析し把握できるように、自分の価値基準を確立しておくこと。なお、自分の意見提示ができることが望ましい。準備学習に必要な時間の目安：1コマあたり4時間
教科書・参考書	使用しない
オフィス・アワー	授業の前後 (場所：非常勤講師室)
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
西菌 大実			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 環境とは 環境問題の範囲と背景</p> <p>第2回 地球の環境の構造 地球の自然の成り立ち</p> <p>第3回 生活を支える資源 再生可能資源と再生不能資源</p> <p>第4回 環境問題の変遷 公害問題から地球環境問題へ</p> <p>第5回 典型七公害 足尾鉍毒、四大公害病</p> <p>第6回 有害物質による環境汚染 イタイイタイ病を事例として</p> <p>第7回 水質汚濁（Ⅰ） 水質汚濁の原因、生活排水、BOD</p> <p>第8回 水質汚濁（Ⅱ） 水質汚濁の対策、下水道と浄化槽、多自然川づくり</p> <p>第9回 オゾン層破壊 オゾン破壊物質、紫外線</p> <p>第10回 気候変動（Ⅰ） 温室効果ガス、気候変動の状況と見通し</p> <p>第11回 気候変動（Ⅱ） 予防原則、先進国・途上国の責任、パリ協定</p> <p>第12回 エネルギー問題 1次エネルギー、再生可能エネルギー</p> <p>第13回 廃棄物問題 一般廃棄物、産業廃棄物、感染性廃棄物</p> <p>第14回 循環型社会 3R、熱回収</p> <p>第15回 持続可能社会 再生可能資源中心の社会づくり</p>
科目の目的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境問題の背景と発生原因への理解 2. 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3. 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自筆ノートの整備、30時間
教科書・参考書	使用しない（プリント配布）
オフィス・アワー	授業の前後・昼休み、非常勤講師室
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤久美子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ヒトへの進化 生命を支える物質（1） ①生命の誕生と進化、ヒトへの進化について概説 ②生命現象の普遍的な特質、一様性、多様性、連続性について ③生命活動に主要な役割を持つ構成成分(1) ・水の重要性 ・タンパク質</p> <p>第2回 生命を支える物質（2） 生命活動に主要な役割を持つ構成成分(2) ・炭水化物（糖質） ・脂質 ・核酸 ・無機質（無機塩類）</p> <p>第2回・3回 生命の単位 ①ウイルス、原核細胞（細菌類を含む）、真核細胞 ②真核細胞の構造と機能 ・細胞膜の構造と機能 ・細胞質基質の役割 ・核の構造と機能 ・粗面小胞体の構造と機能 ・滑面小胞体の構造と機能 ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソソーム ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリア ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割</p> <p>第4回・5回 細胞の増殖・生殖細胞の形成 ①細胞周期 ②間期（S期、G2期、G1期） ③細胞周期の調節 ④分裂期（M期） ・体細胞分裂～染色体の構造、娘細胞への染色体（遺伝子）の分配～ ・減数分裂～生殖細胞の形成～と配偶子の形成～</p> <p>第6・7回 受精、発生、分化 ①無性生殖と有性生殖 ②受精 ③発生と分化のしくみ 卵割と胞胚形成 ④胚葉形成（中期胞胚変（遷）移と母性胚性変（遷）移） ⑤器官形成 ⑥形態形成とアポトーシス</p> <p>第8回 ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則と形質の遺伝 ①ヒトの染色体と遺伝子 ②メンデルの法則と形質の遺伝 ③A B O血液型の遺伝 ④家系図の書き方 ⑤遺伝病の原因——遺伝子変異</p>
科目の目的	高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、医療系専門職の専門課程の学習を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。特に生物学Aでは生体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能、細胞の増殖と生殖細胞の形成などを学び、さらに生命の連続性を担保する受精、発生、形質の遺伝について知識を深めることを目的とする。【知識・理解】
到達目標	ヒトの生命活動の全体像を理解するために次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①生命の起源からヒトへの進化、生命現象の特質について理解する。 ②細胞構成成分である水の重要性を理解し、タンパク質、糖、脂質、核酸、無機質について説明できる ③細胞の構造、細胞構成成分、細胞内小器官の働きや仕組みを理解する ④細胞の周期とその調節、体細胞分裂と減数分裂を図示して詳細に説明できる。 ⑤生殖、発生、分化のしくみ、形態形成とアポトーシスについて理解する。 ⑥ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則とヒト正常形質の遺伝について説明できる。
関連科目	化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学
成績評価方法・基準	定期試験の成績（75%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（25%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社） 参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルー--バックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける。

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	生物学全般、特に生命活動を支えるエネルギーの産生や基礎生物学分野の研究が医療に生かされている現状、ヒトの遺伝などを理解するために、後期に開講される生物学Bを併せて履修することが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤久美子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回・2回 生命活動とエネルギー</p> <p>①酵素の性質と酵素反応 ②生命活動とエネルギー</p> <p>・光合成：光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す過程について ・人工光合成研究開発の現状と未来計画 ・呼吸：生体のエネルギー産生とミトコンドリアの役割（解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生）について</p> <p>・外呼吸と内呼吸の関係 ・動物と植物のエネルギー連関～光合成と呼吸～</p> <p>第3回・4回 遺伝－ヒトを中心に－その1</p> <p>①DNA複製のしくみ ②DNAの変異と修復 ③遺伝情報発現のしくみ ④原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール ⑤性染色体の不活性化 ⑥エピジェネティクス</p> <p>第5回・6回 遺伝－ヒトを中心に－その2</p> <p>①単一形質（メンデル形質）で発現する遺伝病 ・常染色体性優性遺伝病、・劣性遺伝病と伴性遺伝病 ・保因者、患者の出現頻度－ハーディーワインベルグの法則の有用性－ ②多因子遺伝病 ③染色体異常 ④ミトコンドリア病 ⑤体細胞遺伝病</p> <p>第6回・7回 ヒトの受精と初期発生</p> <p>①ヒトの配偶子形成：減数分裂と遺伝子の組み換え、精子と卵子の形成 ②受精：精子の先体反応、受精と多精拒否の機構 ③胚盤胞の形成と着床 ・始原生殖細胞の形成 ・内細胞塊の分化と胚葉の形成 ⑤胚葉の分化 ⑥前胚子期と胚子期 ⑦発生をつかさどる遺伝子 ⑧先天異常発生の要因</p> <p>第8回 細胞科学の先端研究と医療への応用</p> <p>①オミックス解析の現状と課題 ②細胞内タンパク質の再利用 ・ユビキチン－プロテアソーム系 ・オートファジー ③iPS細胞 基礎研究と応用研究の進捗状況 ④細胞周期調節のしくみとがん化 ⑤細胞分裂の限界と老化</p>
科目の目的	<p>高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、保健医療の専門職として、先進・高度化しつつある専門領域の学習を理解するために必要な生命科学の基礎知識を深めることを目的とする。本講義では、生物学Aで学んだ知識をベースに、生命活動を支えるエネルギー獲得、真核細胞のDNA複製や遺伝子の情報発現、情報発現の調節などを詳しく学ぶ。また、ヒトの遺伝病、先天異常及びヒトの初期発生について学ぶ。さらに医療分野に直接関連する基礎生物学分野の研究進捗状況について理解する。【知識・理解】</p>
到達目標	<p>生物学Aの学習内容を基礎として次の事項を理解し、説明できる力を身につける。</p> <p>①光合成によるエネルギー獲得の詳細と呼吸による生命活動のエネルギー産生について詳細に説明できる。 ②真核細胞におけるDNAの複製、遺伝情報発現、情報発現コントロール、DNAの変異などについて知識を深める。 ③ヒトのメンデル様式による遺伝病およびそれ以外の要因による遺伝病について学び、説明できる。 ④ヒトの受精、発生初期における細胞分裂の詳細と形態形成及び先天異常発生の要因について学び、説明できる。 ⑤細胞科学の先端基礎研究と医療分野との関連について理解し、説明できる力を身につける。</p>
関連科目	生物学A、化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学
成績評価方法・基準	定期試験の成績（75%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（25%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書・参考書	<p>教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社）</p> <p>参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻 D. サダヴァ他著 ブルーバックス（講談社）</p>

	3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝 (羊土社)
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	生物学Aを履修していることが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
井上 浩一			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 数と式 多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。</p> <p>第2回 方程式と不等式 1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す</p> <p>第3回 2次関数 関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。</p> <p>第4回 図形と計量 三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。 生活の中でそのセンスを磨くことを考える。</p> <p>第5回 個数の処理 集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。</p> <p>第6回 確率 事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。</p> <p>第7回 論理と命題 命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。</p> <p>第8回 基礎統計学 統計学の基礎的な概念と方法を学ぶ。</p>
科目の目的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、医療従事者として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。具体的には、数と式、方程式と不等式、二次関数、図形と軽量、場合の数と確率、基礎統計学について学ぶ。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な数学の概念の復習をする。 2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。
関連科目	数学B、化学A・B、物理学A・B、医療統計学、生体計測工学
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学教科書の相当部分を読んでから講義に臨めばより効果的であるが、予習よりも講義内容の復習を期待する。前回の内容が定着したかどうかを確認しておくことが、次の講義の準備学習である。 ・1コマあたりの学習時間の目安は4時間
教科書・参考書	教科書・参考書：特になし。 毎回、講義内容に関連する内容のプリントを準備し、Active Academyで配布する。 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 配布方法：各自印刷して授業に持参すること
オフィス・アワー	授業前後の休憩時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲があれば数学Bも履修することが望ましい。 ・毎回、講義内容に関連する内容のプリントを準備し、Active Academyで配布する。 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 配布方法：各自印刷して授業に持参すること

講義科目名称：数学B

授業コード：2P020

英文科目名称：Mathematics B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
井上 浩一			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 三角関数 一般角と弧度法。三角関数の加法定理。三角関数の合成。和と積の変換。</p> <p>第2回 複素数 複素数の導入と計算方法。複素共役。極座標表示と回転。</p> <p>第3回 指数関数と対数関数 指数法則。実数のべき。対数の導入。対数法則。</p> <p>第4回 ベクトルと行列 ベクトルの導入。行列の基本的な性質。</p> <p>第5回 微分の導入 微分の定義。整式の微分。</p> <p>第6回 微分の基本性質 積の微分。合成関数の微分。三角関数の微分。</p> <p>第7回 積分の導入 不定積分。定積分。</p> <p>第8回 積分の応用 部分積分。微分方程式。</p>
科目の目的	<p>医療従事者には、個々の患者の生理的状態や疾病状態、患者集団の動向などを種々のデータによって定量的にとらえ、分析・評価する能力が求められる。また患者への治療・検査刺激の量的な理解と評価も重要である。本科目はそれらのための基礎的数学知識の確認に加えて、発展的な知識を身につけ、専門科目の円滑な理解につなぐことを目指す。具体的には、三角関数、複素数、指数関数、対数関数、ベクトルと行列、微分・積分、微分方程式、部分積分などについて学ぶ。</p> <p>【知識・理解】</p>
到達目標	<p>1. 医療や科学を学ぶためのやや進んだ数学的な知識と技能を学ぶ。</p> <p>2. 数理現象を理解したり、評価したり、扱ったりする数学的なセンスを養う。</p>
関連科目	数学A、化学A・B、物理学A・B、医療統計学、生体計測工学
成績評価方法・基準	筆記試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学の教科書の該当する部分を読んでから講義に臨めばより効果的であるが、受講生には予習よりも、講義の復習を期待する。前回学んだ内容を理解し復習しておくことが次の講義の準備となる。 ・1コマあたりの学習時間の目安は4時間
教科書・参考書	<p>教科書・参考書：特になし。</p> <p>毎回資料を作成し、Active Academyで配布する。</p> <p>配布期間：前回授業翌日から当該日まで</p> <p>配布方法：各自印刷して授業に持参すること</p>
オフィス・アワー	授業前後の休憩時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Aも履修することが望ましい ・毎回資料を作成し、Active Academyで配布する。 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 配布方法：各自印刷して授業に持参すること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
日置 英彰			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 化学の立場から医療を考える 歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。</p> <p>第2回 物質の成り立ち 物質を構成している分子と原子の構造、原子軌道、分子軌道について解説する。</p> <p>第3回 元素と周期表 自然にはどのような元素があるのか、元素の分類と周期表の読み方について解説する。</p> <p>第4回 イオン イオンとイオン結合の原理、生体内でのイオンの役割について解説する。</p> <p>第5回 共有結合化合物と有機分子 生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異な形、一般的な性質について解説する。</p> <p>第6回 水の性質と物質の状態変化 ヒトの体の半分以上を占める水の性質と浸透や物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。</p> <p>第7回 酸と塩基 酸、塩基、緩衝液について解説する。</p> <p>第8回 酸化と還元 物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。</p>
科目の目的	地球上に生きるすべての生命を持つものを物質から見れば、巨視的に見えるものから究極を突き詰めれば見えないものは原子や分子の世界まで行きつくことになる。本科目では、物質の科学であると言われる化学について、物質についての基本的な事項を高校化学の基礎にさかのぼり学び、専門課程の理解のための基礎的知識を身につけることを目的とする。 [知識・理解]
到達目標	専門課程で学習する内容を理解するために、化学分野の基礎的知識を習得する。
関連科目	生化学
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出題されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特に指定なし
オフィス・アワー	講義前後の時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
日置 英彰			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 病気と闘う化学物質 くすりは体の中でどのように作用するのか概説しながら、医療と化学がどのように関わっているのか考える。</p> <p>第2回 生体内ではたらく有機化合物 ホルモンや神経伝達物質をはじめ多くの有機化合物が生命活動を維持する上で重要な役割を果たしている。これら有機化合物の性質を官能基別に解説する。</p> <p>第3回 生体高分子 糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。</p> <p>第4回 合成高分子 医療機器には多くの高分子素材が使われている。各種合成高分子の性質と医療機器への応用について解説する。</p> <p>第5回 化学反応の速度 化学反応の速度の測定方法、速度に影響を与える要因について解説する。</p> <p>第6回 触媒と酵素 生体内の化学反応は酵素が触媒している。化学反応における触媒の役割、酵素の構造と触媒作用について解説する。</p> <p>第7回 化学分析 化学分析の原理を学ぶ。医学で利用されている分析法についても触れる。</p> <p>第8回 放射線と放射能 放射性崩壊と半減期、医療における放射性同位体の利用について解説する。</p>
科目の目的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基本的知識を習得する。 [知識・理解]
到達目標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。
関連科目	生化学
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出题されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義前後の時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特にありません。

講義科目名称：物理学A

授業コード：2P023

英文科目名称：Physics A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
佐藤 求			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 物理量の次元と単位 補助単位、組立単位、同次元の単位の変換。</p> <p>第2回 静止系 力の釣り合い、モーメントの釣り合い、バネの力。</p> <p>第3回 運動 瞬間の速度、加速度。等速直線運動、等加速度運動。</p> <p>第4回 運動方程式 1 力学の問題の標準的な手続き。</p> <p>第5回 運動方程式 2 坂道、バネなどの典型問題。</p> <p>第6回 仕事とエネルギー 位置エネルギー、運動エネルギー、弾性エネルギー。エネルギー保存則。</p> <p>第7回 円運動 等速円運動。</p> <p>第8回 バネと単振動 単振動</p>
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 高校物理を履修済みの学生にとっても新たな発見があるよう、別の視点の紹介も行う。 [知識・理解]
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。 分野は概ね初等力学。
関連科目	物理学B、運動学I・II、物理療法学
成績評価方法・基準	定期試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分の演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度（定期試験前の復習は別
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：新しい高校物理の教科書 ー現代人のための高校理科（講談社ブルーバックス）山本 明，左巻 健男
オフィス・アワー	講義の前後、講義日の昼休み。4号館まで来るならいつでも。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：物理学B

授業コード：2P024

英文科目名称：Physics B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
佐藤 求			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 熱現象 1 熱と温度、比熱</p> <p>第2回 熱現象 2 気体の状態方程式、仕事と熱</p> <p>第3回 熱現象 3 気体分子運動論</p> <p>第4回 波動 1 回折、屈折、波の式、干渉</p> <p>第5回 波動 2 ドップラー効果</p> <p>第6回 電気の基礎 1 抵抗回路の基礎、電位の概念</p> <p>第7回 電気の基礎 2 キルヒホッフの法則、電力</p> <p>第8回 電磁波・放射線 電磁波と各種核崩壊</p>
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 物理学Aに続き熱と波動、電気の基礎を学ぶ。 [知識・理解]
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。
関連科目	物理学A、運動学I・II、物理療法学
成績評価方法・基準	定期試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分のプリントの演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：新しい高校物理の教科書 一現代人のための高校理科 (講談社ブルーバックス) 山本 明, 左巻 健男
オフィス・アワー	講義の前後、講義日の昼休み。4号館まで来るならいつでも。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
高坂 徳子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 Introduction、Self Introduction 授業の説明、自己紹介</p> <p>第2回 Lesson 1 Global Warming and Climate Change videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第3回 Lesson 1 Global Warming and Climate Change topicについての英文読解。グループワーク：調べてまとめる。 Tips1: 図書館での検索方法</p> <p>第4回 Lesson 2 Diet and Health and Long Lives videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第5回 Lesson 2 Diet and Health and Long Lives topicについての英文読解。グループワーク：調べてまとめる。 Tips 2: インターネットによる検索方法</p> <p>第6回 Lesson 3 Self-Driving for the Future videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第7回 Lesson 3 Self-Driving for the Future topicについての英文読解。グループワーク：インタビューする。 Tips 3: インタビューの方法</p> <p>第8回 Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第9回 Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species topicについての英文読解。グループワーク：ペアワークを行う。 Tips 4: ペアワークを円滑に進める方法</p> <p>第10回 Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第11回 Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts topicについての英文読解。グループワーク：アイデアを出しまとめる。 Tips 5: BrainstormingとKJ法</p> <p>第12回 Lesson 6 IT and Education videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第13回 Lesson 6 IT and Education topicについての英文読解。グループワーク：調べてまとめる。 Tips 6: グループワークの際の役割</p> <p>第14回 Lesson 7 Protection from Natural Disasters videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第15回 Lesson 7 Protection from Natural Disasters topicについての英文読解。グループワーク：調べてまとめる。 Tips 7: グループ内の話し合いを活性化化する思考のヒント</p>
科目の目的	専門分野の英語に取り組むための基礎力、とくにリーディング力とリスニング力を養成する。英語を学ぶことを通して、将来の医療従事者として、人間や社会に対する興味・関心の幅を広げ、興味・関心を持った事柄に関して調べ、自分の意見を持ち、それらを表現する。【技能・表現】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストや各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。 ・テキストのトピックについて調べ、自分の意見を持ち、グループ内での討論を通じて、他者の意見も聞き、まとめ、発表することができる。 ・テキストやgraded readerの音声を聴いて、単語や文章を聴き取り、発音することができる。 ・extensive readingの目標は10,000words。口語表現や日常生活での英語表現が理解でき、使うことができる。
関連科目	医療英語会話、医療英語リーディング、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング
成績評価方法・基準	前期末試験（50%）、グループワーク（30%）、extensive reading（10%）、web学習（10%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：個人として、次回に学習する範囲の英文や英単語の音声を聴く。読んでわからない単語は、辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。グループワークにおいては、グループでの話し合いに向けての準備をする。</p> <p>復習：その日に学習したことを整理し、英語構文を理解する。Web学習により、単語や文法の定着を図る。</p> <p>予習・復習合わせて約90分。</p> <p>extensive readingについては、目標達成に向けて、各自のペースで計画的に進める。</p>

教科書・参考書	教科書：AFP World Focus—Environment, Health, and Technology—『AFPで見る環境・健康・科学』 宋戸真、Kevin Murphy、高橋真理子（成美堂）2017年。
オフィス・アワー	質問は講義の前後に受け付ける。（非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておくこと。 英和辞典を必ず持参すること。電子辞書でも構わない。携帯電話の辞書機能は不可とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
David Andrews			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 Introduction/Icebreaking Introduction to the course, class format, expectations, syllabus, and grading scale, as well as personal introductions</p> <p>第2回 Unit 1: Meeting patients</p> <p>第3回 Quiz (short test) on Unit 1 + Unit 2: Taking a medical history</p> <p>第4回 Quiz (short test) on Unit 2 + Unit 3: Assessing symptoms</p> <p>第5回 Quiz (short test) on Unit 3 + Part I of Unit 4: Taking vital signs + Prepare for Presentations</p> <p>第6回 Presentations + Part II of Unit 4: Taking vital signs Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 1-4.</p> <p>第7回 Unit 5: Taking a specimen</p> <p>第8回 Quiz (short test) on Unit 5 + Unit 6: Conducting a medical examination</p> <p>第9回 Quiz (short test) on Unit 6 + Unit 7: Assessing pain</p> <p>第10回 Quiz (short test) on Unit 7 + Part I of Unit 8: Advising about medication + Prepare for Presentations</p> <p>第11回 Presentations + Part II of Unit 8: Advising about medication Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 5-8.</p> <p>第12回 Unit 9: Improving Patients' mobility</p> <p>第13回 Quiz (short test) on Unit 9 + Unit 10: Maintaining a good diet</p> <p>第14回 Quiz (short test) on Unit 10 + Unit 11: Caring for inpatients</p> <p>第15回 Unit 12: Coping with emergencies + Prepare for Final Presentation</p>
科目の目的	Medicine is undeniably a global field in which ideas are shared in the international language of English. This course will introduce students to helpful communication strategies and explore communicative skills in English that are of particular relevance to the field of medicine. [技能・表現]
到達目標	Students will be able to: 1) handle a wide variety of medical situations using English, 2) understand and actively use accepted terminology and phraseology to explain and discuss major medical topics, and 3) build a foundation in medical English upon which to further their studies toward becoming professionals in their chosen field of medicine.
関連科目	Related to all English courses
成績評価方法・基準	<p>1. Participation (20%) During each class session, we will discuss issues and questions related to the weekly chapter.</p> <p>2. Mini-presentations (20%) Students will prepare and give presentations in pairs on relevant topics.</p> <p>3. In-class quizzes (40%) These will cover material from the text.</p> <p>4. Final presentation (20%) Students will prepare and give presentations on relevant topics.</p>

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	Each week we will practice and review a chapter from the text. Please read the dialogue, understand key vocabulary, and be prepared to speak in class. Each chapter will require about 30 minutes on your own to review and study. In addition, you will need about 5 hours during the semester to prepare for presentations.
教科書・参考書	Caring For People
オフィス・アワー	During lunch of class day
国家試験出題基準	
履修条件・履修上 の注意	Be prepared to speak in class individually, in pairs, and in small groups. Review the vocabulary and grammar from the text in order to use it in class. This syllabus is subject to change.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
高坂 徳子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 Introduction、Self Introduction 授業の説明、自己紹介</p> <p>第2回 Unit 1 Medical Professional Communication Skills topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 1</p> <p>第3回 Unit 1 Medical Professional Communication Skills topicの英文読解、内容の把握。医療コミュニケーションに関する英語表現。listening practice 接頭辞と接尾辞 2</p> <p>第4回 Unit 2 The Internet and Self Diagnosis topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 3</p> <p>第5回 Unit 2 The Internet and Self Diagnosis topicの英文読解、内容の把握。一般的疾患の英語表現。listening practice 接頭辞と接尾辞 4</p> <p>第6回 Unit 3 Resistant Diseases and Drug Economics topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 5</p> <p>第7回 Unit 3 Resistant Diseases and Drug Economics topicの英文読解、内容の把握。治療に抗生物質が使われる疾患の英語表現。listening practice 接頭辞と接尾辞 6</p> <p>第8回 Unit 4 Death and Dying topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 7</p> <p>第9回 Unit 4 Death and Dying topicの英文読解、内容の把握。老年期医療の英語表現。listening practice 接頭辞と接尾辞 8</p> <p>第10回 Unit 5 Sleep in the 21st Century topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 9</p> <p>第11回 Unit 5 Sleep in the 21st Century topicの英文読解、内容の把握。睡眠と認知機能に関する英語表現。listening practice 接頭辞と接尾辞 10</p> <p>第12回 Unit 6 How Medicine Works in Your Body topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 11</p> <p>第13回 Unit 6 How Medicine Works in Your Body topicの英文読解、内容の把握。薬物接種に関する英語表現。listening practice 接頭辞と接尾辞 12</p> <p>第14回 Unit 7 Gut Microbiota: Flower Garden inside You topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 13</p> <p>第15回 Unit 7 Gut Microbiota: Flower Garden inside You topicの英文読解、内容の把握。消化に関する英語表現。listening practice 接頭辞と接尾辞 14</p>
科目の目的	専門分野の英語に取り組むためのリーディング力とリスニング力の養成と強化。 医療系の基本的英語語彙力と英語表現力の強化。【技能・表現】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療全般に関するトピックを読み、構文を正しくとらえ、内容を理解することができる。 ・テキストの音声を聴くことにより、単語や文章を正しく聴き取ることができる。 ・医療の基本的英単語や英語表現を覚え、声に出して読んで書くことができる。
関連科目	英語リーディング、医療英語会話、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング
成績評価方法・基準	後期末試験（90%） 医療英単語テスト（10%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：次回に学習する範囲の英文、英単語の音声を聴く。英文を読んでわからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。</p> <p>復習：その日に学習したことを整理し、英語構文を理解する。英単語、英語表現は覚え、正しく発音できるように音声教材をよく聴き、また、正しく書けるまで練習する。</p> <p>予習・復習合わせて約90分。</p>
教科書・参考書	教科書：The World of Medicine『医学・薬学の世界』黒澤麻美、和治元義博、James A. Goddard（朝日出版社）2018年。
オフィス・アワー	質問は講義前後に受け付ける。（非常勤講師室）
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておくこと。英和辞典を必ず持参すること。電子辞書でも構わない。携帯電話の辞書機能は不可とする。
-------------	--

講義科目名称：英語会話

授業コード：2P028

英文科目名称：General English Conversation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
Joseph Boland			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 Course introduction and procedures. Self Commonly used phrases and questions for use in class. Greetings and introductions, name order.</p> <p>第2回 Family Identifying family members and describing family relationships.</p> <p>第3回 Appearances Identifying && describing people through physical traits.</p> <p>第4回 Personality Identifying personal qualities and expressing opinions.</p> <p>第5回 Homes Understanding descriptions of homes. Describing homes and furnishings.</p> <p>第6回 Cities Understanding description of places and describing cities && landmarks. Understanding && giving directions.</p> <p>第7回 Travel & Sightseeing Identifying && describing locations in a country, region, or city. Planning a trip.</p> <p>第8回 Weather Understanding weather reports. Identifying && understanding weather, climate, and related natural phenomena.</p> <p>第9回 Music Identifying likes && dislikes. Understanding and describing genres of music.</p> <p>第10回 Routines Understanding && identifying times, events, and schedules.</p> <p>第11回 Food & Dining Understanding && describing food. Ordering food at a restaurant.</p> <p>第12回 Sports Understanding && describing different kinds of sports.</p> <p>第13回 Entertainment Recognizing && giving invitations. Understanding && describing various forms of entertainment.</p> <p>第14回 Money & Finance Understanding numbers, currency, and personal finance.</p> <p>第15回 Plans Understand and discuss future plans and desires.</p>
科目の目的	The primary purpose of this course is to encourage and challenge students to use and improve their existing English ability. The course introduces students to practical strategies useful for communication in English. Though reading and writing English is an important aspect of this course, the emphasis is oral comprehension (listening) and communication (speaking).
到達目標	By the end of the course students will be able to communicate basic information about themselves and their surroundings. Students will learn to express practical needs and give instructions. Students will be able to communicate past experiences and future desires. Students will also learn to evaluate information critically and express opinions.
関連科目	All English courses.
成績評価方法・基準	Grades are based on class participation (30%), individual and group homework or projects (30%), quizzes (20%), and final exam (20%).
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Students are advised to study approximately 3 hours per week in preparation for each 90-minute lesson. Students will listen to typical English conversation audio recordings, study relevant grammar and vocabulary and complete exercises.
教科書・参考書	There is no textbook for this course. The instructor provides learning materials. The course will make extensive use of the Internet both in class and for individual study outside of class. Instructor assumes students own or have access to an Internet enabled device. Use of smartphone, tablet, or notebook computers in class is encouraged.
オフィス・アワー	Friday 14:45 to 15:30 at 4号館非常勤講師室, 15:45 to 16:10 at 1号館非常勤講師室 or by appointment.

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：英語アカデミックリーディング・ライティング 授業コード：2P029

英文科目名称：Academic Reading and Writing in English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
杉田 雅子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：中国語

授業コード：2P030

英文科目名称：Chinese

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
深町 悦子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 中国語とは？ 中国語の発音 発音、漢字、声調</p> <p>第2回 中国語の発音のきまり 単母音、複合母音</p> <p>第3回 子音の発音 子音と声調</p> <p>第4回 発音の復習 音節表の朗読</p> <p>第5回 第1課 今日 は 第2課 お入りください 発音の総復習</p> <p>第6回 第3課 お名前は何か 自分の名前を中国語で発音する</p> <p>第7回 第4課 今日は何月何日ですか 第5課 時間 数字、曜日、時間</p> <p>第8回 第6課 これはなんですか 中間レポート提出 本文と練習問題</p> <p>第9回 第7課と第8課 疑問文 本文と練習問題</p> <p>第10回 第9課と第10課 兄弟はいますか 本文と練習問題</p> <p>第11回 第11課と第12課 王先生はどこにいますか 本文と練習問題</p> <p>第12回 第13課と第14課 何人家族ですか 本文と練習問題</p> <p>第13回 第15課と第16課 どこに行きますか 本文と練習問題</p> <p>第14回 第17課 と第18課 中国語は話せますか 本文と練習問題</p> <p>第15回 第1課から第18課までの復習 総合復習</p>
科目の目的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。[技能・表現]
到達目標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができること。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	期末に筆記試験を行う。基準は筆記試験が80%、授業内にレポート及び感想文の提出が20%。提出されたレポートについては次回授業内でフィードバックを行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前の予習と授業後の復習をすること。1時限ごとに30分ぐらい必要である。発音の練習は必ずしっかりする事、特に四声については、CDを聞きながら発声して覚えるように。
教科書・参考書	教科書：高校中国語（改訂新版）（白帝社） 参考書：なし
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	教科書の購入が必要である

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
青木 順			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ハングルの読み方 基本母音 朝鮮半島、ソウル市などを簡単に紹介し、ハングルの由来、構造を簡単に説明。基本母音十個の読み方、基本母音を含んだ単語、挨拶言葉等を学習する。</p> <p>第2回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音四個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化として伝統料理を紹介する。</p> <p>第3回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音四個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。</p> <p>第4回 ハングルの読み方 激音（濃音と比較しながら） 濃音と比較しながら激音の読み方、激音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化として伝統茶を紹介する。</p> <p>第5回 ハングルの読み方 濃音（激音と比較しながら）、合成母音 激音と比較しながら濃音の読み方、合成母音の読み方、それらを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。</p> <p>第6回 ハングルの読み方 パッチム パッチムの読み方、パッチムを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化として食事のマナー、1歳の誕生日を紹介する。</p> <p>第7回 前半のまとめ 後半の文法の学習につながるように、前半に学んだハングルの読みをまとめ、復習する。</p> <p>第8回 「私は青木順です」① サンパッチム、連音の説明、練習を行う。</p> <p>第9回 「私は青木順です」② 「は」「です」「～と申します」という文法の学習、関連会話文の読み、訳を行う。文化として伝統家屋、伝統舞踊を紹介する。</p> <p>第10回 「私は青木順です」のまとめと「何人家族ですか？」① 韓国語での自己紹介を一人一人行う。 関連単語、「ます」「ますか」等の文法の学習と練習を行う。 文化として伝統的結婚式、楽器等を紹介する。</p> <p>第11回 「何人家族ですか」② 「お～になります」「が」「と」などの文法の学習と練習を行う。</p> <p>第12回 「何人家族ですか」③ 固有数字、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統遊びを紹介する。</p> <p>第13回 「すみません」① 関連単語、「～してください」、意志を含んだ「ます」等の文法の学習と練習を行う。</p> <p>第14回 「すみません」② 「いる（いない）」「ある（ない）」の説明と練習。 固有数字を使う助数詞、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統刺繍を紹介する。</p> <p>第15回 まとめ 後半の文法を中心にまとめ、試験問題の説明を行う。</p>
科目の目的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。（技能・表現）
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 正確な発音をマスターする。 挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。
関連科目	特になし。
成績評価方法・基準	課題への取り組み（40％）・期末テスト（60％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で学習した内容はその都度復習しておくこと。 外国語の学習は反復・継続することが何より大切なので、毎日10分でもよいので、積極的に取り組むこと。
教科書・参考書	講師作成教材使用予定（コピー）
オフィス・アワー	コリア語の授業のある日12:30～12:50非常勤教員室
国家試験出題基準	特になし。

履修条件・履修上の注意	講師作成の教材を使用する。 配布期間：前回の授業翌日から当該日まで。 持参方法：各自印刷して授業に持参すること（課題も含まれているため、印刷必須）。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
高 裕輔			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、ドイツ語のアルファベット、発音の特徴と規則①、表現① ドイツ語の学習のための導入、ドイツ語の発音の特徴、挨拶表現</p> <p>第2回 文法①、表現② 人称代名詞・動詞の現在人称変化と文の作り方（平叙文・疑問文）、自己紹介</p> <p>第3回 文法②、表現②、演習 名詞の性別と人称代名詞</p> <p>第4回 文法③、表現③ 名詞の性別と冠詞、ショッピング</p> <p>第5回 文法④、演習 人称代名詞・疑問代名詞の格変化、演習</p> <p>第6回 文法⑤ 不規則変化動詞</p> <p>第7回 文法⑥、表現④ 命令文、命令とお願い</p> <p>第8回 小テスト 第7回までの内容に関する小テスト</p> <p>第9回 小テスト返却・解説 小テスト解説</p> <p>第10回 文法⑦、表現⑤ 前置詞1、前置詞を使った表現1</p> <p>第11回 文法⑦、表現⑤ 前置詞2、前置詞を使った表現2</p> <p>第12回 文法⑧、演習 zu不定句</p> <p>第13回 文法⑨、演習 冠詞類1</p> <p>第14回 文法⑨、演習 冠詞類2</p> <p>第15回 文法⑩、まとめ 分離動詞、助動詞</p>
科目の目的	ドイツ語の初歩的な文法、基礎的な発音、会話表現の習得を主な目的とします。さらにこれら学習を通じて、これまで学習してきた英語以外に多様な言語があること、そして言語が多様なだけでなくその世界には多様な文化や風習があることを理解することが重要な目的となります。また、本科目は本学ディプロマ・ポリシーにおける「技能・表現」に示された能力向上の一環として行われます。
到達目標	ドイツ語文法の基礎的な知識・短い文の理解・簡単な会話表現の理解・運用。日本語やこれまで学習した英語との違いの認識。
関連科目	「多職種理解と連携」
成績評価方法・基準	期末試験（70%）、小テスト（20%）、宿題（10%）。積極的な参加が好ましいです。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習として、予習にはそれほど時間や労力を割く必要はありません（15分程度）が、復習が極めて重要であるため予習より多くの時間を費やしてください。また1度の復習だけでは記憶に定着しづらいため、数回に分けて行うのが良いでしょう（30分×3程度）。最初の復習はその日のうちに、授業から時間を置かずに行うことが望ましいです。また次の点に注意をしてください。</p> <p>①予習として、知らない文法用語や文法事項等をチェックしておき、授業の際に注意を向けられるようにしてください。</p> <p>②復習として、授業の内容を理解できているか確認し、また何が理解できていないかを把握する必要があります。理解の有無や不明確な部分は演習問題や宿題を通じて確認してください。また授業で使用した語や文あるいは表現は、できるだけ次の授業までに覚えるようにしてください。</p>
教科書・参考書	ドイツ語一步一步 (Deutsch lernen -Einen Schritt weiter-) ISBN: 9784261012583
オフィス・アワー	主に授業の前夜
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	学習のため小さいものでよいので独和辞典を用意してください。授業中には辞書は使用しません。授業へは積極的な参加が好ましいです。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
宮入 亮			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ポルトガル語について ポルトガル語の読み方</p> <p>第2回 自己紹介ができる 自己紹介の表現 国籍の表現 動詞ser (be動詞) 疑問文と否定文</p> <p>第3回 好きなものを伝えることができる 趣味の表現 色の表現 動詞gostar</p> <p>第4回 家族を紹介することができる 家族の表現 動詞の現在形(規則・不規則)</p> <p>第5回 予定の表現や約束の表現ができる 誘いかげの表現 曜日の表現 動詞ir</p> <p>第6回 今おこなっていることの表現、天気の表現ができる 進行の表現 天候の表現 動詞estar</p> <p>第7回 週末にしたことを表現できる 過去の表現 動詞の完了過去形(規則・不規則)</p> <p>第8回 過去の習慣の表現ができる 子どもの頃の習慣の表現 動詞の未完了過去形</p> <p>第9回 「もし～だったら」と誘う表現ができる 「もし～だったら」、「～する時は」の表現 誘う表現 動詞の接続法未来形</p> <p>第10回 指示や命令の表現ができる 道案内の表現 指示やお願いの表現 動詞の命令法</p> <p>第11回 願望や要求の表現ができる したいことを伝える表現 してほしいことを伝える表現 動詞querer 目的語の代名詞</p> <p>第12回 許可の表現、お願いの表現、時刻の表現ができる 許可の表現 動詞poder 時刻の表現・時点の表現</p> <p>第13回 丁寧なお願いや許可の表現 丁寧の表現 動詞の過去未来形</p> <p>第14回 比較の表現ができる 比較の表現</p> <p>第15回 別れや感謝の表現ができる 別れや感謝の表現</p>
科目の目的	<p>【技能・表現】 ポルトガル語は主にブラジルで話される言語で、1万人以上のブラジル系住民が生活する群馬県内でも接する機会の多い言語です。群馬県内(特に東毛地区)において地域に関わる仕事(例えば、公務員や教員、医療関係など)を希望している学生にはポルトガル語の習得をお勧めします。</p> <p>また、ポルトガル語はブラジル以外の国々でも公用語とされているところがあり、国際的に活動したいという際にも役立てることができます。</p> <p>ポルトガル語は英語に近い構造のヨーロッパ言語で、英文法や語彙の知識が応用できる項目もあり、一方で英</p>

	<p>語の理解にも役立ちます。</p> <p>本授業の目標はポルトガル語の入門にとどまりますが、初級、中級へと学習を進めるためのきっかけとなると同時に、「英語以外のヨーロッパ言語」に関心を持っていただくこと、加えて可能な限り、ブラジルを中心としたポルトガル語圏の文化についても授業内で紹介し、ポルトガル語に関わる事柄の知見を広めることも目指します。</p>
到達目標	<p>本授業では欧州言語共通参照枠(CEFR)のA1レベルを習熟目標とし、ポルトガル語の基本中の基本となる以下の基礎文法と基礎的なコミュニケーション表現を習得することを目指します。</p> <p>(1)ポルトガル語を読める (2)名詞や形容詞の性数の考え方が理解できる (3)挨拶など基礎的な表現ができる (4)基礎的な語彙を使うことができる (5)動詞の活用ができる</p> <p>これらに加え、とりわけブラジル人との日常的なコミュニケーションに関わる文化の知識(食文化、交通など)を身につけることも目標とします。</p>
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	<p>期末試験(70%)、授業5回毎に行う小テスト(3回実施で各10%、計30%) 小テストは第5回、第9回、第13回の授業内で実施します。各小テストは、翌週に返却し解説します。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>毎回先入観なく新しい内容を学習していただきたいため、予習は不要とします。 ただし、復習は授業直後と授業直前に必ず毎回30分ほど行ってください。</p>
教科書・参考書	<p>(教科書) 市之瀬敦他、『Boa Sorte!-会話で学ぶポルトガル語-』。朝日出版社。</p> <p>(参考書) 黒澤直俊他(編)、『デイリー日葡英・葡日英辞典』。三省堂。 市之瀬敦他(編)、『プログレッシブポルトガル語辞典』。小学館。</p> <p>その他、資料配布や、自習用アプリの紹介などいたします。</p>
オフィス・アワー	<p>授業前、授業後の時間 (火曜日1限は授業前後、火曜日4限は授業前、水曜日2限は授業前後)</p>
国家試験出題基準	特になし
履修条件・履修上の注意	<p>5回以上の欠席がある場合は期末試験を受けられません。 また、特別な事情がない場合の30分以上の遅刻は欠席と見なします。 就職活動や特別な事情による欠席は考慮いたします。</p> <p>大学生として相応な英語力と意欲、情熱があることが望ましいです。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
西谷 泉			

授業形態	演習
授業計画	<p>第1回 情報と検索の活用 情報の意義と情報収集の方法、具体的な活用について学ぶ テキスト：(A:第1章)情報と検索の活用 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第2回 インターネットの仕組み インターネットの仕組みと情報活用について学ぶ テキスト：(A:第13章)インターネットの仕組み、 参考(B:第3章)インターネットの技術 課題等は返却はしない</p> <p>第3回 情報セキュリティ 情報セキュリティの基本的な考え方を学ぶ テキスト (A:第12章)情報セキュリティ 参考(B:第5章)情報セキュリティ 課題等は返却はしない</p> <p>第4回 情報発信の方法とモラル 情報発信、ICTコミュニケーションの特徴と情報モラルについて学ぶ テキスト (A:第14章)情報発信の方法とモラル 参考(B:第6章)情報倫理 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第5回 文書作成の基本 文書作成の基本、文章作成の基本事項を学ぶ テキスト (A:第2章)文書作成の基本 課題等は返却はしない</p> <p>第6回 レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～ レポートの作成について MS-Wordを用いて、基本形式を学ぶ テキスト(A:第3章)レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～ 課題等は返却はしない</p> <p>第7回 レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ レポート作成における表作成、データ管理について基本事項を学ぶ テキスト (A:第4章)レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第8回 レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ レポート作成における画像挿入、文章校正について基本事項を学ぶ テキスト (A:第5章)レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第9回 プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ プレゼンテーションの基本的な概念と具体的方法を学ぶ テキスト (A:第10章)プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第10回 プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 効果的なプレゼンテーションを行うための基本事項について学ぶ テキスト (A:11章)プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第11回 表計算 (1) ～表計算の基本～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第6章)表計算 (1) ～表計算の基本～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第12回 表計算 (2) ～絶対参照とIF～ スプレッドシートによるセル参照の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第7章)表計算 (2) ～絶対参照とIF～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第13回 表計算 (3) ～グラフ作成と分析～ スプレッドシートによるグラフ作成の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第8章)表計算 (3) ～グラフ作成と分析～ 課題等は返却はしない</p> <p>第14回 表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第9章)表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第15回 情報を集め、まとめる 情報収集と情報発信、情報をまとめることの意義について学ぶ テキスト (A:第15章)情報を集め、まとめる 参照 課題等は返却はしない</p>

科目の目的	現代社会には情報があふれており、私たちはそのかなりの量を情報通信機器を使って得る。大学での学習も情報通信機器を扱うスキルによって影響を受けることは確実である。本科目では大学での学びを充実させるために、情報通信機器の基本的な操作を学ぶ。具体的には、Wordを使用した文書作成・編集の基本技術、Excelの基本、計算機能、ビジュアルな文書作成、インターネットの活用、ワークシートの活用などについて学び、合計、平均の計算、関数の活用、最大・最小、グラフ作成、データベースの基本事項、データのソート、検索、集計、Power Point、プレゼンテーションなどについての演習を行う。[技能・表現]
到達目標	パーソナルコンピュータや、インターネットを通して情報を活用する能力を身につける。また、情報の意味、伝達の意義について学習する。 個別目標： 1. 情報の概念について説明できる。 2. パーソナル・コンピュータのの基本操作が行える。 3. ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション・アプリケーションを用いて情報表現、情報操作が行える。
関連科目	情報リテラシー
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。 関連する項目を1時間程度の事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。
教科書・参考書	教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：日経BP出版（有料ライセンスを使用します） (A) 基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（上記ライセンスに書籍が含まれます） (B) 最新「情報」ハンドブック 日経BP出版（上記ライセンスにPDF教材が含まれます）
オフィス・アワー	未定
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
西谷 泉			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 OSとアプリケーションソフト ハードウェアとソフトウェア パソコンEdu. (B) 第1章 OSとアプリケーションソフト 1. OSとは何か 2. アプリケーションソフト 課題等は返却はしない</p> <p>第2回 コンピュータの仕組み (1) コンピュータシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピュータの仕組み 1. コンピュータの歴史 2. コンピュータの処理の基本 3. 文字コードとフォント 課題等は返却はしない</p> <p>第3回 コンピュータの仕組み (2) コンピュータシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピュータの仕組み 4. パソコンの仕組み 5. タブレットとスマートフォン 6. 周辺機器と光ディスク 課題等は返却はしない</p> <p>第4回 インターネットの技術 (1) インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 1. LAN/無線LAN2. インターネットの仕組み 3. Webページとブラウザ 課題等は返却はしない</p> <p>第5回 インターネットの技術 (2) インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 4. 電子メールの仕組み 5. ネットサービスとは何か 課題等は返却はしない</p> <p>第6回 マルチメディア 様々なマルチメディアについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第4章 マルチメディア 1. マルチメディアと音声データ 2. 画像データと動画データ 3. ファイル圧縮 課題等は返却はしない</p> <p>第7回 情報セキュリティ (1) 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 1. コンピュータウイルスの正体 2. ネット詐欺から身を守る法 課題等は返却はしない</p> <p>第8回 情報セキュリティ (2) 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 3. 情報漏洩と暗号化 4. パスワードの正しい管理法 パソコンEdu. ネットの脅威と対策 強いパスワードの現実解 課題等は返却はしない</p> <p>第9回 情報倫理 情報を扱う上で重要な情報倫理についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 1. 情報社会の権利と法律 課題等は返却はしない</p> <p>第10回 著作権と個人情報保護 情報を扱う上で重要な著作権についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 2. 著作権の基礎と著作物の活用 パソコンEdu. 著作権の基礎と著作物の活用 参考 課題等は返却はしない</p> <p>第11回 ネットコミュニケーション インターネットに代表されるネットワークコミュニケーションについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 3. ネットコミュニケーションの作法 パソコンEdu. パソコン法律相談所、メールの作法 参考 課題等は返却はしない</p> <p>第12回 情報と社会 身の回りのコンピューターシステムを通して情報と社会について学ぶ パソコンEdu. (B) 第7章 情報と社会 1. 身の回りのコンピューターシステム 2. 電子マネー 3. 情報デザインの作法 参考</p>

	<p>課題等は返却はしない</p> <p>第13回 SNSによる情報収集と情報発信 ソーシャルネットワーキングサービスについて情報収集と発信について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)</p> <p>課題等は返却はしない</p> <p>第14回 情報収集と保管・管理 クラウドサービスによる情報保管と管理について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 Web/クラウドサービス 参考</p> <p>課題等は返却はしない</p> <p>第15回 情報リテラシーのまとめ 情報リテラシーのまとめ この科目を通して、学んだこと習得した知識、技術を確認しよう。 課題等は返却はしない</p>
科目の目的	<p>情報通信技術の発展に伴い、その技術に通じることは現代社会で生きていくためには不可欠な要素となっている。情報通信技術は便利で欠かせないものではあるが、その使い方を一歩誤ると、他者を傷つけたり、犯罪となったり、あるいは犯罪に巻き込まれたりすることになる。大きな社会問題に発展するケースも少なくない。本科目では、情報通信機器にあふれた現代社会を生きる一員として、情報通信技術を使う際の基本的なルールやモラルについて学ぶ。また学生各自が自らの学習や研究、将来医療専門職として仕事に利用するための情報セキュリティの考え方を学ぶ。[知識・技能]</p>
到達目標	<p>情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。</p> <p>個別目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな情報メディアを通して情報を活用する能力を身につける。 2. マルチメディアによる情報表現の手法を理解し、基本的ルールやモラルを説明できる。 3. 情報表現における倫理を理解し、情報セキュリティを実践できる。
関連科目	情報処理
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。</p> <p>関連する項目を1時間程度の事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：日経BP出版（有料ライセンスを使用します）</p> <p>(A) 基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（上記ライセンスに書籍が含まれます）</p> <p>(B) 最新「情報」ハンドブック 日経BP出版（上記ライセンスにPDF教材が含まれます）</p> <p>* 前期「情報処理」で使用した教科書ですので、再度購入する必要はありません。</p>
オフィス・アワー	未定
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
土屋 仁			
青木喜久代			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（自己紹介）（土屋） 授業進行の説明</p> <p>第2回 ルール解説（6路盤）（青木） 基本を理解する。：囲碁の5つのルールに関する説明、石を取る練習</p> <p>第3回 ルールの復習、終局の説明（6路盤）（青木） 工夫をする重要性を学ぶ。：6路盤を用いて実践対局、囲碁の終局の解説</p> <p>第4回 9路対局と終局の理解（9路盤）（青木） 状況判断ができる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第5回 9路対局と石を取るための初歩的技術（青木） 自分で決断できる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第6回 問題演習①（19路盤）（青木） 布石の考え方を身に着ける。：ルールの理解と確認</p> <p>第7回 模範碁の解説と対局①（19路盤）（青木） 実行した結果に責任を持つ。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第8回 模範碁の解説と対局②（19路盤）（青木） 見えていることが見えていないことを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第9回 模範碁の解説と対局③（19路盤）（青木） 欲張ると破たんすることを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第10回 模範碁の解説と対局④（19路盤）（青木） 正しい大局観を持てるようになる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第11回 9子局の解説、連碁対局（19路盤）（青木） 局所的判断と大局観が両立できる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第12回 模範碁の解説と対局⑤ ペア碁対局（19路盤）（青木） 先を読み力できる。：19路盤模範囲碁の解説とペア碁の実践対局</p> <p>第13回 模範碁の解説と対局⑥（19路盤）（青木） 考える習慣がつく。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第14回 問題演習① 解説、囲碁の世界（青木） 頑張ってもできない経験ができる。：石の取り方、二眼生きの解説</p> <p>第15回 代表者対局（まとめ）（19路盤）（土屋） すぐすべきこと、後でも可能なことの判断力を磨く。：19路盤で学生代表ペア2組、と9子局での対局</p>
科目の目的	<p>囲碁のルールを習得し、19路盤で対局ができるようになること。囲碁は日本の伝統文化だけではなく、国際的にも広く普及し親しまれているゲームである。このゲームに勝つには大局観が必要であり、この大局観を実践を通じて判断力、分析力、集中力を養うことができる。この大局観は、医療現場において、必要欠くべからざるものである。特に当直や、日直等、放射線業務を一人でこなす場合には、自己判断でトリアージ（検査における優先順位）を付け、業務を行わなければならない。このトリアージを実践に置き換えて学ぶことができる。このことは、多様な情報を適切に分析し、問題を解決する方法を身に着けることができる。</p>
到達目標	「考える力」、「判断力」を磨き、先を読む力を習得する。
関連科目	救急・免疫・感染症学
成績評価方法・基準	レポート（60%）、実技評価（40%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業内容について復習を行い理解しておくこと。 ・準備学習時間の目安は20分。
教科書・参考書	<p>教科書：光文社新書「東大教養囲碁講座」</p> <p>参考書：日本棋院「実践囲碁総合演習」</p>
オフィス・アワー	随時（昼休みが良い）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
杉田 雅子			
星野 修平	榎本 光邦		

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 科目の説明、大学生の学習・生活、アカデミック・スキルとスチューデント・スキル 科目の目的・目標・進め方の説明、高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い、アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは (杉田)</p> <p>第2回 調べる 情報を探す (杉田)</p> <p>第3回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー1 (星野)</p> <p>第4回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー2 (星野)</p> <p>第5回 聞く・読む・考える 授業の受け方、本や資料の読み方、考える力をつけるには (杉田)</p> <p>第6回 書く：レポートの書き方1 レポートとは何か レポート作成の手順 (杉田)</p> <p>第7回 書く：レポートの書き方2 論文作法 (杉田)</p> <p>第8回 書く：レポートの書き方3 レポートの形式 (杉田)</p> <p>第9回 相手の話を聴く ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する。 (榎本)</p> <p>第10回 自分の気持ちや考えを伝える グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする。 (榎本)</p> <p>第11回 協力して作業する これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する (榎本)</p> <p>第12回 自分自身の課題を見つける 入学以来の自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を見出す (杉田)</p> <p>第13回 書く：レポートを書く レポート作成の実践 (杉田)</p> <p>第14回 書く：レポートを書く レポート作成の実践 (杉田)</p> <p>第15回 書く：レポートを書く レポート作成の実践、提出 (杉田) レポートは後期開始後評価と共に返却する。</p>
科目の目的	<p>大学での学習形態や学問に対する姿勢、大人としての生活態度を認識、理解し、高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行することができるように、基本的なスキル、姿勢を学ぶ。【知識・理解】</p> <p>1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習のためのスキルの習得、姿勢の理解</p> <p>2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活のためのスキルと姿勢の理解。</p>
到達目標	<p>1. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術（アカデミック・スキル、情報処理に関するスキル、ルール、マナー）を理解し、授業やレポートで実践できる。</p> <p>2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生活で実践できる。（スチューデント・スキル、コミュニケーションスキル）</p>
関連科目	全科目
成績評価方法・基準	杉田担当課題（50%）、星野担当課題（20%、課題に対するフィードバックはAAにて掲示を行う）、榎本担当意見文・感想文（30%、意見文・感想文の内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回授業の重要事項を見直しておくこと。約45分間。
教科書・参考書	なし。プリントを使用。
オフィス・アワー	杉田：授業の前後、昼休み、4号館8階26研究室 星野：授業の前後、昼休み、4号館7階研究室 榎本：月、水、木、金の昼休み、1号館3階305、1号館学生相談室、4号館学生相談室
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	プリントはActive Academy上で配布するので、各自プリントアウトして授業に持ってきてください。配布期間は授業の前後1週間。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
中 徹			

授業形態	講義5コマ・演習10コマ		
授業計画	第1回	保健科学総論 担当：木村【講義】 保健科学の概要と成り立ちを学ぶ 学ぶ 1. 病と人間 2. 保健科学の基礎としてのヘルスリテラシーのあらまし	
	第2回	保健科学総論 担当：木村【講義】 保健科学を具他の事例に即して理解する 1. ヘルスリテラシーの活用 2. 文化とヘルスリテラシー	
	第3回	グループワークへの導入～専門を学ぶということ 担当：中 徹【講義】 専門を学ぶことの実践的な意義を知った上で、グループワークの方法論を理解	
	第4回	グループワーク：理学療法を学ぶ学生が、今すべきことの検討1 担当：中 徹【演習】 理学療法士を目指す学生に必要な能力の具体化	
	第5回	グループワーク：理学療法を学ぶ学生が、今すべきことの検討2 担当：中 徹【演習】 具体化した能力を習得するために今すべき（できる）ことの模索1	
	第6回	グループワーク：理学療法を学ぶ学生が、今すべきことの検討3 担当：中 徹【演習】 具体化した能力を習得するために今すべき（できる）ことの整理	
	第7回	グループワーク：理学療法を学ぶ学生が、今すべきことの検討4 担当：中 徹【演習】 グループワークの発表	
	第8回	理学療法士像を探求するために 担当：中 徹【講義】 理学療法の多様なあり方とその理解のための学習方法を学ぶ	
	第9回	理学療法士像の探求1：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論 担当：中 徹【演習】 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する	
	第10回	理学療法士像の探求2：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論 担当：中 徹【演習】 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する	
	第11回	理学療法士像の探求3：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論 担当：中 徹【演習】 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する	
	第12回	理学療法士像の探求4：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論 担当：中 徹【演習】 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する	
	第13回	理学療法士像の探求5：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論 担当：中 徹【演習】 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する	
	第14回	理学療法士像の探求6：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論 担当：中 徹【演習】 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する	
	第15回	理学療法士像の探求のまとめ 担当：中 徹【講義】 集団討議からでたことを整理して理解する	
科目の目的	グループワーク学習と集団ディスカッションを通じて、保健学の観念を持った上で、自らの理学療法士像を育み、明確専門基礎分野、専門分野の学習の学ぶ意義とを明確にすること。 本授業はディプロマポリシー4の「関心・意欲を高めること」を目的とした科目である。		
到達目標	1. 保健学の概要の理解の上に理学療法の職務内容と職域が説明できる。 2. 理学療法士を目指す学生として必要な社会的な礼節およびコミュニケーションをもって行動できる。 3. 自らの理学療法士像を説明することができる。 4. 理学療法を学ぶことに興味を持ち、主体的・意欲的に学ぶ姿勢を示すことができる。		
関連科目	全ての専門基礎科目、理学療法概論		
成績評価方法・基準	提出課題（40%）、発言や司会および記録などグループ討議への参加状況（30%）、発表点（30%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1-2講義は公衆衛生学を復習しておくこと その他の回は講義と演習なので、毎回の復習や振り返り作業を行うこと（毎回30～45分程度） グループディスカッション時を中心にフィードバックを行う		
教科書・参考書	木村朗担当分 身体活動学入門 三共出版 必要に応じて資料を配布する。		
オフィス・アワー	毎週月曜日昼休み時間（担当教員全員）		
国家試験出題基準	国家試験出題基準には該当しない		
履修条件・履修上の注意	他人の意見をよく聞き、自ら発信するトレーニングとしても位置づけている授業ですので、積極的に受講してください。		

講義科目名称：多職種理解と連携

授業コード：2P039

英文科目名称：Multidisciplinary Understanding and Cooperation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
中 徹			
矢島 正栄	亀子 光明	土屋 仁	芝本 隆

授業形態	講義15コマ
授業計画	<p>第1回 チーム医療についての総説的な理解 中 徹</p> <p>第2回 チーム医療における理学療法士の役割を知る 中 徹</p> <p>第3回 臨床検査技師とは一職務と職域を知る 亀子 光明</p> <p>第4回 臨床検査技師の仕事の実際を知る 亀子 光明</p> <p>第5回 臨床検査技師とチーム医療について 亀子 光明</p> <p>第6回 診療放射線技師とは一職務と職域を知る 土屋 仁</p> <p>第7回 診療放射線技師の仕事の実際を知る 土屋 仁</p> <p>第8回 診療放射線技師とチーム医療について 土屋 仁</p> <p>第9回 臨床工学技士とは一職務と職域を知る 芝本 隆</p> <p>第10回 臨床工技士の仕事の実際を知る 芝本 隆</p> <p>第11回 臨床工技士とチーム医療について 芝本 隆</p> <p>第12回 看護師・保健師・助産師とは一職務と職域を知る 矢島 正栄</p> <p>第13回 看護師・保健師・助産師の仕事の実際を知る 矢島 正栄</p> <p>第14回 看護師・保健師・助産師とチーム医療について 矢島 正栄</p> <p>第15回 チーム医療における理学療法士の役割の発展的理解 中 徹</p>
科目の目的	医療は複数の職種がそれぞれの専門性を全うし、かつ相互に協力し合って行われて人間を守る行為であるというチーム医療論を理解する。 本授業はディプロマポリシー1の「知識・理解能力を高めること」を目的とした科目である。
到達目標	<p>①各医療専門職の職務と職域が説明できる</p> <p>②各医療専門職の具体的な仕事内容を知ることができる</p> <p>③自らの専門職と他専門職との連携について考えることができる</p>
関連科目	理学療法概論 リハビリテーション概論
成績評価方法・基準	レポート100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習として、学科の職種におけるチームワーク医療、および各回の他の学科の職種について事前に下調べを30分程度で行うこと。復習として、理解し得た事項を箇条書きにしてノートにまとめておくこと（30分程度）。
教科書・参考書	特に指定しないが、授業資料が提供される可能性がある。
オフィス・アワー	藤田先生は講義終了後の時間に対応可 芝本先生は月曜日～木曜日の午後（16:00～18:00）メール可（tshibamoto@paz.ac.jp） 土屋先生は随時相談可能 中先生は月曜終日相談可能 矢島先生は随時相談可能
国家試験出題基準	特に該当しない
履修条件・履修上の注意	最初2コマと最後1コマが学科のチーム医療論で、残りは3コマずつ他学科の職種理解とチーム医療の話です。最終回の1コマでレポート課題が出されますので、全ての講義をよく聴いて受講してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 序論1 解剖学とは何か 器官とその系統 上皮組織 支持組織</p> <p>第2回 序論2 筋組織 神経組織 人体の外形と方向用語</p> <p>第3回 骨格系1 骨格とは何か 骨の形 骨の構造 骨の発生と成長 骨の連結・関節</p> <p>第4回 骨格系2 頭部の骨 脳頭蓋 顔面頭蓋 鼻腔・副鼻腔</p> <p>第5回 骨格系3 脊柱 胸郭 上肢帯の骨 上腕の骨</p> <p>第6回 骨格系4 前腕の骨 手の骨 下肢帯の骨 骨盤 大腿の骨 下腿の骨 足の骨</p> <p>第7回 筋系1 筋の構造と機能 頭頸部の筋</p> <p>第8回 筋系2 胸腹部の筋 上肢帯の筋 上腕の筋 前腕の筋 手の筋</p> <p>第9回 筋系 3 下支帯の筋 大腿の筋 下腿の筋 足の筋</p> <p>第10回 神経系1 神経系の構成 中枢神経系（脊髄 延髄 橋 中脳 小脳）</p> <p>第11回 神経系2 中枢神経系（間脳 大脳）</p> <p>第12回 神経系3 脳室 脳脊髄膜 脳脊髄液 末梢神経（脳神経）</p> <p>第13回 神経系4 末梢神経（脳神経 脊髄神経）</p> <p>第14回 神経系5 末梢神経（脊髄神経） 自律神経（交感神経 副交感神経）</p> <p>第15回 神経系6 伝導路（反射路 求心性伝導路 遠心性伝導路）</p>
科目の目的	医療技術者としての基本知識となる運動器・神経系の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】
到達目標	骨格・筋・神経系の基本的な構造を説明できる。
関連科目	解剖学Ⅱ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジュメを理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：「入門人体解剖学」藤田恒夫（南江堂） 参考書：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」野村嗟ほか（医学書院） 「ネッター解剖学アトラス」相磯貞和訳（南江堂）
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（asami@paz.ac.jp）。
国家試験出題基準	【理学療法士】 《専門基礎》- I-1-A-a B-a, b, c, d C-a, b D-a, b H-d, e I-a, b J-a
履修条件・履修上の注意	Active Academyによるレジュメの配付期間：授業の1週間前から1週間後まで。 各自印刷して持参するか、PCにダウンロードして持参するかは自由。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 脈管系1 血管系総論 心臓 刺激伝導系 心臓の血管(冠状動脈) 肺循環と体循環</p> <p>第2回 脈管系2 動脈系 静脈系</p> <p>第3回 脈管系3 胎生時の循環系 リンパ系(リンパ節 リンパ本幹) 脾臓 胸腺</p> <p>第4回 脈管系4 消化器系1 血液 血球 造血組織 内臓学総論(粘膜 腺) 口腔(歯)</p> <p>第5回 消化器系2 口腔(口蓋 舌 唾液腺) 咽頭 食道 胃</p> <p>第6回 消化器系3 小腸(十二指腸 空腸 結腸) 大腸(盲腸 結腸 直腸) 肝臓</p> <p>第7回 消化器系4 呼吸器系1 胆嚢 膵臓 鼻腔 副鼻腔</p> <p>第8回 呼吸器系2 喉頭 気管 気管支 肺</p> <p>第9回 泌尿器系 生殖器系1 腎臓 尿管 膀胱 尿道 男性生殖器(精巣 精巣上体)</p> <p>第10回 生殖器系2 男性生殖器(精管 精嚢 前立腺 陰茎 精液 精子) 女性生殖器(卵巣 卵管 子宮 膣 外陰部 胎盤)</p> <p>第11回 腹膜 内分泌系 腹膜 内分泌系(下垂体 松果体 甲状腺 上皮小体 副腎 膵島)</p> <p>第12回 感覚器系1 視覚器(眼球 眼球の付属器) 平衡聴覚器(外耳 中耳 内耳)</p> <p>第13回 感覚器系2 皮膚(表皮 真皮 皮下組織 角質器 皮膚の腺)</p> <p>第14回 発生学1 受精から着床 発生の第2週・第3週</p> <p>第15回 発生学2 発生の第4週～第8週 胎生第3月～出生</p>
科目の目的	医療技術者としての基本知識となる脈管・内臓・発生の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】
到達目標	脈管・内臓の基本的な構造と発生学について説明できる。
関連科目	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジュメを理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：「入門人体解剖学」藤田恒夫(南江堂) 参考書：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」野村嗟ほか(医学書院) 「ネッター解剖学アトラス」相磯貞和訳(南江堂)
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する(asami@paz.ac.jp)。
国家試験出題基準	【理学療法士】 《専門基礎》- I-1 -A-b A-b E-a, b, c, d F-a, b, c, d G-a I-c 2-K-f, g L-a, b, c M-a P-a, b Q
履修条件・履修上の注意	Active Academyによるレジュメの配付期間：授業の1週間前から1週間後まで。 各自印刷して持参するか、PCにダウンロードして持参するかは自由。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	1単位	必修
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 骨学各論 頭蓋（外面・内面・個々の骨）</p> <p>第2回 骨学各論 脊柱・胸郭・上肢帯</p> <p>第3回 骨学各論 自由上肢骨・下肢帯・骨盤</p> <p>第4回 骨学各論 自由下肢骨</p> <p>第5回 関節靭帯総論 骨の連結 関節の構造と機能</p> <p>第6回 関節靭帯各論 頭蓋の連結 脊柱、脊柱と頭蓋および胸郭の連結</p> <p>第7回 関節靭帯各論 上肢の連結（上肢帯の連結 自由上肢骨の連結）</p> <p>第8回 関節靭帯各論 上肢の連結（手の連結） 下肢の連結（下肢帯の連結 股関節）</p> <p>第9回 関節靭帯各論 下肢の関節（膝関節 膝蓋大腿関節 脛骨と腓骨の連結 足の関節）</p> <p>第10回 筋学総論 筋組織 骨格筋の構造・作用 骨格筋の神経支配</p> <p>第11回 筋学各論 上肢の筋（上肢帯の筋 上腕の筋 前腕の筋 手の筋）</p> <p>第12回 筋学各論 下肢の筋（下肢帯の筋 大腿の筋 下腿の筋）</p> <p>第13回 筋学各論 下肢の筋（足の筋）体幹の筋（頭部の筋 頸部の筋 胸部の筋）</p> <p>第14回 筋学各論 体幹の筋（腹部の筋 背部の筋）</p> <p>第15回 神経系総論 神経系の発生（脊髄の発生 脳の発生 末梢神経系の発生）</p> <p>第16回 神経系各論 中枢神経系（脊髄 延髄 橋 中脳）</p> <p>第17回 神経系各論 中枢神経系（小脳 間脳 大脳半球）</p> <p>第18回 神経系各論 中枢神経系（大脳基底核 神経路）</p> <p>第19回 神経系各論 末梢神経系 脊髄神経（頸神経 頸神経叢 腕神経叢 胸神経）</p> <p>第20回 神経系各論 脊髄神経（腰神経 腰神経叢 仙骨神経 仙骨神経叢 尾骨神経叢）</p> <p>第21回 神経系各論 脳神経（嗅神経 視神経 動眼神経 滑車神経 三叉神経 外転神経）</p> <p>第22回 神経系各論 脳神経（顔面神経 内耳神経 舌咽神経 迷走神経 副神経 舌下神経）</p> <p>第23回 神経系各論 自律神経系（交感神経系 副交感神経系 壁内腸神経系）</p>
科目の目的	解剖学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識の上に理学療法士として必要な骨格・関節・靭帯・筋・神経系の詳細な知識を習得する。 【技能・表現】
到達目標	1、全身の骨の詳細な構造について説明できる。

	2、全身の重要な関節・靭帯について説明できる。 3、全身の筋の起始・停止・作用・支配神経を説明できる。 4、中枢神経系（脳・脊髄）、末梢神経（脳神経・脊髄神経）の詳細な構造について説明できる。
関連科目	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、各専門科目
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyに事前配布するレジュメを理解に努めながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」野村嗟ほか（医学書院） 「ネッター解剖学アトラス」相磯貞和訳（南江堂） 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（asami@paz.ac.jp）。
国家試験出題基準	《専門基礎》- I-1-B-a, b, c, d C-a, b D-a, b
履修条件・履修上の注意	Active Academyによるレジュメ配付期間「1週間前から1週間後まで」 印刷するかダウンロードするかは自由。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
浅田 春美			
黒川 望			

授業形態	小人数グループによる実技演習
授業計画	<p>第1回 触診の準備<解剖学の知識を復習> (浅田・黒川) 骨標本(全身)を用いての演習<骨、骨部位の名称と特徴の確認。> 「骨・骨部位(主に筋の附着部・骨指標となる部位)の名称を指し示して言うことができる」 「頭蓋骨から足部まで左右を区別して骨を並べることができる」</p> <p>第2回 触診講義の学習の仕方/触診手技の練習 (浅田・黒川) 体表面から触診する場合の骨、関節、筋、靭帯の触れ方(ポイント)の練習 ・第1回講義内容(骨・骨部位の名称)の小テスト ⇒第3回講義にて返却</p> <p>第3回 頭頸部・上肢<肩甲帯・肩・上腕> (浅田・黒川) 主に骨・関節の触診</p> <p>第4回 上肢<肩甲帯・肩・上腕>・体幹 (浅田・黒川) 主に軟部組織(筋・靭帯・動脈の拍動)の触診</p> <p>第5回 上肢<前腕・肘・上腕> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第6回 上肢<前腕・手関節・手> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第7回 上肢<前腕・手関節・手> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第8回 上肢実技の確認 (浅田・黒川) 前半(上肢部分)の骨・関節・筋について触診の実技確認を実施<3分/1人程度></p> <p>第9回 下肢<骨盤・股関節> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第10回 下肢<骨盤・股関節> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第11回 下肢<膝関節・下腿> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第12回 下肢<膝関節・下腿> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第13回 下肢<下腿・足関節・足部> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第14回 下肢<下腿・足関節・足部> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第15回 実技試験(全範囲) (浅田・黒川) 全範囲(上肢・下肢)の骨・関節・靭帯・動脈の拍動について触診の実技確認 実技確認終了後、個別でフィードバックを実施。60%未満の場合、補習を行った後、再度、実技確認を行う。</p>
科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 解剖学の知識を基に手または指を用いて、皮下にある組織の形・大きさ・硬さ・位置・固有の運動性などを識別する技術を習得する。 運動学Ⅰ、理学療法評価学と並行して授業が進むため、運動器の構造と機能の関連をより深く理解し、検査・測定技術の基礎固めを目的とする。 【技能・表現】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 骨の部位、関節裂隙、靭帯、筋、腱、動脈を触知により区別できる(対学生)。 体表から触れることができるそれらの部位を解剖学アトラスで参照できる。 これらの名称(筋については、起始・停止・作用)を述べることができる。 実技では、最も触知しやすい肢位や運動を相手に分かりやすい言葉で指示できる。
関連科目	解剖学Ⅰ，運動学Ⅰ，運動学Ⅱ，専門科目全般
成績評価方法・基準	筆記試験(50%)・実技試験(50%) それぞれ60%以上の正解率
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> 解剖学で学んだ骨や筋の名称を復習しておくこと 筋の「起始・停止・作用」は、教科書「運動療法のための機能解剖学的触診技術」において予習・復習しておく 配布資料の実施予定日の内容を確認し、該当する教科書のページを予習・復習とも読んでおく 講義終了後、学生同士で実技練習を行い、不明な点を積極的に教員に質問する(直後または次回講義開始時) <p><予習・復習：各1時間程度要する></p>

教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 林 典雄著：「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢」，メディカルビュー，2017 2. 林 典雄著：「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢」，メディカルビュー，2017 3. 相磯貞和 訳：「ネッター解剖学アトラス」第6版，南江堂，2016 <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Stanley Hoppenfeld著・野島元雄監訳：図解 四肢と脊椎の診かた，医歯薬出版，1984 2. 藤原理著：筋と骨格の触診術の基本，マイナビ，2013 3. 竹井仁著：触診機能解剖カラーアトラス上下，文光堂，2008.
オフィス・アワー	当該授業終了後
国家試験出題基準	≪専門基礎≫－I－1－B－d、C－b、D－a、H－a、b
履修条件・履修上の注意	<p>実技演習を行うため、準備をしていない場合、履修できないことがある</p> <p><指輪、時計など不必要なものを外し、手や手指のケアを心がける（爪・傷など）></p> <p><可能な限り直接、皮膚に触れるため脱衣しやすく、動きやすい服装を準備する></p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 生理学の基礎の基礎 生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官</p> <p>第2・3回 神経の基本的機能 神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達</p> <p>第4・5回 筋肉の基本的機能 筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮</p> <p>第6-8回 神経系の機能 末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節</p> <p>第9-12回 感覚の生理学 様々な感覚の受容と知覚のメカニズム</p> <p>第13-15回 睡眠・記憶・情動 脳の高次機能</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる
関連科目	解剖学 I・II、生化学
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う(解答・解説はAAにて行う) 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴呂富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00
国家試験出題基準	<<専門基礎>>-I-2-A-a <<専門基礎>>-I-2-B-a, b <<専門基礎>>-I-2-C-a, b, c, d, e, f, g, h, i <<専門基礎>>-I-2-D-a, b, c, d, e <<専門基礎>>-I-2-E-b <<専門基礎>>-I-2-F-a, b, c, d <<専門基礎>>-I-2-G-a, b
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1・2回 内分泌系の機能 ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能</p> <p>第3-5回 循環の生理学 心臓血管系の基本構造と機能、調節</p> <p>第6・7回 呼吸の生理学 呼吸器系基本構造と機能、調節</p> <p>第8・9回 尿の生成と排泄および体液とその調節 腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み</p> <p>第10・11回 消化と吸収 消化管の基本構造と機能、調節</p> <p>第12・13回 血液の生理学 血液の組成とその機能</p> <p>第14・15回 体温とその調節 体温の意義とその調節メカニズム</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生化学
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う(解答・解説はAAにて行う) 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00
国家試験出題基準	<<専門基礎>>-I-2-E-a <<専門基礎>>-I-2-H-a, b, c, d <<専門基礎>>-I-2-I-a, b, c, d <<専門基礎>>-I-2-J-a, b, c, d <<専門基礎>>-I-2-K-a, b, c, d, e, f, g <<専門基礎>>-I-2-L-a, b, c <<専門基礎>>-I-2-M-a <<専門基礎>>-I-2-N-a, b, c <<専門基礎>>-I-2-O-a, b <<専門基礎>>-I-2-P-a, b
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	実習
授業計画	<p>第1-2回 ガイダンス 生理学実習履修にあたっての諸注意 レポートの書き方 統計処理法を学ぶ</p> <p>第3-4回 浸透圧 卵半透膜を使用し、浸透圧を理解する</p> <p>第5-6回 酸塩基平衡 酸性・塩基性物質を摂取し、酸塩基平衡のメカニズムについて理解する</p> <p>第7-8回 血糖値とその変化 糖質を摂取し、血糖値制御のメカニズムについて理解する</p> <p>第9-10回 反応時間 視・聴覚刺激に対する反応時間を測定し、感覚情報の伝達経路を理解する</p> <p>第11-12回 血圧 血圧を測定し、そのメカニズムを理解する</p> <p>第13-14回 ストレス反応 ストレス負荷をかけた際の生体反応を計測し、その発生メカニズムを理解する</p> <p>第15-16回 骨格筋の収縮 カエル神経筋標本を作成・刺激し、骨格筋の収縮メカニズムを理解する</p> <p>第17-18回 神経の興奮と伝導 カエル神経標本を作製・刺激し、神経の興奮とその伝導メカニズムを理解する(実験とその結果についてまとめる)</p> <p>第19-20回 神経の興奮と伝導 カエル神経標本を作製・刺激し、神経の興奮とその伝導メカニズムを理解する(結果について考察する)</p> <p>第21-22回 誘発筋電図 ヒト脛骨神経を刺激して下腿三頭筋の筋電図を誘発し、中枢および末梢神経系と筋を理解する</p> <p>第23回 まとめ まとめを行う</p>
科目の目的	生理学の講義で学習した人体の機能について実際に確認し、理解を深める(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)
到達目標	種々の生理学機能測定器具を用い、人体の機能に関するデータの収集し、判読できるようになる 他者に得られたデータをを分かりやすく報告することができるようになる
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ、解剖学Ⅰ・Ⅱ
成績評価方法・基準	試験60%、レポート30%(実習内でフィードバックする)、実習態度10% で最終成績を算出する 公欠以外の欠席は、原則前半または後半の最終成績から10点減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	既に履修済みである、生理学Ⅰ、Ⅱの復習(約1時間)
教科書・参考書	教科書：特に無し 参考書：「シンプル生理学」(南江堂) 「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 他
オフィス・アワー	実施日の18:00~19:00
国家試験出題基準	<<専門基礎>>-I-2-B-b <<専門基礎>>-I-2-C-b, c, d, f, g, h <<専門基礎>>-I-2-D-c, d <<専門基礎>>-I-2-F-a <<専門基礎>>-I-2-G-a <<専門基礎>>-I-2-H-b, c, d <<専門基礎>>-I-2-N-a
履修条件・履修上の注意	毎週レポートが課せられ、その量は決して少なくない そのため、自らを律し、効率良くレポートを作成するよう心がけること

講義科目名称：運動生理学

授業コード：2P047

英文科目名称：Exercise Physiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
江口 勝彦			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
高橋 克典			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 生化学入門～ 生体化学成分の基礎 ～ 生体を構成する主な化学成分について概説する。また細胞の基本構造および、それぞれの細胞小器官の役割について生化学的な視点から解説する。</p> <p>第2・3回 生体成分の構造と機能 I～ 糖質と病態 ～ 三大栄養素の一つである糖質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、インスリンやグルカゴンのような糖質制御ホルモンと病態との関係を解説する。</p> <p>第4-6回 生体成分の構造と機能 II～ 脂質と病態 ～ 三大栄養素の一つである脂質について、①エネルギー源としての役割、②生体膜構成成分としての役割、③生理活性シグナル因子としての役割を中心に解説する。また、生体内における脂質の代謝異常と病態との関係を解説する。</p> <p>第7・8回 生体成分の構造と機能 III～ タンパク質・アミノ酸と病態 ～ 三大栄養素の一つであるタンパク質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、タンパク質を構成するアミノ酸の分類、性質、病態との関連などについて解説する。</p> <p>第9回 生体成分の構造と機能 IV～ 遺伝子と病態 ～ RNAやDNAを構成する核酸の構造や性質を解説する。また、DNAの翻訳からタンパク質の生合成までのメカニズムを解説する。さらに、遺伝子の変異に伴い発症する病態について解説する。</p> <p>第10・11回 生体成分の構造と機能 V～ ビタミンの役割と病態 ～ 微量栄養素であるビタミンの分類と機能を解説する。また、脚気、懐血病などビタミン欠乏に伴い発症する病態について解説する。</p> <p>第12・13回 生体成分の構造と機能 VI～ ミネラルの役割と病態 ～ 生体に不可欠なミネラルの種類および欠乏症、過剰症について解説する。</p> <p>第14回 ホメオスタシスとホルモン ホルモンの分類とそれぞれの標的組織について解説する。また、ホルモンの分泌異常による疾患について解説する。</p> <p>第15回 臓器の生化学 人体の各臓器（循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系）における生化学的な代謝機能および関連疾患を概説する。</p>
科目の目的	生命現象の基本原理とそれに関連する病態を分子レベルで理解することで、化学的根拠に基づいた視点を養う。【知識・理解】
到達目標	生体内の様々な化学物質による生命現象を理解したうえで、それらが各種病態においてどのように変化するのかを理解する。
関連科目	化学A・B、生物学A・B、生理学I・II
成績評価方法・基準	定期試験（100％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	有機化学および生物学の基礎知識を必要とする。準備学習に必要な学習時間の目安は概ね1時間程度。
教科書・参考書	教科書：栄養科学シリーズ NEXT 生化学（講談社） 参考書：シンプル生化学（南江堂）
オフィス・アワー	講義終了後 質問は E-mail (k-takahashi@paz.ac.jp) でも受け付ける
国家試験出題基準	人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-N-a, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-N-b, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-J-a, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-K-d, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-K-e, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-K-f, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-K-g
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
高橋 正明			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 コースオリエンテーション 運動学とは？ 関節運動 形態と機能</p> <p>第2回 運動の原則1 生体力学 てこ バランス 支持基底面と重心</p> <p>第3回 運動の原則2 生体力学 てこ バランス 支持基底面と重心</p> <p>第4回 運動器系組織1 骨・関節・靭帯の組織と役割</p> <p>第5回 運動器系組織2 筋の発生と組織 収縮のメカニズム</p> <p>第6回 運動器系組織3 筋力 収縮様式 筋張力 共同運動</p> <p>第7回 機能解剖足部1 足関節の形態と運動</p> <p>第8回 機能解剖足部2 足部・足関節の形態と機能</p> <p>第9回 機能解剖足部3 筋の働き</p> <p>第10回 機能解剖足部4 アーチ構造</p> <p>第11回 機能解剖膝関節1 膝関節の形態と機能 (足部・足関節クイズ・フィードバック)</p> <p>第12回 機能解剖膝関節2 半月・靭帯の構造と機能</p> <p>第13回 機能解剖膝関節3 筋の働き</p> <p>第14回 機能解剖膝関節4 立位での膝の役割</p> <p>第15回 機能解剖股関節1 股関節の形態と機能 (膝関節クイズ・フィードバック)</p> <p>第16回 機能解剖股関節2 骨盤・股関節の運動</p> <p>第17回 機能解剖股関節3 筋の働き</p> <p>第18回 機能解剖股関節4 股関節の力学</p> <p>第19回 機能解剖体幹1 脊柱の形態と機能 (股関節クイズ・フィードバック)</p> <p>第20回 機能解剖体幹2 脊柱の運動</p> <p>第21回 機能解剖体幹3 筋の働き</p> <p>第22回 機能解剖体幹4 胸郭運動</p> <p>第23回 機能解剖体幹5 骨盤の運動</p> <p>第24回 機能解剖肩・肩甲帯1 肩甲帯・肩関節の機能と構造 (体幹クイズ・フィードバック)</p> <p>第25回 機能解剖肩・肩甲帯2 肩甲帯の関節と運動</p>

	第26回 機能解剖肩・肩甲帯3 肩関節の運動 第27回 機能解剖肩・肩甲帯4 筋の働き 第28回 機能解剖肘関節1 肘関節の機能と構造 (肩甲帯クイズ・フィードバック) 第29回 機能解剖肘関節2 肘関節の運動 第30回 機能解剖肘関節3 筋の働き
科目の目的	人の身体運動を機能-構造の視点から分析するのに必要となる基本的な知識や概念を学び、自分自身の関節運動を説明することができる。【知識・理解】
到達目標	1. 関節運動の原則とバランス保持について説明できる。 2. 頸部・体幹・肢節の関節運動を機能-構造的見方で説明できる。 3. 骨、関節、筋等の運動器が関節運動において果たす役割を説明できる。 4. 代表的な関節の構造物が果たす役割について可動性と安定性の要素で分類,説明できる。
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅱ 運動学実習 運動生理学 表面解剖学と触診法 臨床動作分析学 運動療法総論 運動器系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学 日常生活活動学 他
成績評価方法・基準	各関節ごとの機能解剖学小テスト(クイズ)を80%, 骨・関節・筋および力学についての試験を20%として総合点を算出し60点以上を合格とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	運動学は応用科学であるため、四肢体幹の解剖学の基礎知識を前提に授業を進める。該当する部分を解剖学の教科書で確認しておくこと。2コマ連続の授業なので予習に1時間は必要。
教科書・参考書	教科書 「標準理学療法学・作業療法学 運動学」高橋正明編 (医学書院) 「基礎運動学 第6版補訂」中村隆一, 他著(医歯薬出版) 参考書 「関節の生理学Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ」Kapandjid LA 著おいお(医歯薬出版) 「筋骨格系のキネシオロジー」D.A. Neumann著(医歯薬出版) 「Kinesiology」Oatis CA (Lippincott Williams & Wilkins)
オフィス・アワー	火曜日 13:00~14:00
国家試験出題基準	《専門基礎》-Ⅰ-3-A-abcdef, B-abcde
履修条件・履修上の注意	解剖学用語の知識を前提に授業を進めるため、それらを教科書で確認しておくこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
浅田 春美			
高橋 正明			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 機能解剖 1 肘関節の形態と機能 (高橋正明)</p> <p>第2回 機能解剖 2 肘関節、手関節の形態と機能 (高橋正明)</p> <p>第3回 機能解剖 3 前半：肘関節のクイズとフィードバック 後半：指の形態と機能 (高橋正明)</p> <p>第4回 機能解剖 4 手指の筋の働き 手の役割 (高橋正明)</p> <p>第5回 機能解剖5 手指の筋の働き 手の役割 (高橋正明)</p> <p>第6回 機能解剖 6 手関節・手指のクイズとフィードバック</p> <p>第7回 機能解剖 7 顎関節と咀嚼運動 (高橋正明)</p> <p>第8回 機能解剖 8 仙腸関節の機能と構造 (高橋正明)</p> <p>第9回 力のモーメント 力のモーメントとは 3つのテコ (浅田春美)</p> <p>第10回 神経組織と反射 1 中枢神経の働き 反射運動 (浅田春美)</p> <p>第11回 神経組織と反射 2 姿勢反射と立ち直り反応 (浅田春美)</p> <p>第12回 神経組織と反射 3 姿勢保持 平衡反応と感覚器 随意運動 (浅田春美)</p> <p>第13回 姿勢と動作／正常歩行動作 1 姿勢と動作 歩行とは (浅田春美)</p> <p>第14回 正常歩行動作 2 歩行の決定要因 (浅田春美)</p> <p>第15回 正常歩行動作 3 歩行周期と筋活動 (浅田春美)</p>
科目の目的	運動学Ⅰで触れなかった肘関節、手指および顎関節の機能解剖、および反射と運動、動作分析(基本動作、歩行動作を含む)、について学習する。【知識と理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肘関節、手指・手関節、顎関節、仙腸関節の運動を機能-構造的見方で説明できる。 2. 運動に必要な感覚器を同定しそれらのメカニズムが説明できる。 3. 運動に関する神経組織の役割を説明できる。 4. 正常歩行動作についてそのメカニズムを説明できる。 5. 力のモーメントの基本、テコについて説明できる。
関連科目	関連し合う科目：解剖学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅰ 表面解剖学と触診法 生理学Ⅰ・Ⅱ この科目が基礎となる科目：理学療法評価学 運動器系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学 臨床動作分析学 日常生活活動学 他
成績評価方法・基準	機能解剖については小テストを実施(50%)、それ以外の内容については定期試験に含む(50%)。60%以上を合格とする
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	項目が多岐にわたるため各項目毎に3時間以上の予習・復習を必要とする
教科書・参考書	教科書 ・高橋正明編：「標準理学療法学・作業療法学 運動学」,医学書院,2012 ・中村隆一他著：「基礎運動学 第6版」,医歯薬出版, ・「病気がみえるvol.7脳・神経」,MEDIC MEDIA, 2015
オフィス・アワー	高橋：火曜日12：10～13：00 浅田：火曜日12：10～13：00
国家試験出題基準	≪専門基礎≫-Ⅰ-3-D,E,F
履修条件・履修上の注意	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
岡崎 大資			
目黒 力	城下貴司	橋口 優	

授業形態	実習16回・講義8回		
授業計画	1. 講義	オリエンテーション (岡崎大資) 実習の手引きと実修書を配布し、授業内容とレポート作成の方法についてオリエンテーションする。	
	2. 講義	姿勢・動作の基礎 (岡崎大資) 姿勢の運動学的基礎	
	3. 講義	歩行の基礎と評価法 (岡崎大資) 歩行の運動学的基礎	
	4. 講義	歩行の基礎と評価法 (岡崎大資) 歩行時の関節運動の観察	
	5. 講義	重心位置測定のオリエンテーション (目黒 力・岡崎大資) 重心位置の測定	
	6. 講義	バランス時重心位置推定のオリエンテーション (目黒 力・岡崎大資) バランス時重心位置推定	
	7. 実習	重心位置の測定 (1) (目黒 力・岡崎大資) てこを用いた身体重心位置の推定1	
	8. 実習	重心位置の測定 (2) (目黒 力・岡崎大資) てこを用いた身体重心位置の推定2	
	9. 実習	重心位置の測定 (3) (目黒 力・岡崎大資) セグメント法に基づく身体重心計測1	
	10. 実習	重心位置の測定 (4) (目黒 力・岡崎大資) セグメント法に基づく身体重心計測2	
	11. 実習	バランス時重心位置推定 (1) (目黒 力・岡崎大資) ランドマークを基準とした立位姿勢アライメントの計測1	
	12. 実習	バランス時重心位置推定 (2) (目黒 力・岡崎大資) ランドマークを基準とした立位姿勢アライメントの計測2	
	13. 実習	バランス時重心位置推定 (3) (目黒 力・岡崎大資) 重心動揺計を用いた重心線の測定1	
	14. 実習	バランス時重心位置推定 (4) (目黒 力・岡崎大資) 重心動揺計を用いた重心線の測定2	
	15. 講義	筋電計・筋収縮様式測定のオリエンテーション (岡崎大資・城下貴司・橋口 優)	
	16. 講義	3次元動作解析・運動学習のオリエンテーション (岡崎大資・城下貴司・橋口 優)	
	17. 実習	筋電計を用いた動作分析 (1) (岡崎大資・城下貴司・橋口 優) 筋電計を用いた筋収縮様態の計測	
	18. 実習	筋電計を用いた動作分析 (2) (岡崎大資・城下貴司・橋口 優) 筋電図処理方法の実習	
	19. 実習	3次元動作解析装置を用いた動作分析 (1) (岡崎大資・城下貴司・橋口 優) 歩行路を設定し、歩行時の床反力、関節モーメントの計測1	
	20. 実習	3次元動作解析装置を用いた動作分析 (2) (岡崎大資・城下貴司・橋口 優) 歩行時の床反力、関節モーメントの分析1	
	21. 実習	筋収縮様式の理解と関節モーメント (1) (岡崎大資・城下貴司・橋口 優) 等尺性・等速性筋収縮様式を理解し、関節モーメントを測定	
	22. 実習	筋収縮様式の理解と関節モーメント (2) (岡崎大資・城下貴司・橋口 優) 環境操作に伴う、関節モーメントの相違の検討	
	23. 実習	運動学習過程の理解と測定 (1) (岡崎大資・城下貴司・橋口 優) 運動学習過程の理解と測定	
	24. 実習	運動学習過程の理解と測定 (2) (岡崎大資・城下貴司・橋口 優) 学習の転移の検討	
科目の目的	(1) レポートを作成するために必要な単位や数値のまとめ方、レポートの構成や体裁などを学び、自分自身の		

	<p>歩行に関する測定実習を行い、身体動作を運動としてとらえる視点と定量的にとらえるということを学ぶ。</p> <p>(2) 身体重心の位置や重心動揺、姿勢保持時の各肢節間のアラインメントの測定など自分自身を対象とした測定実習を行い、基本的姿勢と動作について力学的理解を深める。</p> <p>(3) 運動や動作を解析する各種手法についてグループで実習し、運動学における分析法を修得する。</p> <p>【技能・表現】</p>
到達目標	<p>(1) 人の運動・動作を分析し、運動学的用語を用いた記述ができる。</p> <p>(2) 運動学的分析方法を習得し得られた結果より臨床的意義について理解を深める。</p> <p>(3) 実習内容を客観的に記述したレポート作成できる。</p>
関連科目	運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、臨床動作分析学、解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ
成績評価方法・基準	実習レポート（100％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習：運動学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容の復習と実習の手引き、実習書を熟読のうえ各実習単元にて行う内容を理解した状態で授業に臨むこと。（60分）
教科書・参考書	<p>教科書：指定しない。</p> <p>運動学実習の手引き、実習書を各自に配布する。</p> <p>参考書：基礎運動学（第6版）中村隆一．医歯薬出版</p>
オフィス・アワー	各担当教員の授業後とする
国家試験出題基準	<p>《専門基礎》-Ⅰ-3-B-b, c, d</p> <p>《専門基礎》-Ⅰ-3-D, E, F</p>
履修条件・履修上の注意	<p>運動学・解剖学・生理学等で学んだ知識をリンクさせ各計測・分析を実施するため、基礎知識の予習が必要である。</p> <p>講義開始前に実習書を熟読し、スムーズな実習を行えるように準備をすること。また、実習を中心とした授業であるため、受け身ではなく自ら学ぼうとする態度で受講すること。積極的な授業への参加を望む。</p> <p>実習レポートの成績が不良の者は再提出を課す場合がある。原則として遅刻・欠席は認めない。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
中 徹			

授業形態	講義6コマ・演習9コマ
授業計画	<p>第1回 発達学の学問の周辺と発達の定義・運動発達と秩序性の理解（講義） 発達に関する用語の概念を解説する 発達の概念を事例で考える 発達に関する用語の概念を解説する</p> <p>第2回 マイルストーンと機能的な重要性・機能的メカニズム（講義） 発達学の方法論について解説する・発達の現象学と機能学について解説する</p> <p>第3回 正常運動発達の体験学習 実技1（演習） 背臥位・腹臥位の正常運動発達を体験学習する</p> <p>第4回 正常運動発達の体験学習 実技2（演習） ずり這いと四つ這い・座位と起き上がりの正常運動発達を体験学習する</p> <p>第5回 正常運動発達の体験学習 実技3（演習） 立ち上がり・つたい歩きの正常運動発達を体験学習する</p> <p>第6回 正常運動発達の体験学習 実技4（演習） 歩行の正常運動発達を体験学習する</p> <p>第7回 正常運動発達の体験学習 ワークショップ（演習）【時間内提出課題】 これまでの実技のプレゼンテーションを行う</p> <p>第8回 正常運動発達の体験学習実技まとめ（講義） 実技と講義を交えて正常運動発達についての知識を整理する</p> <p>第9回 姿勢反射と反応の基礎知識（講義） 運動制御における姿勢反射と反応の神経学的・運動学的な役割を理解する</p> <p>第10回 姿勢反射・反応の臨床と誘発実技1（演習） 原始反射の体験と誘発実技を行う</p> <p>第11回 姿勢反射・反応の臨床と誘発実技2（演習） 平衡反応の体験と誘発実技を行う</p> <p>第12回 姿勢反射・反応の臨床と誘発実技3（演習） 立ち直り反応の体験と誘発実技を行う</p> <p>第13回 姿勢反射・反応の臨床と誘発ワークショップ（演習） これまでの実技のプレゼンテーションを行う</p> <p>第14回 姿勢反射・反応の臨床と誘発実技まとめ（講義） 実技と講義を交えて姿勢反射・反応についての知識を整理する</p> <p>第15回 定型的な発達と非定型的な発達 発達の知識を理学療法に応用する（講義） 臨床における発達の障がいの現れ方について紹介する 理学療法に発達学の知識を応用するメリットを理解する 臨床における発達の障がいの現れ方の紹介・理学療法に発達学の知識を応用するメリットを理解する</p>
科目の目的	理学療法に発達の知識を利用できることを知る 本授業はディプロマポリシー1の「知識・理解を高めること」を目的とした科目である。
到達目標	定型発達の現象を説明でき、かつ模倣ができる 姿勢反射・反応の神経学的意義、臨床的意義を説明でき、姿勢反射検査ができる
関連科目	基礎となる科目・・・運動学 将来繋がる科目・・・小児理学療法学・小児科学・臨床神経学Ⅰ（神経内科学）
成績評価方法・基準	実技到達度確認40%＋提出課題10%＋定期試験50%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料の該当部分およびテキストの該当部分を予習する（各回45分程度） 各回の内容と演習を復習する（各回45分程度）
教科書・参考書	教科書1 理学療法・作業療法のための神経生理学プログラム演習2 運動発達と反射 反射検査の手技と評価 教科書2 シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト
オフィス・アワー	月曜日終日
国家試験出題基準	《専門基礎》Ⅰ-3-M・N
履修条件・履修上の注意	演習をとまなうため、動きやすい服装にて受講すること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
後藤 香織			
看護学科と合同授業			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 栄養学の目的 1 食と私たち 食育を忘れないで 食育の必要性</p> <p>第2回 主食と主菜と副菜 どのように選択するのか 自分たちの今の状況を把握せよ</p> <p>第3回 献立の立て方 糖質の種類 献立とはなにか どうして重要なのか 糖質の構造を覚える</p> <p>第4回 糖質の消化と吸収 糖質は最も重要な栄養素であり いかにか体に賢く摂取しているのか知る</p> <p>第5回 糖質の代謝 これが運動のエネルギー源である だから人間は進化できた</p> <p>第6回 エネルギー量の算出 それぞれの学生諸君の使ったエネルギーはどれだけなのか 正しいのか 間違っているのか</p> <p>第7回 脂質の化学 食べ物の脂と体の脂 悪玉は本当に悪玉なのか</p> <p>第8回 脂質の代謝 脂質はどうやって体で使われるのか スポーツではどうしたら燃焼しているのか</p> <p>第9回 蛋白質の化学 筋肉をつけるにはどうしたらいいのか</p> <p>第10回 蛋白質の消化と吸収と代謝 どんな蛋白質が質が高い蛋白質なのか</p> <p>第11回 ビタミンとはなにか どのように摂取する 森鷗外の大失態 ビタミン戦争 ビタミンと病気</p> <p>第12回 ミネラルとは どのような病気になるのか カルシウムと鉄 賢い摂取方法は</p> <p>第13回 どんな献立を作って食べればいいのか 献立の立て方 日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算</p> <p>第14回 献立とスポーツ選手と病気 13回の続き 食品の選び方 スポーツと献立 嚥下障害 病気の時はどうしたらいいのか</p> <p>第15回 まとめ 1回から14回までの内容の確認と復習</p>
科目の目的	<p>捕食という行動は全てを中心であることを深く理解し、人が食べるという行為をどれだけ重要に考えなくてはならないかを知り、人体が必要とする栄養素を学ぶ。さらに自身の摂取エネルギーと消費エネルギーから必要な栄養量、栄養素、運動、休養を求め、よりよい健康状態を保つことを身に漬ける方法を学ぶ。国の施策である「食育」が大学生には危機的な状況であることを知り改善する為に、栄養・休養・運動の三要素を含めて解説する。本学のディプロマポリシーに沿い、保健医療専門職としての栄養学の基礎的知識と、社会人としての食に関する教養を身につけ、食に関する多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解し、保健医療分野と栄養学との関係を見出し、科学的洞察による的確な判断ができ、先進・高度化する栄養分野の基本的知識と技術を提供することや、栄養補給に関わるコミュニケーション能力を身につけ、生涯にわたって栄養に関する知識を身に付けて、自身が健康に過ごすことを身に付け、それを社会に貢献させる。【知識・理解】</p>
到達目標	<p>基礎医学（解剖学、生理学、生化学）に関連した栄養学の基礎を学ぶ。また日々の食品摂取の判断ができるようにする。 栄養素と消化、吸収、代謝に関わる知識の習得、一日の消費カロリーの計算、一日の摂取エネルギーの計算、運動時の代謝、和食の伝統文化、美味しく感じる為の脳科学的方法を身につけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養学の基礎的知識と教養を身につけている。 ・栄養に関わる多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解している。 ・栄養分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる。 ・栄養学分野の基本的技術を提供することができる。 ・NSTを実践するための、コミュニケーション能力を身につけている。 ・生涯にわたって栄養分野を探究し、その発展に貢献する意欲を持っている。 ・人と社会に深い関心を持って、地域の栄養保健医療に寄与できる。 ・人権を尊重し、高い倫理観を持って社会に貢献する姿勢を身につけている。
関連科目	①解剖学Ⅰ・Ⅱ ②生化学 ③生理学 ④病理学
成績評価方法・基準	定期試験85%（定期試験を85点満点とする） 出席回数15%（1回を1%とする）

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	高校の生物学および、解剖学、生理学とを見直しておく。 成分表の後半のページを読んでおく。20分予習する。
教科書・参考書	教科書：新選 食品成分表 (実教出版) 参考書：新体系看護学 人体の構造と機能2 栄養生化学 (メジカルフレンド社) 看護栄養学 (医歯薬出版) リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第2版 栢下淳・若林秀隆 編著 (医歯薬出版)
オフィス・アワー	授業の前後
国家試験出題基準	<理学療法士> 専門基礎分野 1-F-a 2-K-a～g 2-N a, b, c 3-G-1 5-f 13-h
履修条件・履修上 の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
宗宮 真			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 医療のシステムと実際 (1) 「医療関連職種」</p> <p>第2回 医療のシステムと実際 (2) 「保健医療の提供体制・医療保険制度」</p> <p>第3回 医療のシステムと実際 (3) 「医療・保健・福祉の現状」</p> <p>第4回 医療のシステムと実際 (4) 「診療の流れ (患者中心の医療)」</p> <p>第5回 医療のシステムと実際 (5) 「診療の流れ (診断、診療記録、チーム医療)」</p> <p>第6回 医療のシステムと実際 (6) 「医療安全」</p> <p>第7回 健康と疾病 (1)、既出事項の確認 「健康・疾病予防」、既出事項の確認</p> <p>第8回 健康と疾病 (2) 「加齢・疾病・障害」</p> <p>第9回 医学・医療の歩み 「医学・医療の歩み」</p> <p>第10回 医療における課題 (1) 「医療機器・技術の発達」「医療従事者と生命倫理」</p> <p>第11回 医療における課題 (2) 「臓器移植医療」</p> <p>第12回 医療における課題 (3) 「遺伝子診断・出生前診断」</p> <p>第13回 医療における課題 (4) 「救急医療・災害医療」</p> <p>第14回 医療における課題 (5) 「ターミナルケア1 (総論：思想、ケアの実際)」</p> <p>第15回 医療における課題 (6)、既出事項の確認 「ターミナルケア2 (各論：学生の意見発表)」、既出事項の確認</p>
科目の目的	医学・医療分野に関する各講義に先立ち、医学・医療の問題を幅広く概観し、専門分野の学習につなげる。 【知識・理解】
到達目標	医療のシステム、医療の実際、健康と疾病、医学・医療の歩み、医療が抱える課題を幅広く理解し、考えることを目標とする。
関連科目	臨床医学 (内科学、臨床神経学、整形外科学、臨床医学特殊講義、臨床検査・画像診断学、精神医学、小児科学、リハビリテーション医学、老年医学、救急・免疫・感染症学、公衆衛生学)、生命倫理など
成績評価方法・基準	講義内で行う試験 (2回行う。時期や範囲等の詳細については教員が講義内で説明する。70%)、課題提出 (20%)、授業中の質問や確認問題への回答 (10%) 試験・課題等については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。
教科書・参考書	教科書： 使用しない 参考書：「学生のための医療概論 (第3版増補版)」千代豪昭、黒田研二 (医学書院) 参考書：「ケースブック医療倫理」赤林朗、大林雅之ほか (医学書院)
オフィス・アワー	講義終了後。質問の内容により、別に時間を設定する。
国家試験出題基準	《専門基礎》-II-1-A-a, b, c 《専門基礎》-II-1-B-a, b
履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用する場合があるため、前回の配布資料を持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
岡山 香里			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 病理学序論・組織細胞障害と修復機構1 病理学とは、変性</p> <p>第2回 組織細胞障害と修復機構2 アポトーシス、壊死</p> <p>第3回 組織細胞障害と修復機構3 再生、化生、瘢痕治癒</p> <p>第4回 物質代謝異常1 糖質代謝異常</p> <p>第5回 物質代謝異常2 脂質代謝異常</p> <p>第6回 物質代謝異常3 核酸代謝異常、生体内色素代謝異常、無機物代謝異常</p> <p>第7回 循環障害1 循環血液量の異常</p> <p>第8回 循環障害2 閉塞性の循環障害</p> <p>第9回 循環障害3 傍側循環、全身性の循環障害</p> <p>第10回 炎症1 炎症とは、炎症の分類、炎症の経過</p> <p>第11回 炎症2 炎症の各型、自己免疫性疾患</p> <p>第12回 先天異常 遺伝子・染色体異常と発生発達異常</p> <p>第13回 腫瘍1 定義、分類、良性腫瘍と悪性腫瘍</p> <p>第14回 腫瘍2 腫瘍の発生、発育、分化度</p> <p>第15回 腫瘍3 腫瘍の発生要因、腫瘍の種類</p>
科目の目的	病理学とは疾病の原因、発生メカニズムなど、疾病の本態を解明する学問である。病理学総論として代謝障害、循環障害、先天異常、炎症、腫瘍について疾病で生じる変化、経過、疾病の予後を捉え、理解ができるようにする。【知識・理解】
到達目標	1. 疾病の原因、経過、治療法、予後を説明できる。 2. 疾病の検査事項を説明できる。 3. 疾病の病理所見を説明できる。
関連科目	解剖学
成績評価方法・基準	定期試験80%、小テスト20%により成績を評価する。試験形態は筆記試験とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について予習、復習を行うこと。準備学習に必要な時間は1時間程度とする。
教科書・参考書	教科書：講師が配布する資料（授業ごとに配布する） 参考書：なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的な仕組み 小林正伸著 南山堂
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。
国家試験出題基準	《疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進》-II-2-A-a 《疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進》-II-2-A-b
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
栗田 昌裕			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 薬理学とは 薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。</p> <p>第2回 薬物動態 投与経路と薬の吸収。分布、代謝、排泄。</p> <p>第3回 麻酔薬と中枢興奮薬 全身麻酔薬。局所麻酔薬。中枢興奮薬。</p> <p>第4回 解熱鎮痛薬・抗炎症薬と麻薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬。麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。</p> <p>第5回 向精神薬と抗痙攣薬 向精神薬。抗痙攣薬（抗てんかん薬）。</p> <p>第6回 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬 筋弛緩薬の作用と応用。パーキンソン症候群の理解と抗パーキンソン薬の作用。</p> <p>第6回 自律神経薬 自律神経の基礎知識。 コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬。 アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬。</p> <p>第7回 オータコイド オータコイドの種類とその作用。プロスタグランジンの臨床応用。</p> <p>第8回 強心薬 強心薬（ジギタリス）の投与方法。ジギタリスの副作用とその対策。 抗狭心症薬と抗不整脈薬 狭心症治療薬の作用と投与方法。不整脈の分類と治療。抗不整脈薬の種類。</p> <p>第9回 利尿薬と降圧薬 利尿薬。利尿薬の臨床的応用。降圧薬。抗動脈硬化薬。</p> <p>第10回 消化器病薬と駆虫薬 消化性潰瘍治療薬。健胃・消化薬。消化管運動促進薬。 制吐薬。下痢と止痢薬。潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬。駆虫薬。</p> <p>第11回 呼吸器病薬 呼吸器病薬。抗結核薬。</p> <p>第12回 内分泌薬 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬。 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。</p> <p>第13回 血液病薬と抗癌薬 貧血の薬。止血薬。抗血栓療法薬。 抗癌薬の開発と化学療法。抗癌薬の副作用と組み合わせ。</p> <p>第14回 化学療法薬と免疫療法薬 化学療法薬。抗ウイルス剤。免疫について。免疫療法。</p> <p>第15回 消毒薬 滅菌・消毒法。消毒薬の濃度と殺菌速度。</p>
科目の目的	<p>ディプロマ・ポリシーとの関連では、「知識・理解」の項目の「保険医療専門職としての基本的知識」を得ることを目的とする科目である。具体的には、医療の中で投薬（服薬、注射、輸液、外用など）の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1) 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2) 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3) 薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4) 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。</p>
到達目標	<p>薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、理学療法の実践に必要なとされるレベルに到達することを目標とする。</p>
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学
成績評価方法・基準	試験（100％）。

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	短期間の間に広範な内容を学ぶことになるので、毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。その際に、これまでに学んだ疾患に関する知識をよく思い出し、関連付けを明確にしておこう。それが次回の内容を受け入れやすくなり、準備学習を兼ねることになる。復習時間は約1時間。
教科書・参考書	教科書：使用しない。 参考書：「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進3」（医学書院）。
オフィス・アワー	火曜日の昼休み。
国家試験出題基準	【理学療法士】 《専門基礎》Ⅱ-2-B-e
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配布します。配布期間は「授業前日から授業日まで」。持参方法は「各自印刷して授業に持参すること」。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員			
石館 敬三			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 公衆衛生の理解 公衆衛生学の特徴 健康の概念の変遷、予防の概念</p> <p>第2回 人口と公衆衛生 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行</p> <p>第3回 健康指標と保健統計 人口静態・人口動態、年齢調整死亡率、20世紀100年の観察</p> <p>第4回 疫学1 疫学概念、疫学3要因と2要因、記述疫学、分析疫学、後ろ向き研究と前向き研究</p> <p>第5回 疫学2 系統誤差、バイアスとその除去、相対危険度、寄与危険度、因果関係論、スクリーニングの意義と計算</p> <p>第6回 感染症総論 感染症発生の3要因と予防の原則、新興・再興感染症、1類感染症、予防接種</p> <p>第7回 感染症各論 結核、エイズ</p> <p>第8回 母子保健 成人保健 乳児死亡率・妊産婦死亡率 がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病等生活習慣病</p> <p>第9回 老人保健福祉 学校保健 老人保健法、介護保険法、医療介護総合確保推進法</p> <p>第10回 精神保健 精神保健のあゆみ、精神障害の種類、入院治療の形式、精神保健福祉対策、アルコール・薬物依存、自殺予防</p> <p>第11回 生活環境、環境と健康、環境基準、地球環境問題 公害と防止対策、公害健康被害補償の原則</p> <p>第12回 栄養と食品衛生 食中毒発生状況の変遷、食中毒の種類と予防法</p> <p>第13回 産業保健 労働環境、職業病の種類と予防法</p> <p>第14回 衛生行政と社会保障 保健所と区市町村保健センター、社会保障概要</p> <p>第15回 医療行政概要 医療法改正の動向、医療計画、地域医療連携の推進、救急医療体制の整備、医療人材・医療資源の国際比較</p>
科目の目的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。
関連科目	生命倫理、環境学、社会学、情報処理、救急・免疫・感染症学
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。 準備学習に必要な学習時間の目安 1コマあたり4時間
教科書・参考書	<p>【教科書】 「最新臨床検査学講座 公衆衛生学」照屋浩司他著（医歯薬出版） 「国民衛生の動向 2017/2018版」（一般財団法人 厚生労働統計協会）</p> <p>【参考書】 特になし</p>
オフィス・アワー	講義の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	《専門基礎》-Ⅲ-1-B-abcdefghij
履修条件・履修上の注意	保健統計の簡単な計算（例、罹患率、年齢調整死亡率）に習熟するために電算機を持参すること



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
古田島伸雄			
土屋 仁	谷口 杏奈		

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 臨床検査学総論 臨床検査の必要性 (古田島)</p> <p>第2回 検体検査 (1) 一般検査の種類と実際 (古田島)</p> <p>第3回 検体検査 (2) 臨床血液検査の種類と実際 (古田島)</p> <p>第4回 検体検査 (3) 臨床化学検査の種類と実際 (古田島)</p> <p>第5回 検体検査 (4) 免疫検査・ホルモン検査の種類と実際 (古田島)</p> <p>第6回 検体検査 (5) 感染症検査・病理検査の種類と実際 (古田島)</p> <p>第7回 生体検査 (1) 心電図・脳波等などの測定の意義 (古田島)</p> <p>第8回 生体検査 (2) 血液ガス・超音波検査・その他生体検査の意義 (古田島)</p> <p>第9回 画像診断総論 画像診断の種類 画像診断の役割 それぞれの長所と限界 (土屋)</p> <p>第10回 X線検査、正常解剖画像 X線診断の原理、造影剤、マンモグラフィ (土屋)</p> <p>第11回 エックス線CT CTの原理、CTの正常解剖画像、CTの臨床的有用性 (土屋)</p> <p>第12回 超音波、消化管、血管造影、各種造影検査 超音波機器の原理、臨床応用、各種造影検査法を紹介する (土屋)</p> <p>第13回 MRI、 MRIの原理、MRIの臨床的有用性 (土屋)</p> <p>第14回 脳・脊髄、核医学・PET 脳血管障害、放射性同位元素 (RI) とは、機能画像、SPECT、PETの原理と臨床応用 (土屋)</p> <p>第15回 医療被曝 医療従事者が無益な被ばくを避けるために知らなければならない知識について (土屋)</p>
科目の目的	<p>【知識・理解】 多くの病気の正確な診断に、臨床検査・画像診断学は欠かせないものとなっておる。特に、生体検査として、X線、CT、MRI、超音波検査 (US)、核医学 (SPECT、PET) など多くの画像診断法が開発され、発展している。画像により正常解剖の理解が深まるし、画像検査により病気の発生とともに、解剖学的異常、生体内の変化を目で見る事が出来るようになった。一方、血液、尿・便、喀痰等の検体検査の測定法も進化し、臨床判断に大いに寄与している現状である。本科目を学習することにより正常解剖・生理学を分かりやすく理解するとともに、実際に病気の診断に臨床検査・画像診断がどのように利用されているかを知ることを目的とする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液検査など検体検査で何が判るか理解する。 2. 理学療法士として、臨床検査の重要性を十分把握する。 3. X線、CT、MRI、超音波検査 (US)、核医学検査 (SPECT) ・PETの原理を習得する。 4. 正常解剖画像、代表的な病気の典型的な画像を理解する。 5. 正確な病気の診断に画像診断がどのように利用されているか、その役割を理解する。
関連科目	<p>関連し合う教養科目－情報処理、生物学、化学、物理学 この科目が基盤となる専門基礎科目－解剖学Ⅰ・Ⅱ、生物学、生化学、病理学、薬理学、内科学、臨床医学特殊講義、整形外科Ⅰ・Ⅱ、臨床神経学Ⅰ・Ⅱ、小児科学 この科目が基盤となる専門科目－運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、物理療法学、スポーツ障害理学療法学</p>
成績評価方法・基準	定期試験 100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業内容について予習・復習を行い理解しておくこと。 ・準備学習時間の目安は30分。
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 別巻6 臨床検査」/大久保昭行 編 (医学書院)

	<p>参考書：「放射線画像医学 医用放射線科学講座7」/稲本一夫 別府慎太郎 編（医歯薬出版） 「リハビリテーション診断学（下）リハビリテーション医学全書Ⅱ-3」/千野直一 編（医歯薬出版）</p> <p>その他はその都度紹介する。</p>
オフィス・アワー	講義終了後
国家試験出題基準	<p>I 人体の構造と機能及び心身の発達</p> <p>1 -E-a, b, c F-b, c, d</p> <p>2 -C-a, b, c, f, g, h H-a, b, c, d I-a, b, c, d J-a, b, c, d N-a</p> <p>II 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</p> <p>2 -A-a, b, c B-b, c, d</p> <p>5 -C-k 1 0 -C-d, e 1 1 -C-a, b, c, d, e, f, g, h 1 2 -C-a, e, f</p>
履修条件・履修上の注意	・状況に応じて内容が変更される場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
宗宮 真			
正田 純史			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 外科領域 (1) 総論 外科領域の疾患と治療の概要について理解する。(講義担当：宗宮 真)</p> <p>第2回 外科領域 (2) 胸部疾患 外科領域のうち胸部疾患とその治療の概要について理解する。(講義担当：宗宮 真)</p> <p>第3回 外科領域 (3) 腹部疾患 外科領域のうち腹部疾患とその治療の概要について理解する。(講義担当：宗宮 真)</p> <p>第4回 眼科領域 眼科領域における疾患の概要について理解する。(講義担当：宗宮 真)</p> <p>第5回 皮膚科領域、既出事項の確認 皮膚科領域における疾患の概要について理解する。既出事項の確認。(講義担当：宗宮 真)</p> <p>第6回 整形外科領域 整形外科領域における疾患を理解する。(講義担当：正田 純史)</p> <p>第7回 耳鼻咽喉科領域 耳鼻咽喉科領域における疾患を理解する。(講義担当：正田 純史)</p> <p>第8回 泌尿器科領域 泌尿器科領域における疾患を理解する。(講義担当：正田 純史)</p> <p>第9回 産婦人科領域 産婦人科領域における疾患を理解する。(講義担当：正田 純史)</p> <p>第10回 分子生物学 最近の動向について学習する。(講義担当：正田 純史)</p> <p>第11回 臓器移植 最近の動向について学習する。(講義担当：正田 純史)</p> <p>第12回 リハビリテーション診療に必要な画像の診方 (1) 脳疾患 リハビリテーション領域で重要な脳疾患の画像の概要を理解する。(講義担当：宗宮 真)</p> <p>第13回 リハビリテーション診療に必要な画像の診方 (2) 骨関節疾患 リハビリテーション領域で重要な骨関節疾患の画像の概要を理解する。(講義担当：宗宮 真)</p> <p>第14回 リハビリテーション診療に必要な画像の診方 (3) 脊椎・脊髄疾患 リハビリテーション領域で重要な脊椎・脊髄疾患の画像の概要を理解する。(講義担当：宗宮 真)</p> <p>第15回 リハビリテーション診療に必要な画像の診方 (4) 胸部疾患、既出事項の確認 リハビリテーション領域で重要な胸部疾患の画像の概要を理解する。既出事項の確認。(講義担当：宗宮 真)</p>
科目の目的	臨床医学のうち、外科、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科の概要と医学の最近の動向、理学療法士に必要な画像の診方について理解する。【知識・理解】
到達目標	臨床医学の各科で診る疾患の概要、最近の動向、理学療法士に必要な画像の診方について理解し、説明できる。
関連科目	内科学、小児科学、病理学、解剖学Ⅰ・Ⅱ、解剖学実習、生理学Ⅰ・Ⅱ、生理学実習、臨床神経学ⅠⅡ、整形外科ⅠⅡ、リハビリテーション医学、老年医学、臨床検査・画像診断学
成績評価方法・基準	講義内で行う試験(2回行う。時期や範囲等の詳細については教員が講義内で説明する。80%)、授業中の質問や確認問題への回答(20%) 試験については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。
教科書・参考書	教科書：使用しない。 参考書：各授業の際に適宜提示する。
オフィス・アワー	講義終了後。質問の内容により、別に時間を設定する。
国家試験出題基準	《専門基礎》－Ⅱ－2－B－f
履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用する場合があるため、前回の配布資料を持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
岩崎 俊晴			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 概論 1 ＜内科疾患の分類、薬物療法、食事療法＞内科疾患の分類、薬物療法の実際。薬物の作用、濃度。処方箋、医薬品に関する法令。薬用量。食事療法の目的。栄養と疾患の関係。各種病態と食事療法の基本方針。病院食とは。嚥下と栄養補給。</p> <p>第2回 概論 2 一般検査。血液検査。生化学検査。内分泌検査。感染症検査。免疫的検査。腫瘍マーカーとは。生理学的検査。画像検査。</p> <p>第3回 消化器疾患 1 消化器疾患の食事・栄養療法。口腔、食道、胃疾患、腸疾患。</p> <p>第4回 消化器疾患 2 肝、胆のう、膵臓疾患。腹膜疾患。急性腹症。</p> <p>第5回 呼吸器疾患 1 感染性呼吸器疾患。気管支疾患。産業性呼吸器疾患。</p> <p>第6回 呼吸器疾患 2 突発性間質性肺炎。肺腫瘍。肺循環障害。サルコイドーシス。</p> <p>第7回 アレルギー、自己免疫疾患。 アレルギーとは。アレルギー性鼻炎。気管支喘息。アレルギー性肺疾患。膠原病。</p> <p>第8回 循環器疾患 1 心不全。不整脈。</p> <p>第9回 循環器疾患 2 虚血性心疾患。弁膜症。心筋炎。リウマチ熱。</p> <p>第10回 循環器疾患 3 高血圧症。大動脈疾患。末梢動脈疾患。静脈・リンパ系の疾患。</p> <p>第11回 内分泌・代謝疾患 1 内分泌疾患の特徴。間脳、下垂体疾患。甲状腺、副甲状腺疾患、副腎疾患。</p> <p>第12回 内分泌・代謝疾患 2 糖代謝異常（糖尿病、低血糖）</p> <p>第13回 内分泌・代謝疾患 3 脂質代謝異常。尿酸代謝異常。その他の代謝異常。</p> <p>第14回 血液疾患 血液量の異常。脱水。貧血、多血症。血小板の異常。白血球の異常。</p> <p>第15回 内科学における遺伝性疾患。環境因子と内科疾患。 遺伝性疾患の形式。家族性高コレステロール血症について。公害病について。原発事故における健康被害。</p>
科目の目的	臨床医学の中で内科学はすべての疾患を知る上で重要な学問である。特に、疾患の病理生理、診断、治療を学ぶことは臨床の現場で患者の状況を理解し、的確な判断に基づいて検査、治療を施す上で重要である。【知識・理解】
到達目標	疾病の病態生理、診断、治療を一連の流れの中で理解する力を養う。国家試験に役立つ疾患について理解を深め、実際の問題に対応できるようにする。
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、病理学、生理学Ⅰ・Ⅱ
成績評価方法・基準	試験とレポートの総合評価（試験 95%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭に入れておくこと。講義前に授業資料に目を通し、どのような流れの授業なのかを把握しておくこと。授業内容を深く理解するためには30分以上の予習が必要である。
教科書・参考書	参考書：「病気が見える」シリーズ
オフィス・アワー	講義の後20分ほど学内に滞在している。講義した内容に質問があれば出席表を利用する。
国家試験出題基準	＜＜専門基礎＞＞-Ⅱ-11-ABCDE-abcdefg
履修条件・履修上の注意	特になし。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
宗宮 真			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 総論1 整形外科の基礎知識(骨・関節・筋肉・神経・血管の基本構造と機能)</p> <p>第2回 総論2 運動器の評価・診察・検査・治療</p> <p>第3回 整形外科疾患総論1 骨関節・軟部組織の感染症</p> <p>第4回 整形外科疾患総論2 関節リウマチとその類縁疾患</p> <p>第5回 整形外科疾患総論3 慢性関節疾患(退行性・代謝性)</p> <p>第6回 整形外科疾患総論4 先天性骨系統疾患</p> <p>第7回 整形外科疾患総論5、既出事項の確認 先天異常症候群、既出事項の確認</p> <p>第8回 整形外科疾患総論6 代謝性骨疾患</p> <p>第9回 整形外科疾患総論7 骨腫瘍</p> <p>第10回 整形外科疾患総論8 軟部腫瘍、四肢循環障害と阻血壊死性疾患</p> <p>第11回 整形外科疾患外傷論1 外傷総論</p> <p>第12回 整形外科疾患外傷論2 上肢の骨折・脱臼</p> <p>第13回 整形外科疾患外傷論3 下肢の骨折・脱臼(1) 股関節、大腿骨</p> <p>第14回 整形外科疾患外傷論4 下肢の骨折・脱臼(2) 膝関節、下腿骨、足関節、足部</p> <p>第15回 整形外科疾患外傷論5、既出事項の確認 体幹の骨折、既出事項の確認</p>
科目の目的	整形外科疾患の病態、症状、検査、診断、治療についての知識を習得する。特に、整形外科学 I では、整形外科の診断と治療、疾患や外傷の病態を中心とする総論について学ぶ。【知識・理解】
到達目標	整形外科疾患の病態、症状、検査、診断、治療および理学療法を行う際の注意点について説明できる。
関連科目	整形外科学 II、病理学、解剖学、解剖学実習、生理学、生理学実習、運動学、運動学実習、運動生理学、老年医学、臨床検査・画像診断学、リハビリテーション医学、スポーツ医学、義肢学、装具学
成績評価方法・基準	講義内で行う試験(2回行う。時期や範囲等の詳細については教員が講義内で説明する。80%)、授業中の質問や確認問題への回答(20%) 試験については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。
教科書・参考書	教科書：「標準整形外科学(第13版)」 中村利孝、松野丈夫(医学書院) 参考書：各授業の際に適宜提示する。
オフィス・アワー	講義終了後。質問の内容により、別に時間を設定する。
国家試験出題基準	<p>《専門基礎》-II-6-A-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m</p> <p>《専門基礎》-II-6-B-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m</p> <p>《専門基礎》-II-6-C-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m</p> <p>《専門基礎》-II-6-D-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m</p> <p>《専門基礎》-II-6-E-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m</p> <p>《専門基礎》-II-7-A-a, b, c, d, e, f</p> <p>《専門基礎》-II-7-B-a, b, c, d, e, f</p> <p>《専門基礎》-II-7-C-a, b, c, d, e, f</p> <p>《専門基礎》-II-7-D-a, b, c, d, e, f</p> <p>《専門基礎》-II-7-E-a, b, c, d, e, f</p>

履修条件・履修上の注意	教科書を持参すること。前回講義の復習に利用する場合があるため、前回の配布資料を持参すること。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
宗宮 真			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 整形外科学Ⅰの復習 整形外科学Ⅰの定期試験問題の解説と既出事項の確認</p> <p>第2回 整形外科疾患外傷論6 脊髄損傷（1）脊髄損傷の症状のうち、特に、神経症状を中心に学ぶ。</p> <p>第3回 整形外科疾患外傷論7 脊髄損傷（2）脊髄損傷の症状のうち、特に、全身症状や症例を中心に学ぶ。</p> <p>第4回 整形外科疾患外傷論8 末梢神経損傷</p> <p>第5回 整形外科疾患各論1 頸椎疾患</p> <p>第6回 整形外科疾患各論2 胸椎疾患</p> <p>第7回 整形外科疾患各論3 腰椎疾患、既出事項の確認</p> <p>第8回 整形外科疾患各論4 股関節疾患（1）疾患の病態を中心に学習する。</p> <p>第9回 整形外科疾患各論5 膝関節疾患（1）疾患の病態を中心に学習する。</p> <p>第10回 整形外科疾患各論6 股関節疾患（2）・膝関節疾患（2）疾患の画像所見、治療方法、症例を中心に学習する。</p> <p>第11回 整形外科疾患各論7 足関節と足の疾患</p> <p>第12回 整形外科疾患各論8 肩関節疾患</p> <p>第13回 整形外科疾患各論9 肘関節疾患</p> <p>第14回 整形外科疾患各論10 手関節と手の疾患</p> <p>第15回 整形外科疾患各論11、既出事項の確認 疾患各論で学習した重要な疾患についての知識のまとめ。既出事項の確認</p>
科目の目的	整形外科疾患の病態、症状、検査、診断、治療についての知識を習得する。特に、整形外科学Ⅱでは、各論として整形外科疾患を各関節や脊椎などの部位毎に学ぶ。【知識・理解】
到達目標	整形外科疾患の病態、症状、検査、診断、治療および理学療法を行う際の注意点について説明できる。
関連科目	整形外科学Ⅰ、病理学、解剖学、解剖学実習、生理学、生理学実習、運動学、運動学実習、老年医学、臨床検査・画像診断学、リハビリテーション医学、スポーツ医学、義肢学、装具学
成績評価方法・基準	講義内で行う試験（2回行う。時期や範囲等の詳細については教員が講義内で説明する。80%）、授業中の質問や確認問題への回答（20%）試験については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。
教科書・参考書	教科書：「標準整形外科学（第13版）」 中村利孝、松野丈夫（医学書院） 参考書：各授業の際に適宜提示する。
オフィス・アワー	講義終了後。質問の内容により、別に時間を設定する。
国家試験出題基準	《専門基礎》－Ⅱ－6－A－a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》－Ⅱ－6－B－a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》－Ⅱ－6－C－a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》－Ⅱ－6－D－a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》－Ⅱ－6－E－a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》－Ⅱ－7－A－a, b, c, d, e, f 《専門基礎》－Ⅱ－7－B－a, b, c, d, e, f 《専門基礎》－Ⅱ－7－C－a, b, c, d, e, f 《専門基礎》－Ⅱ－7－D－a, b, c, d, e, f 《専門基礎》－Ⅱ－7－E－a, b, c, d, e, f

履修条件・履修上の注意	教科書を持参すること。前回講義の復習に利用する場合があるため、前回の配布資料を持参すること。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
宗宮 真			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 脳血管障害1 脳血管障害総論 これに加えて第1回～第4回に分けて神経学的診察法について学習する。</p> <p>第2回 脳血管障害2 脳出血 これに加えて第1回～第4回に分けて神経学的診察法について学習する。</p> <p>第3回 脳血管障害3 脳梗塞1 病態と症候を中心に学習する。これに加えて第1回～第4回に分けて神経学的診察法について学習する。</p> <p>第4回 脳血管障害4 脳梗塞2 検査と治療を中心に学習する。これに加えて第1回～第4回に分けて神経学的診察法について学習する。</p> <p>第5回 脳血管障害5 くも膜下出血・その他の脳血管障害</p> <p>第6回 脱髄疾患 多発性硬化症などの脱髄疾患</p> <p>第7回 神経変性疾患1 認知症疾患</p> <p>第8回 神経変性疾患2 大脳基底核障害（錐体外路系疾患）1 パーキンソン病を中心に学習する。</p> <p>第9回 神経変性疾患3、既出事項の確認 大脳基底核障害（錐体外路系疾患）2 パーキンソン病以外の疾患について学習する。既出事項の確認</p> <p>第10回 神経変性疾患4 脊髄小脳変性症</p> <p>第11回 神経変性疾患5 運動ニューロン疾患</p> <p>第12回 末梢神経障害 ギラン・バレー症候群などの末梢神経障害</p> <p>第13回 筋疾患 筋ジストロフィーなどの筋疾患</p> <p>第14回 神経筋接合部疾患、機能的疾患 重症筋無力症などの神経筋接合部疾患、てんかんなどの機能的疾患</p> <p>第15回 感染性疾患、既出事項の確認 髄膜炎・脳炎などの感染性疾患、既出事項の確認</p>
科目の目的	神経内科疾患の病態、症状、検査、診断、治療についての知識を習得する。【知識・理解】
到達目標	神経内科疾患の病態、症状、検査、診断、治療および理学療法を行う際の注意点について説明できる。
関連科目	臨床神経学Ⅱ、小児科学、病理学、解剖学、解剖学実習、生理学、生理学実習、運動学、運動学実習、運動生理学、老年医学、臨床検査・画像診断学、リハビリテーション医学、義肢学、装具学
成績評価方法・基準	講義内で行う試験（2回行う。時期や範囲等の詳細については教員が講義内で説明する。80%）、授業中の質問や確認問題への回答（20%）試験については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。
教科書・参考書	教科書： 使用しない。 参考書：「神経内科学テキスト（改訂第4版）」江藤文夫、飯島節（南江堂）
オフィス・アワー	講義終了後。質問の内容により、別に時間を設定する。
国家試験出題基準	《専門基礎》－Ⅱ－8－A－a, b, c, d, e, f, g 《専門基礎》－Ⅱ－8－B－a, b, c, d, e, f, g 《専門基礎》－Ⅱ－8－C－a, b, c, d, e, f, g 《専門基礎》－Ⅱ－8－D－a, b, c, d, e, f, g 《専門基礎》－Ⅱ－8－E－a, b, c, d, e, f, g 《専門基礎》－Ⅱ－9－A－a, b, c 《専門基礎》－Ⅱ－9－B－a, b, c 《専門基礎》－Ⅱ－9－C－a, b, c 《専門基礎》－Ⅱ－9－D－a, b, c

	《専門基礎》－Ⅱ－9－E－a, b, c
履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用する必要があるため、前回の配布資料を持参すること。

講義科目名称：臨床神経学Ⅱ（小児神経学・脳神経外科学）

授業コード：2P064

英文科目名称：Clinical Neurology II (Pediatric Neurology and B...

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
井埜 利博			
設楽 信行			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：精神医学

授業コード：2P065

英文科目名称：Psychiatry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
平尾 良雄			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
井埜 利博			
秋元かつみ			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 小児科学概論 (井埜利博) こどもの成長・発達および保健について学ぶ</p> <p>第2回 小児科学概論 (つづき) ・診断と治療の概要 (井埜利博) こどもの疾患の診断・治療について学ぶ</p> <p>第3回 新生児・未熟児疾患 (井埜利博) 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ</p> <p>第4回 先天異常、先天代謝異常 (井埜利博) 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ 3年生の臨床神経学Ⅱで詳細を学ぶ</p> <p>第5回 神経・筋・骨等疾患 (井埜利博) 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ 3年生の臨床神経学Ⅱで詳細を学ぶ</p> <p>第6回 循環器疾患 (秋元かつみ) 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ</p> <p>第7回 呼吸器疾患 (秋元かつみ) 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ</p> <p>第8回 感染症、消化器疾患 (秋元かつみ) 小児疾患を系統別に学ぶ</p> <p>第9回 内分泌・代謝疾患 (井埜利博) 小児疾患を系統別に学ぶ</p> <p>第10回 血液疾患 (井埜利博) 小児疾患を系統別に学ぶ</p> <p>第11回 免疫・アレルギー疾患、膠原病 (秋元かつみ) 小児疾患を系統別に学ぶ</p> <p>第12回 腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、腫瘍性疾患 (秋元かつみ) 小児疾患を系統別に学ぶ</p> <p>第13回 心身症、神経症など (秋元かつみ) 小児疾患を系統別に学ぶ</p> <p>第14回 重症心身障害児 眼科・耳鼻科的疾患 (井埜利博) 特に重症心身障害児に焦点をあてて学ぶ</p> <p>第15回 1回～14回までの重要箇所について画像などを用いて総括、最低基本的項目を復習する (井埜利博) 既出事項のまとめ</p>
科目の目的	理学療法士として小児のリハビリテーションを行う場合、基礎として、小児の生理・病理を理解し、疾患について学び、将来他の医療スタッフと業務の上で協調できる能力をもつことを目的とする。 ディプロマポリシー：【知識・理解】
到達目標	小児の成長・発達を学び、小児の疾患についても総合的に学ぶ。個々の疾患を覚えるのではなく、各疾患の特異性を平易に理解し学習することを目標とする。
関連科目	解剖学、生理学、人間発達学、内科学、精神医学、小児理学療法学 小児神経学の分野は、臨床神経学Ⅱ(3学年対象)のなかで集中的に行う。
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義では臨床で重要なポイントを話します。受講前に教科書の該当部分を60分程度読んでおいてください。
教科書・参考書	教科書 「標準理学療法学・作業療法学小児科学(第4版)」富田豊編(医学書院) 参考書 「小児科学第7版」中山健太郎、矢田純一編(文光堂)2004. 「NEW小児科学改訂版」清野佳紀、小林邦彦、原田研介、桃井真理子編(南江堂)2003.
オフィス・アワー	授業の前後
国家試験出題基準	《専門基礎》Ⅱ-9・10・11
履修条件・履修上	講義日程が変則的になる場合があるので、事前連絡に注意すること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
宗宮 真			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 リハビリテーション診療の概要 障害学、病期別リハビリテーション、診察、評価、検査、治療</p> <p>第2回 障害の病態生理と評価・治療（1） 廃用症候群</p> <p>第3回 障害の病態生理と評価・治療（2） 循環機能障害、呼吸機能障害</p> <p>第4回 障害の病態生理と評価・治療（3） 運動障害、歩行障害</p> <p>第5回 障害の病態生理と評価・治療（4） 摂食・嚥下障害</p> <p>第6回 障害の病態生理と評価・治療（5） 高次脳機能障害</p> <p>第7回 障害の病態生理と評価・治療（6）、既出事項の確認 老化による障害（老年症候群）、発達障害、既出事項の確認</p> <p>第8回 疾患とリハビリテーション（1） 脳血管障害</p> <p>第9回 疾患とリハビリテーション（2） 脊髄損傷</p> <p>第10回 疾患とリハビリテーション（3） 神経筋疾患</p> <p>第11回 疾患とリハビリテーション（4） 骨関節疾患</p> <p>第12回 疾患とリハビリテーション（5） 切断と義肢</p> <p>第13回 疾患とリハビリテーション（6） 呼吸器疾患、循環器疾患</p> <p>第14回 疾患とリハビリテーション（7） 内部障害、悪性腫瘍</p> <p>第15回 疾患とリハビリテーション（8）、既出事項の確認 小児疾患（脳性麻痺など）、既出事項の確認</p>
科目の目的	<p>1. 運動障害、廃用症候群、循環・呼吸機能障害、嚥下障害、高次脳機能障害、老年症候群、発達障害などの病態生理・評価・リハビリテーションの概要や注意点について理解する。</p> <p>2. 脳血管障害、脊髄損傷、神経筋疾患、骨関節疾患、切断と義肢、呼吸器疾患、循環器疾患、内部障害、悪性腫瘍、小児疾患などの疾患の病態とリハビリテーションの概要や注意点について理解する。</p> <p>【知識・理解】</p>
到達目標	リハビリテーションの対象となる障害や疾患の病態生理・評価およびリハビリテーションを行う際の注意点について説明できる。
関連科目	臨床神経学、整形外科学、小児科学、内科学、病理学、解剖学、解剖学実習、生理学、生理学実習、運動学、運動学実習、運動生理学、老年医学、臨床検査・画像診断学、義肢学、装具学
成績評価方法・基準	講義内で行う試験（2回行う。時期や範囲等の詳細については教員が講義内で説明する。80%）、授業中の質問や確認問題への回答（20%）試験については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。
教科書・参考書	教科書：使用しない。 参考書：各授業の際に適宜提示する。
オフィス・アワー	講義終了後。質問の内容により、別に時間を設定する。
国家試験出題基準	<p>《専門基礎》－Ⅱ－3－A－a, b</p> <p>《専門基礎》－Ⅱ－3－B－a, b, c, d, e</p> <p>《専門基礎》－Ⅱ－3－C－a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m, n, o</p> <p>《専門基礎》－Ⅱ－3－D－a, b</p> <p>《専門基礎》－Ⅱ－3－E</p> <p>《専門基礎》－Ⅱ－3－F－a, b, c</p>

	《専門基礎》－Ⅱ－3－G－a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l 《専門基礎》－Ⅱ－3－H－a, b, c, d, e
履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用する場合があるため、前回の配布資料を持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
尾林 徹			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 老化と老年病の考え方、生理機構の加齢変化 老化とは、加齢による生理機能の低下と疾病、老年症候群と機能評価、理学・作業療法との関連事項、感覚機能、自律機能、高次神経機能の加齢変化</p> <p>第2回 運動機能と精神心理面の加齢変化、高齢者に特徴的な症候と疾患、老年症候群 高齢者の運動機能、運動機能の加齢変化、知能の障害発達、記憶の加齢変化、人格、老年期の創造性の特徴 老年症候群の概念、代表的な老年症候群</p> <p>第3回 高齢者に特徴的な症候と疾患、 循環器疾患：うっ血性心不全、虚血性心疾患、脳血管障害、血圧異常、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、血管疾患、呼吸器感染症、誤嚥と誤嚥性肺炎、肺癌、閉塞性肺疾患、間質性肺炎 高齢者の消化器癌、上部消化管疾患、腸疾患、肝疾患、胆道・膵疾患</p> <p>第4回 骨運動器疾患、精神神経疾患 骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靭帯骨化症、関節リウマチ 精神神経機能の老化、老年痴呆、うつ病、パーキンソン病、多系統萎縮症と自律神経障害、末梢神経障害</p> <p>第5回 内分泌・代謝疾患、血液・免疫疾患、腎・泌尿器疾患、皮膚・口腔疾患、感染症、高齢者との接し方 糖尿病、高脂血症、甲状腺疾患、痛風、貧血、白血病と骨髄低形成症候群、多発性骨髄腫、膠原病 腎不全、尿路感染症、前立腺疾患、皮膚疾患、口腔疾患 高齢者の感染症の原因と特徴、診断の進め方、治療の留意点、臓器別感染症の特徴、院内感染対策とMRSA、高齢者との接し方：医療従事者の心得、患者・家族とのかかわり</p> <p>第6回 高齢者の機能評価、高齢者の退院支援、高齢者の定義および人口動態 高齢者の機能評価の意義、日常生活活動度の評価、知的機能の評価、QOLの評価 高齢者における退院支援の必要性、介護保険下の退院支援、高齢者の定義、世界と日本における人口動態</p> <p>第7回 社会学・経済学から見た高齢社会、高齢者の医療・看護・介護・福祉・保険 高齢社会の問題とは、生産人口、生産能力、健康度分布、世代間問題、高齢者の医療、看護、介護・福祉、介護保険制度、老人保健</p> <p>第8回 高齢者のリハビリテーション 高齢者のリハビリテーションの考え方、理学療法、作業療法、言語療法のみと、高齢者医療全般のみと</p>
科目の目的	理学療法士として高齢者とのどのように接してゆくか、何ができ、何が困難かを考える一助とする。 高齢者に見られる代表的な疾患（疾病、病気）について、その自覚症状、身体所見、臨床検査所見、診断、病態、成因、治療方法などの概要を学び、すでに履修した関連科目（後記）の知識をもとに、疾患、病気に関わる臨床的基礎を修得する。到達度は試験により判定する。【知識・理解】
到達目標	リハビリを支えるための老年医学の主要な概念と知識を一定レベルの水準を満たすように獲得すること。 正答率が65%に到ること。
関連科目	生化学 解剖学I II 生理学I II 運動学I
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回の講義内容をよく復習し理解を深めておく、0.5時間以上。
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：特になし、適宜紹介する。
オフィス・アワー	講義日の昼休み、夕まで可。
国家試験出題基準	《専門基礎》-II-13-A~E-abcdefgh
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：救急・免疫・感染症学

授業コード：2P069

英文科目名称：Clitical Care Medicine, Immunology and Infectiou…

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
近土真由美			
北林 司			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：スポーツ医学

授業コード：2P070

英文科目名称：Sports Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
山口 光國			
松田 直樹			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：緩和医療学

授業コード：2P071

英文科目名称：Palliative Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
木村 朗			
斎藤 龍生	小林 剛	小和田美由紀	

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	授業のはじめの30分程度講義を行い、残りの時間は講義で取り上げた内容についてワーク（個別・グループ）を行う。		
授業計画	第1回	自分を知る 対人援助職において、相手の価値観を知り、その人について理解を深めることは、被援助者との間に望ましい人間関係を築いていく上で実りの多いことである。しかし、相手の価値観を知る前に、まずは自分の価値観を意識化しておく必要がある。本講義では、SCT（文章完成法を行い、「自分とは何か」という問いに対する答えを考える。 key words：自己理解、SCT	
	第2回	心理療法（1） 「心の天気」 私たちは、いろいろなことを感じて、それを誰かに聞いてもらいたかったり、表現したかったりする。しかし、なかなか上手く言えなかったり、聞いてもらえなかったりするので、表現することをあきらめてしまうことがよくある。そうすると、しまいには、自分が何を感じているのか自分でもわからなくなってしまい、落ち着きがなくなったり、わけもなく不安になったりする。本講義では、「このころの天気」というワークを通じ、ころを天気にならして例えてみることで、今の自分の感じをわかりやすく表現し、今の自分のころはどのような状態なのかきちんと把握する体験をする。 key words：このころの天気、からだの感じ調べ	
	第3回	心理療法（2） 「自立訓練法」 私たちのころと体は密接な関係があり、不安やストレスが原因で体に症状が出ることもある。逆に、体の緊張を解きほぐすことでころが穏やかになり、リラックスできるとも考えられる。本講義では「不安階層表」を作成することにより自分が不安になる場面を想起し、一時的に不安状態になったころで自己催眠法である「自律訓練法」を実施し、不安を緩和する体験をする。 key words：不安階層表、自立訓練法、基本公式、第一公式、第二公式	
	第4回	心理療法（3） 「LAC法」（1） 大学入学後、本業である学業に対して無気力となり、サークル活動やアルバイト、余暇活動などに没頭するというころは、誰でも経験し得ることである。そのような時は、自分の人生・生活全体を詳しく丁寧に分析して振り返り、自発的に自分の人生（生活）の目的（やりたいこと・やるべきこと）を設定して、意欲的に目的の達成に取り組んでいくことが必要である。本講義では、そのような取り組みを支援する方法である生活分析的カウンセリング(life analytic counseling)について、事例を通して実施方法や臨床への活用方法について学ぶ。 key words：生活分析的カウンセリング、スチューデント・アパシー	
	第5回	心理療法（4） 「LAC法」（2） 前回の講義で学んだLAC法を体験する。 key words：生活分析的カウンセリング、必要性、可能性、平均	
	第6回	心理療法（5） 「ストレスマネジメント」 対人援助職が他者に対して支援を行う際、まずは自らの心身の健康を保つことが求められる。同じ体験をしても、ストレスを強く感じる人と、それほど感じない人がいるが、その一因としてストレスへの対処法の得手・不得手が挙げられる。本講義では、質問紙への回答を通して、ストレスを引き起こす原因である「ストレッサー」が自分の身の回りにどれくらいあるかを把握し、ストレスマネジメントのワークを通してストレッサーによって「ストレス反応」が生じさせられることを防ぐための対処法を体験する。 key words：ストレッサー、ストレス反応、ストレスコーピング	
	第7回	心理療法（6） 「解決志向ブリーフセラピー」 カウンセリングや心理療法において、クライアントの問題が解消するまでにかかる時間はクライアントによってまちまちであり、中には何年もの時間を要するケースもある。ブリーフセラピーとは、クライアントとカウンセラーができるだけ協力して、効率的な問題解決を目指す心理療法である。本講義ではそのエッセンスを活用した「解決志向ブリーフセラピー」を体験し、日常生活で抱えている問題の解決の糸口を見つけ出すことを目指す。 key words：ブリーフセラピー、スケールリングクエスチョン、コーピングクエスチョン、エクセプショナルクエスチョン、ミラクルクエスチョン	
	第8回	心理療法（7） 「タッピングタッチ」 タッピングタッチとは、指先の腹のところを使って、左右交互に、軽く弾ませるようにタッチすることを基本としたホリスティック（統合的）でシンプルなケアの手法である。本講義ではペアワークを通してタッピングタッチを体験し、その手法を習得する。 key words：タッピングタッチ、トラウマケア	
	第9回	心理療法（8） 「フォーカシング」（1） フォーカシングとは、やさしい、許容的な態度で自分のからだに注意を向け、「フェルト・センス」と呼ばれる微妙な水準の認識に気づくようになるプロセスのことである。本講義から3回に渡って、フォーカシングの基本的技法を練習する。本講義では、フェルト・センスを感じるための練習を行う。 key words：フォーカシング、フェルト・センス、からだの感じ調べ	
	第10回	心理療法（9） 「フォーカシング」（2） 前回に続いて、フォーカシングの技法を練習する。本講義では、からだの内側で感じている感じにぴったりの言葉やイメージ、あるいは音やジェスチャーである「取っ手」を手に入れる練習や、その感じと一緒にいる練習を行う。	

	<p>key words : フォーカシング, 「取っ手」</p> <p>第11回 心理療法 (10) 「フォーカシング」 (3) フォーカシングの練習の最終講義。 私たちは、何か心配なことや気がかりなことがあると、それが頭から離れず、本来やるべきことに手が付けられないということがある。本講義では、自分の内面にある気がかりや問題を挙げていき、思い浮かんだものから適当な心理的距離をとる方法である「クリアリング ア スペース (clearing a space : CAS) の練習を行う。 key words : フォーカシング, クリアリング ア スペース</p> <p>第12回 心理療法 (11) 「行動療法」 行動療法では、クライアント(または保護者等)とカウンセラーが共同して行動面での治療目標を立て、さまざまな技法を用いて不適切な反応を修正する。たとえば、楽しい雰囲気の中で、スモールステップで、徐々に恐怖対象に近づき、慣れるようにさせたり、賞賛やごほうび等を用いて、新しく適切な反応(感情や行動)を習得させる。本講義では、スモールステップの目標設定の練習を行う。 key words : 行動療法, スモールステップ, 強化, 強化子</p> <p>第13回 心理療法 (12) 「認知行動療法」 「無くて七癖」ということわざがあるように、誰にでも“クセ”というものがあるが、実は、ものの考え方にも“クセ”がある。認知行動療法とは、自分の考え方のクセ(自動思考)に気が付き、その誤りや偏りを適切な方向に修正していくという心理療法である。本講義では、自らの自動思考に気が付き、適切な考え方を探る練習を行う。 key words : 認知行動療法, 自動思考</p> <p>第14回 臨床心理アセスメント (1) 質問紙法 質問紙法は、印刷された質問文、またはウェブサイト上の質問文に対して、いくつかの選択肢からあてはまるものを回答する臨床心理アセスメントのための道具である。本講義では、POMS2日本語版を体験し、自分のおかれた条件の下で変化する一時的な気分・感情を測定する。 key words : 質問紙法, POMS2</p> <p>第15回 臨床心理アセスメント (2) 描画法 様々な対象を指定して画用紙に絵を描かせる心理検査を「描画法」と総称している。画用紙という環境にいかにか自己表現するかによって、被検査者のパーソナリティの構造や動き具合を測定しようとする検査である。本講義では風景構成法を体験し、その理論や臨床への適応について学ぶ。 key words : 描画法, 空間象徴, 風景構成法</p>
<p>科目の目的</p>	<p>私たちは、様々な悩みや問題を抱えながら生きている。カウンセリングでは、人がこうした悩みや問題に自分らしく向き合っていくプロセスに寄り添い、その方のこころを聴かせていただく。 本講義では、「カウンセリングとは何か」を深く理解できるよう、カウンセリングの実践における理論と技法を学ぶ。また、さまざまな疾病・障害を持っている患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。</p> <p>ディプロマポリシー：【知識・理解】</p>
<p>到達目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 傾聴について理解を深め態度を習得する。 2. 自分自身のこころに向き合っていけるようになる。 3. 精神科系統の疾患・障害をもつ患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。 4. 病気になる、障害を負うということ考えることで、理学療法士として必要な援助的態度を身につける。
<p>関連科目</p>	<p>【教養・共通基盤科目群】心理学, 教育学, 教育心理学, 生命倫理, 哲学, 人間と宗教, 社会学, 生活文化と医療, 大学の学び入門, 大学の学び—専門への誘い—, 多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ, 生理学Ⅱ, 人間発達学, 公衆衛生学, 臨床神経学Ⅰ(神経内科学), 臨床神経学Ⅱ(小児神経学・脳神経外科学), 精神医学, 小児科学, リハビリテーション医学, 老年医学, 臨床心理学, リハビリテーション関連領域論, 安全管理, 医療統計学, 障害者スポーツ・レクリエーション論</p> <p>【専門科目群】小児理学療法学, 理学療法特殊講義</p>
<p>成績評価方法・基準</p>	<p>定期試験(レポート形式・80%)に毎回の受講後に作成する小レポートの評価(20%)を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次の講義の冒頭に行う。</p>
<p>準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安</p>	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>【教科書】 なし(必要に応じて資料を配布)</p> <p>【参考書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著(2009)「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」北大路書房 ※ 必修科目「心理学」の教科書</p> <p>下山晴彦編著(2009)「よくわかる臨床心理学」ミネルヴァ書房 ※ 必修科目「臨床心理学」の教科書</p>
<p>オフィス・アワー</p>	<p>月・水・木・金の昼休み(1号館305研究室および1号館・4号館学生相談室)</p>
<p>国家試験出題基準</p>	<p>【理学療法士】 《専門基礎》—Ⅱ—4—D</p>
<p>履修条件・履修上の注意</p>	<p>講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業(他の科目の学習等)は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
松澤 正			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 リハビリテーションとは 定義、理念、歴史</p> <p>第2回 障害論 障害とは、障害のレベル、障害者の実態</p> <p>第3回 障害者の心理 障害者の心理的適応、特徴、障害受容</p> <p>第4回 リハビリテーションの構成 医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション</p> <p>第5回 医学的リハビリテーション 目的によるリハビリテーション、時期的リハビリテーション</p> <p>第6回 チーム医療 リハビリテーション医療の職種</p> <p>第7回 リハビリテーション医療の進め方 診断、情報収集、ケース会議</p> <p>第8回 地域リハビリテーション 地域リハビリテーションとは、地域リハビリテーションの施設</p> <p>第9回 リハビリテーションにおける評価学 評価とは、情報収集の方法、評価の種類</p> <p>第10回 リハビリテーションにおける治療学 リハビリテーションの治療手段、理学療法、作業療法、補装具療法</p> <p>第11回 教育的リハビリテーション 特別支援教育の歴史、特徴</p> <p>第12回 職業的リハビリテーション 職業的リハビリテーションとは、職業相談、職業評価、職業訓練、就職斡旋</p> <p>第13回 社会的リハビリテーション 社会的リハビリテーションとは、社会保障、社会保険、社会福祉</p> <p>第14回 寝たきり老人のリハビリテーション 寝たきり老人とは、寝たきり老人の実態、障害、リハビリテーション</p> <p>第15回 認知症リハビリテーション 認知症のリハビリテーション</p>
科目の目的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置付けや役割を理解させる。【知識・理解】
到達目標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関連科目	理学療法概論、リハビリテーション医学
成績評価方法・基準	試験100%（レポートを課す場合もある）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1. 障害や福祉に関する用語を調べ、学習する。 2. できれば障害福祉施設でのボランティア活動をする。 1コマあたりの準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：使用しない（プリント教材を資料する） 参考書1：「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 参考書2：「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	《専門基礎》 Ⅲ-2-A-a`e, B-a. b, C-a`d, D-a`d, E-a`e
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：リハビリテーション関連領域論

授業コード：2P074

英文科目名称：Related Fields to Rehabilitation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
関 修司			
伊藤まゆみ	星野 泰栄	谷 哲夫	

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義を中心に、随時10分程度のワーク（個別・グループ）も取り入れる。		
授業計画	第1回	臨床心理学とは何か 臨床心理学とは、心の不健康な人々を健康へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本講義では、臨床心理学の歴史や構造について学ぶ。	
	第2回	無意識の心理学（1） 精神分析とは、オーストリアの神経学者フロイトによって創始された人間の心を研究する方法であり、理論であり、精神疾患や不適応の治療法である。本講義では、心理療法としての精神分析を中心に、その基本概念について学習する。 key words：意識、前意識、無意識、エス（イド）、自我、超自我、エディプス・コンプレックス	
	第3回	無意識の心理学（2） 分析心理学はスイスの精神医学者カール・グスタフ・ユングによって創始された心理学・心理療法であり、一般にユング心理学として知られている。ユングは当初フロイトから強い影響を受けたが、その理論の違いからフロイトと決別することになる。本講義では、フロイトの理論との比較を通してユングの理論について理解を深める。 key words：個人的無意識、普遍的無意識、元型、症状の持つ意味、夢分析	
	第4回	クライアント中心療法 カール・ロジャースは20世紀アメリカを代表する心理学者の1人である。ロジャースは人間の本質を善ととらえる人間観に基づき、人間の成長力、主体性を重視し、心理療法を「クライアント中心」に進めていくという大きな変革をもたらした。本講義ではロジャースの生涯をたどり、その理論の変遷について理解する。 key words：クライアント中心療法、パーソン・センタード、静かなる革命、受容、共感、自己一致、建設的なパーソナリティ変化が生じるための必要かつ十分な条件	
	第5回	臨床心理アセスメント 臨床心理アセスメントは、対象となる事例の心理的側面に関する情報（データ）を収集し、その情報を統合し、事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業である。臨床心理アセスメントが精神医学的診断と同一のものとして混同されることがあるが、本質的には臨床心理アセスメントは精神医学的診断とは異なる特徴を持っている。本講義では、臨床心理アセスメントの技法について学び、精神医学的診断との違いについて理解を深める。 key words：面接法、観察法、検査法	
	第6回	障がいの理解とスポーツ（初級障がい者スポーツ指導員基準カリキュラム（1）） 初級障がい者スポーツ指導員とは、地域で活動する指導者で、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する者である。本講義ではその基準カリキュラムの一部である「知的障害」について学び、理解を深める。 key words：初級障がい者スポーツ指導員、知的障害	
	第7回	障がいの理解とスポーツ（初級障がい者スポーツ指導員基準カリキュラム（2）） 前回に続き、初級障がい者スポーツ指導員の基準カリキュラムの一部である「知的障害」と、「精神障害」について学び、理解を深める。 key words：初級障がい者スポーツ指導員、知的障害、精神障害	
	第8回	こころの問題を理解する（1） 「不安症／不安障害（神経症）」 不安症／不安障害（神経症）は主に心理的原因によって生じる心身の機能障害の総称であり、精神病とは異なる。本講義では不安症の種類や支援の方法について学び、理解を深める。 key words：分離不安症、選択制緘黙、限局性恐怖症、社交不安症、パニック症、広場恐怖症、全般不安症	
	第9回	こころの問題を理解する（2） 「身体症状症と解離性同一症／解離性同一性障害」 神経症（ノイローゼ）の一類型として扱われていた「ヒステリー」は、DSM-III以降、ヒステリー概念が排除されたために、「転換ヒステリー」が「身体表現性障害」に、「解離性ヒステリー」は「解離性障害」として改められた。更に、DSM-5では「身体表現性障害」は「身体症状症」に、「解離性障害」は「解離症」に改められた。本講義では両社の下位分類や支援の方法について学び、理解を深める。 key words：身体症状症、転換性障害、病気不安症、解離性健忘、解離性同一症、離人感・現実感消失症	
	第10回	こころの問題を理解する（3） 「摂食障害」 摂食障害は、極端な食事制限や大量の食糧摂取と排出行為など、摂食の問題が含まれる精神疾患であり、1980年代にDSMに登場して以降、先進国を中心に増加している。その背景として、やせを礼賛し体重増加を恐れる文化の影響や母子関係のつまりき等が考えられる。本講義では摂食障害の種類と支援の方法について学び、理解を深める。 key words：神経性やせ症／神経性無職欲症、神経性過食症／神経性大食症	
	第11回	こころの問題を理解する（4） 「性障害・性別違和」 性に関する問題は周辺のテーマであると考えられがちで、教科書や講義で取り上げられることはあまりない。そのため、訓練を受けた専門家でも、性に関する知識を十分に持っていない場合がしばしばある。しかし、その一方で性とは、人間のアイデンティティの根幹にあってQOLに重大な影響を及ぼす事柄であり、臨床心理学でも大事なテーマになる。本講義ではDSM-5に収載されている3つの障害について理解を深め、その支援の方法について検討を行う。 key words：性機能不全、パラフィリア（性嗜好異常）、性別違和	

	<p>第12回 こころの問題を理解する（5） 「パーソナリティ障害」 パーソナリティ障害とは、思考・感情・行動などのパターンが平均から著しく逸脱し、社会生活や職業生活に支障をきたしている状態を指し、正常な状態とは言えないが病気であるとも言えない状態である。本講義ではパーソナリティ障害の分類と支援の方法について学び、理解を深める。 key words：猜疑性／妄想性パーソナリティ障害、シゾイド／スキゾイドパーソナリティ障害、統合失調型パーソナリティ障害、境界性パーソナリティ障害、演技性パーソナリティ障害、自己愛性パーソナリティ障害、反社会性パーソナリティ障害、回避性パーソナリティ障害、依存性パーソナリティ障害、強迫性パーソナリティ障害</p> <p>第13回 こころの問題を理解する（6） 「気分障害」 DSM-IV-TRでは、気分障害とは感情が正常に機能しなくなった状態を指す。人は誰でも気分の浮き沈みを経験するが、気分障害においては、その浮き沈みの程度や期間が著しく、睡眠障害などの身体症状も現れる。本講義では気分障害の種類とその支援方法について学び、理解を深める。 key words：双極Ⅰ型障害、双極Ⅱ型障害、うつ病／大うつ病性障害</p> <p>第14回 こころの問題を理解する（7） 「統合失調症」 統合失調症は、幻覚や妄想という症状が特徴的な精神疾患である。それに伴って、人々と交流しながら家庭や社会で生活を営む機能が障害を受け（生活の障害）、「感覚・思考・行動が病気のために歪んでいる」ことを自分で振り返って考えることが難しくなりやすい（病識の障害）という特徴を併せもっている。本講義では統合失調症の種類と支援の方法について学び、理解を深める。 key words：緊張型、解体（破瓜）型、妄想型</p> <p>第15回 生涯発達心理学 生涯発達心理学とは、誕生から死にいたるまでの間の生涯に渡る様々な変容過程を研究対象とし、そこに偏在する法則性を見出そうとする科学である。本講義では、エリクソンが区分した8つの発達段階と、それぞれの段階に固有の発達課題について学び、人間の生涯に渡る発達について理解を深める。 key words：生涯発達心理学、エリクソン、発達段階、発達課題</p>
<p>科目の目的</p>	<p>臨床心理学とは、心の不健康な人々を健康へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本講義では、臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。</p> <p>ディプロマポリシー：【知識・理解】</p>
<p>到達目標</p>	<p>1. 臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能、および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して、人間への深い理解を形成する。 2. 人間への深みのある理解を通して、自己理解、他者理解、人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。 3. 保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。 4. 治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法について理解を深める。</p>
<p>関連科目</p>	<p>【教養・共通基盤科目群】心理学、教育学、教育心理学、生命倫理、哲学、人間と宗教、社会学、生活文化と医療 【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ、人間発達学、公衆衛生学、臨床神経学Ⅰ（神経内科学）、臨床神経学Ⅱ（小児神経学・脳神経外科学）、精神医学、小児科学、リハビリテーション医学、老年医学、カウンセリング、リハビリテーション関連領域論、安全管理、医療統計学、障害者スポーツ・レクリエーション論 【専門科目群】小児理学療法学、理学療法特殊講義</p>
<p>成績評価方法・基準</p>	<p>定期試験（80％）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（20％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>
<p>準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安</p>	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>【教科書】 下山晴彦編著（2009）「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房 山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房 ※ 必修科目「心理学」の教科書</p>
<p>オフィス・アワー</p>	<p>月・水・木・金の昼休み（1号館305研究室および1号館・4号館学生相談室）</p>
<p>国家試験出題基準</p>	<p>【理学療法士】 ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-A-a ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-A-b ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-A-c ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-B-a ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-B-b ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-B-c ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-C ≪専門≫-Ⅰ-3-E-a ≪専門≫-Ⅰ-3-E-b ≪専門≫-Ⅰ-3-F-a ≪専門≫-Ⅰ-3-F-b ≪専門≫-Ⅰ-3-F-c</p>
<p>履修条件・履修上の注意</p>	<p>講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p> <p>「初級障がい者スポーツ指導員」の資格取得要件科目です。</p>

講義科目名称：安全管理

授業コード：2P076

英文科目名称：Security Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	必修
担当教員			
根生とき子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：生体計測工学

授業コード：2P077

英文科目名称：Biomeasurement Engineering

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
目黒 力			
仲保 徹			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
木村 朗			

授業形態	講義1-15コマと演習1-15コマ すべて講義と演習の併用		
授業計画	第1回	統計学の基礎と医療統計 日常生活と医療における統計を基に確率と統計を考える（次回の事前学習用課題呈示）	
	第2回	1次元のデータ 代表値	
	第3回	2次元のデータ 散布図 相関係数 直線のあてはめ	
	第4回	確率 ランダムネス 確率の定義	
	第5回	確率変数 確率分布	
	第6回	確率分布 1 二項分布 正規分布 ほか	
	第7回	確率分布 2 指数分布	
	第8回	多次元の確率分布 同時確率分布	
	第9回	大数の法則と中心極限定理 大数の法則と中心極限定理の応用	
	第10回	標本分布 母集団と標本 母数	
	第11回	正規分布からの標本 標本分散の標本分布	
	第12回	推定 標本と母平均に基づく母分散の求め方による区間推定	
	第13回	仮説検定 検定の考え方	
	第14回	回帰分析 回帰分析 回帰係数の推定	
	第15回	医療統計入門 Rを用いた重回帰およびロジスティック回帰分析の演習	
科目の目的	医療に携わる者として、大学教養レベルの統計学の基本的な知識を身につけ、医療に関連する課題に対する正しい統計手法の適応について理解し、生涯にわたり医療における不確実な課題に統計学を応用できる態度を滋養すること。 DPに則った目的は保健医療分野の諸課題を見出し科学的洞察による的確判断ができる事。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は数の概念を説明できるようになること。 2. 学生はヒストグラムの概念と線形代数を応用することで、高校数学とは一線を画す確率を用いた現象の見方について説明できるようになること。 3. 学生は医療の課題で用いられる代表値と記述統計について統計検定2級程度の問題が解けるようになること。 4. 学生は確率密度関数、確率分布の説明ができるようになること。 5. 学生は分散分析、点推定、区間推定、検定について医療研究において頻出する例を挙げるができるようになること。 6. 学生は統計ソフトウェアRの基本的な操作をアシスタントツールを用いて操作できるようになること。 		
関連科目	情報処理Ⅰ・情報処理Ⅱ、生活の中の数学、公衆衛生学、理学療法研究論、卒業研究		
成績評価方法・基準	期末時筆記テスト80%、小テスト20%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Web上のkimuakilab.main.jpに掲載された事前学習ストリーミング動画を視聴し、初めて聞く単語について、書き出し、ネット等で可能な範囲で内容を理解できるようにしておくこと。予習にかかる目安の時間は微積・統計を高校で履修した者は予習30分、履修していない者は90分程度、授業中にPC操作が完了した者の復習目安時間は30分、それ以上かかった者は本人の能力に応じて60分から120分。		
教科書・参考書	教科書：基礎統計学1 統計学入門 東京大学出版会。 参考サイト：kimuakilabo 学部学生向け、統計学習コーナー		
オフィス・アワー	火or水12:10~12:50(木村研究室)		

国家試験出題基準	1-1-E・F・G・I-d・e 1基礎理学療法 1理学療法の基本 E臨床疫学 F医療統計 Gエビデンスに基づく理学療法 I過程 d治療介入e 効果判定
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
担当教員			
一場美根子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1・2回 社会保障制度と社会福祉 (1)自分たちの生活と保健・医療・福祉制度とのかかわりをライフステージからみてみましょう！ (2)社会保障制度と社会福祉の概念</p> <p>第3回 保健・医療と社会福祉1 (1)保健・医療と福祉の概念 (2)保健・医療・福祉に関する歴史と主な制度（法律）</p> <p>第4回 保健・医療と社会福祉2 (3)地域保健サービス・・・地域保健法と地方自治、保健所・市町村保健センターの位置づけと主な業務</p> <p>第5・6回 保健・医療と社会福祉3 (4)医療提供施設と医療保険制度 ・医療を提供する施設に関する基本法（医療法） ・在宅医療を推進する訪問看護制度（訪問看護ステーション） ・医療保険制度（健康保険、国民健康保険、後期高齢者医療制度）と公費負担医療制度</p> <p>第7・8回 保健・医療と社会福祉4 (5)社会福祉 ・児童家庭福祉（児童福祉法と児童相談所、児童虐待の防止等に関する法律） ・高齢者福祉（老人福祉法、高齢者虐待の防止・高齢者の養護者に対する支援等に関する法律） ・障害者福祉（身体障害・知的障害・精神障害者福祉、障害者総合支援法、権利擁護）</p> <p>第9-11回 介護保険制度 (1)介護保険制度のねらいとその後の制度改正について (2)介護保険制度のしくみ (3)介護保険制度のサービスの種類・内容と主なサービス料金 (4)地域支援事業と地域包括支援センター</p> <p>第12・13回 所得保障制度 (1)公的年金保険制度 (2)雇用保険と労働者災害補償保険制度（労働基準法、労働安全衛生法などを含む）</p> <p>第14回 公的扶助 生活保護を中心に</p> <p>第15回 事例をとおして考えよう！ 住み慣れた地域で安心して生活するためにはどのような制度やサービスが必要か、考えてみましょう！（グループ・ワーク、講義）</p>
科目の目的	保健・医療・福祉制度が存在する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つとともに、自分や家族等が上手に活用できるようにする。【知識・理解】
到達目標	1. 社会福祉は社会保険、公的扶助および公衆衛生・医療とらんで社会保障の一部であることを理解する。 2. 社会保障制度がライフサイクルとどのように関連しているのか説明できる。 3. 福祉制度全般と、日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知る。
関連科目	公衆衛生学
成績評価方法・基準	筆記試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	日頃から家族や身近な人から情報を得ること、及び配付資料を読んでおくこと。 学習時間の目安：1コマあたり1時間
教科書・参考書	なし
オフィス・アワー	講義終了後
国家試験出題基準	《専門基礎》-Ⅲ-1-C-a, b, c
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
城下 貴司			

授業形態	講義（6コマ）、講義と実技（2コマ）、実技（7コマ）
授業計画	<p>第1回 障がい者福祉施策と障がい者スポーツ（講義） 関連法律、障害者手帳とその判定などの福祉制度と障害者スポーツの位置づけとそれに関わる施策の動向について学ぶ</p> <p>第2回 障害者福祉施策と障がい者スポーツ 障がい者スポーツの意義と理念（講義） 障害者スポーツの定義や社会的役割を学ぶ</p> <p>第3回 障がい者スポーツの意義と理念 障がい者スポーツの理解とスポーツ 身体障害(内部障害含む)（講義） 障害者スポーツの意義と理念とは、歴史的背景も含めて学ぶ</p> <p>第4回 障がい者スポーツの理解とスポーツ 身体障害(内部障害含む)（講義） 身体障害(内部障害含む)には障害者スポーツが存在する、それらを紹介し理解する</p> <p>第5回 (公財)日本障害者スポーツ協会公認 障がい者スポーツ指導者制度（講義） 障害者スポーツ指導者制度を紹介する</p> <p>第6回 全国障害者スポーツ大会概要（講義） 全国障害者スポーツ大会について、その歴史から現状を理解する</p> <p>第7・8回 障害に応じたスポーツの工夫(実技) シドニーパラリンピック車椅子バスケットボール銅メダリスト塚本京子さんと上村知佳さんによる障害に応じたスポーツの工夫を学ぶ</p> <p>第9・10回 ボランティア論（講義と実技） ボランティアとは、その魅力、心得について学ぶ</p> <p>第11~15回 障がい者との交流(実技)：体育棟 車椅子ラグビーチームを招致し障がい者との交流をする</p>
科目の目的	「障害のない人はスポーツをした方がよいが、障害がある人はスポーツをしなければならない」というHeinz Freiの言葉からも障害者にとってスポーツは必修である、その障害者のためのスポーツを理学療法の立場から、その基地知識を学ぶ。 *ディプロマ・ポリシー：【態度】
到達目標	各々の障害レベルに合わせたスポーツ指導を体験する
関連科目	【教養科目群】心理学, 生命倫理, 教育学, 社会学, 大学の学び入門 【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ, 人間発達学, 臨床神経学Ⅰ(神経内科学), 臨床神経学Ⅱ(小児神経学・脳神経外科学), 精神医学, 小児科学, リハビリテーション医学, 老年医学, カウンセリング, リハビリテーション関連領域論, 臨床心理学, 安全管理, 生体計測工学, 医療統計学 【専門科目群】運動器系理学療法評価・治療学, 小児理学療法学, 理学療法特殊講義
成績評価方法・基準	課題レポート(テーマ「障害者スポーツ大会ボランティアを経験して」)100% ただし、欠席および遅刻は減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各授業後は1時間程度の復習と積極的に障がい者スポーツのボランティアに参加すること
教科書・参考書	教科書：障害者スポーツ指導教本 初級・中級 改訂版 株式会社ぎょうせい 参考書：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付) 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
オフィス・アワー	水曜日：12：10～13：00
国家試験出題基準	特になし
履修条件・履修上の注意	実技がある動きやすい服装で望むこと 下記単位を取得した後、「公益財団法人日本障がい者スポーツ協会」に「障がい者スポーツ指導員初級」を申請、登録費用を納めることにより資格取得が可能。 《取得要件科目》 科目名、開講学年・学期、必修・選択 「障害者スポーツ・レクリエーション論」、1学年・前期、選択 「臨床心理学」、1学年・後期、必修 「安全管理」、4学年・後期、必修

講義科目名称：リハビリテーション工学

授業コード：2P081

英文科目名称：Rehabilitation Engineering

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
目黒 力			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
木村 朗			

授業形態	講義14コマ・学外実習（施設見学）1コマ		
授業計画	第1回	オリエンテーション・イントロ 講義概要の説明・理学療法を知ったきっかけを話題としたグループワーク（GW）	
	第2回	理学療法とは1 「理学療法・士とは何か」理学療法の定義と歴史、ルーツの解説 「治らないものを治すとは？」	
	第3回	理学療法とは2 理学療法の役割と職域、「理学療法に求められていることは何か」身近な話題からGW	
	第4回	理学療法とは3 理学療法の対象の理解・身体の不自由な人は、どのように社会と歴史を生きてきたか（小説やドキュメンタリー、映画から感じる障害と考える障害を知る）	
	第5回	理学療法とは4 「障害とは」（社会の中の理学療法、リハビリテーションの中での理学療法の位置づけ	
	第6回	理学療法と社会の関わり 各種理学療法技術の歴史・理学療法を作ってきた人々1・世界の理学療法1 GW	
	第7回	理学療法技術の歩み1 理学療法を作ってきた人々2・世界の理学療法2 GW	
	第8回	理学療法技術の歩み2 関連職種の法律と理学療法士法（医師法・保助看法・理学療法士及び作業療法士法）・公衆衛生と理学療法	
	第9回	理学療法と法律 理学療法の法規 理学療法の実際（関連施設、学内の理学療法士と語る）	
	第10回	理学療法と管理・チームワーク 理学療法士に求められる倫理観（劇画、映像等）を基に語るGW	
	第11回	理学療法士のルーツ1 理学療法（学）の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。	
	第12回	理学療法士のルーツ2 理学療法（学）の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。	
	第13回	理学療法士のルーツ3 理学療法（学）の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。	
	第14回	理学療法士のルーツ4 理学療法（学）の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。	
	第15回	理学療法の実際を知る 施設見学の実施 見学を通して感じたこと、考えたことを授業の最初に考えたことと比べ、報告する	
科目の目的	理学療法士を目指す学生にとって、理学療法を俯瞰し、現在、過去未来の我が国の理学療法像のみならず、世界の理学療法を理解することで、生涯にわたり障害のもつ人の課題に取り組む態度を滋養すること。		
到達目標	1. 学生は理学療法の定義、対象、業務、歴史、保健医療福祉と社会的役割の点から理学療法を説明できるようになること。 2. 学生は理学療法技術の構成要素が言えるようになること。 3. 学生は今後の学習に必要な学習内容を説明できるようになること。 4. 学生はグループワークの中で自分の役割を果たし、かつ意見交換の記録を報告することができるようになること。		
関連科目	リハビリテーション概論、理学療法評価学、基礎理学療法学、日常生活活動学ほか		
成績評価方法・基準	ジャーナル（毎回の講義の振り返り）の提出（50%）、プレゼンテーション（25%）、小テスト（約25%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各講義題目内容に対し、教科書・参考書の該当部分を読み、理解しづらい単語や概念をノートに記載し、調べておくこと。約90分。		
教科書・参考書	教科書：理学療法概論テキスト（第3版） 細田多穂他 南江堂 参考書：理学療法のルーツ 武富由雄 共同医書出版		
オフィス・アワー	火or水12:10～12:50(木村研究室)		

国家試験出題基準	3-1.D-a1・2
	専門基礎 3-1.D 関連法規 a 医療法規 1医療法 2理学療法士法及び作業療法士法
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
中 徹			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 健康の状態としての障がい～障がいと健康、異常と正常、否定と肯定の間～【時間内提出課題】 障がいの定義と広がりを理解する</p> <p>第2回 ヒトとしての障がいの種類と内容～形態と機能の不具合さ～【時間内提出課題】 形態と機能の用語を理解し、それが不自由であることの意味を理解する</p> <p>第3回 ヒトとしての障がいの種類と内容～形態と機能の不具合さ～【時間内提出課題】 形態と機能の関連性を理解し、その不自由さのメカニズムを理解する</p> <p>第4回 ヒトとしての障がいの種類と内容～形態と機能の関連性2～【時間内提出課題】 実例をもって形態と機能の関連性を理解し、その不自由さのメカニズムを理解する</p> <p>第5回 人・人間としての障がいの種類と内容～活動の制限と参加の制約【時間内提出課題】 運動能力の障害を理解し、その不自由さのメカニズムを理解する</p> <p>第6回 障がいにとっての個人・環境因子～介入と考慮のちがい～【時間内提出課題】 個人因子と環境因子の定義を理解し、障がいへの影響を理解する</p> <p>第7回 ICFまとめ～ICFと理学療法の関係【時間内提出課題】 理学療法の実施に対してICFが答えていることを理解する</p> <p>第8回 ICFの実例に基づく演習《時間内提出課題》 演習としてICFの概念と広がりについて、実例をもって説明できる</p> <p>第9回 形態の障がいの病態と原因（骨・支持体）【時間内提出課題】 形態としての骨について理解を深める</p> <p>第10回 機能の障がいの病態と原因1（運動器＝骨・関節・フレーム）【時間内提出課題】 関節を構成する骨について理解を深める</p> <p>第11回 機能の障がいの病態と原因2（運動器＝筋1 - アクチュエーター）【時間内提出課題】 関節を動かす筋の性質を理解する</p> <p>第12回 機能の障がいの病態と原因3（運動器＝筋2 - アクチュエーター）【時間内提出課題】 筋の物性を理解する</p> <p>第13回 機能の障がいの病態と原因4（神経系＝脳と脊髄1 - 制御）【時間内提出課題】 神経系の機能分担を理解する</p> <p>第14回 機能の障がいの病態と原因5（神経系＝脳と脊髄2 - 制御）【時間内提出課題】 運動制御における神経の役割を理解する</p> <p>第15回 機能の障がいの病態と原因6（呼吸・循環系＝心肺機能 - エネルギー） 運動にとっての呼吸循環器系の働きを理解する</p>
科目の目的	「障がい」の概念をICF（国際生活機能分類）で理解する 機能の障がいの三領域（運動器障害・神経系障害・循環器系障害）の病態を理解する 本授業はディプロマポリシー1の「知識・理解を高めること」を目的とした科目である。
到達目標	ICFの概念図を書いてそれぞれの因子と関係性を説明できる 機能障害の病態とそれに対応する理学療法について説明できる
関連科目	基礎となる科目・・・理学療法概論 将来繋がる科目・・・全ての専門科目
成績評価方法・基準	提出課題40%＋試験60%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	ICFテキストの各回該当部分の予習と復習（90分程度） 講義資料の各回該当部分の予習と復習（90分程度）
教科書・参考書	第1～8回 教科書；障害者福祉研究会（編集）：ICF国際生活機能分類－国際障害分類改訂版．中央法規出版 第9～15回 教科書なし；講義資料を配布する
オフィス・アワー	月曜日終日
国家試験出題基準	《専門》 I-1-D 《専門》 I-3-B・C・D 《専門》 II-7-B・C・D・E・F・G・H
履修条件・履修上の注意	前半は社会科学・後半は自然科学の授業で広範囲な内容なので、予習と復習を十分に確保すること

講義科目名称：理学療法セミナー

授業コード：2P084

英文科目名称：Seminar on Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
岡崎 大資			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：理学療法特論

授業コード：2P085

英文科目名称：Advanced Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	必修
担当教員			
目黒 力			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：臨床推論演習

授業コード：2P086

英文科目名称：Preparatory Practice in Bedside

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
鈴木 学			
中 徹			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：理学療法研究論

授業コード：2P087

英文科目名称：Physical Therapy Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
木村 朗			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：理学療法管理学

授業コード：2P088

英文科目名称：Physical Therapy Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
岡崎 大資			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：卒業研究

授業コード：2P089

英文科目名称：Graduation Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	2単位	選択
担当教員			
木村 朗			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
北村 達夫			
中 徹	黒川 望	橋口 優	

授業形態	講義3回、演習12回
授業計画	<p>第1回 講義（担当：中） 理学療法評価の概念・目的</p> <p>第2回 講義（担当：中） 理学療法における評価の種類（時期と対象）、問題解決のための評価過程</p> <p>第3回 講義（担当：北村） 講義の概要・ガイダンス、形態測定の意義と目的、測定方法</p> <p>第4回 演習（担当：北村、橋口） 形態測定の方法</p> <p>第5回 演習（担当：北村、橋口） 関節可動域測定の意義と目的、測定方法</p> <p>第6回 演習（担当：北村、黒川、橋口） 関節可動域測定（上肢・頸部）1</p> <p>第7回 演習（担当：北村、黒川、橋口） 関節可動域測定（上肢・頸部）2</p> <p>第8回 演習（担当：北村、黒川、橋口） 関節可動域測定（上肢・頸部）3</p> <p>第9回 演習（担当：北村、黒川、橋口） 関節可動域測定（上肢・頸部）4</p> <p>第10回 演習（担当：北村、黒川、橋口） 関節可動域測定（上肢・頸部）5</p> <p>第11回 演習（担当：北村、黒川、橋口） 関節可動域測定（下肢・胸腰部）1</p> <p>第12回 演習（担当：北村、黒川、橋口） 関節可動域測定（下肢・胸腰部）2</p> <p>第13回 演習（担当：北村、黒川、橋口） 関節可動域測定（下肢・胸腰部）3</p> <p>第14回 演習（担当：北村、黒川、橋口） 関節可動域測定（下肢・胸腰部）4</p> <p>第15回 演習（担当：北村、黒川、橋口） 関節可動域測定（下肢・胸腰部）5</p>
科目の目的	<p>1. 理学療法評価の意義、目的、評価の過程を知ること。</p> <p>2. 形態測定、関節可動域測定の知識と技術を取得すること。</p> <p>【知識・理解】</p>
到達目標	<p>1. 理学療法評価の意義、目的、その過程を言及できる。</p> <p>2. 評価時に理学療法士が配慮すべき点を列挙できる。</p> <p>3. 形態測定、関節可動域測定が実施できる。</p>
関連科目	解剖学、運動学、理学療法概論、表面解剖学と触診法、理学療法評価学演習、運動療法総論、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、見学実習、評価学実習、総合臨床実習
成績評価方法・基準	小テスト（5%）、中間テスト（10%）、実技テスト（10%）、定期テスト（70%）、課題（5%） ただし、単位認定のためには実技テスト、定期テストそれぞれでの60%以上の獲得、課題提出を条件とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	身体のランドマーク、関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域を演習実施までに全て暗記すること。 各演習前には必ず実技の予習を、各演習後には必ず実技の復習を行い、知識と技術を習得すること。 必要な学習時間の目安は、1コマあたり4時間。
教科書・参考書	教科書：「理学療法評価学改訂第5版」松澤正、江口勝彦著（金原出版） 参考書：特に指定しない。理学療法評価に関する書籍全般。
オフィス・アワー	開講日の昼休み
国家試験出題基準	<p>《専門基礎》Ⅱ-2-B-a、Ⅲ-1-A-e</p> <p>《専門》Ⅱ-1-A、2-A、B、C-a、D、E-a～d、F、G、H Ⅱ-3-A-a～g、B-a～e、C-a～h、D、E-a～c、F-a Ⅱ-5-A、B-a～d、C V-1-C、D、E、F</p>

履修条件・履修上の注意

演習時は測定しやすい・されやすい服装、測定器具を準備する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
黒川 望			
中 徹	浅田 春美	北村 達夫	

授業形態	講義（3回）、演習（12回）		
授業計画	第1回	総論 講義1（担当：中） 理学療法における記録方法と情報収集	
	第2回	総論 講義2（担当：黒川） 筋力測定の意義と目的	
	第3回	各論 演習1（担当：黒川、北村） 徒手筋力検査測定演習：導入	
	第4回	各論 演習2（担当：黒川、北村） 徒手筋力検査測定演習：肩関節	
	第5回	各論 演習3（担当：黒川、北村） 徒手筋力検査測定演習：肘関節・前腕	
	第6回	各論 演習4（担当：黒川、北村） 徒手筋力検査測定演習：手関節・手指	
	第7回	各論 演習5（担当：黒川、北村） 徒手筋力検査測定演習：肩甲帯	
	第8回	各論 演習6（担当：黒川、北村） 到達度確認演習：上肢の徒手筋力検査	
	第9回	総論 講義3（担当：浅田） 臨床で求められるセラピストとしての接遇	
	第10回	各論 演習7（担当：黒川、北村） 徒手筋力検査測定演習：股関節	
	第11回	各論 演習8（担当：黒川、北村） 徒手筋力検査測定演習：股関節・膝関節	
	第12回	各論 演習9（担当：黒川、北村） 徒手筋力検査測定演習：足関節	
	第13回	各論 演習10（担当：黒川、北村） 徒手筋力検査測定演習：頸部・体幹	
	第14回	各論 演習11（担当：黒川、北村） 徒手筋力検査測定演習：全体のまとめ	
	第15回	各論 演習12（担当：黒川、北村） 到達度確認演習：下肢、頸部・体幹の徒手筋力検査	
科目の目的	解剖学・運動学で学んだ知識を再確認しながら、筋力検査の方法について理論と技術を学ぶ。評価技術の基本となる筋力検査として徒手筋力検査(MMT)を中心に学習し、1年時に学習した基本的な検査・測定技術を再確認し、確実に習得することを目的とする。【技能・表現】		
到達目標	1. 理学療法の記録や患者オリエンテーションの内容を臨病的に適切な言動や態度で説明できる。 2. 筋力検査の目的・意義・代表的な測定方法を説明できる。 3. MMTを実施できる（注意点や代償運動を説明できることを含む）。 4. 形態測定・関節可動域測定・筋力測定を他者に実施できる。		
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰ・Ⅱ、理学療法概論、表面解剖学と触診法、理学療法評価学、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、見学実習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成績評価方法・基準	筆記試験(9割)及び実技試験(1割)とする。筆記試験を成績判定の基礎とするが、そのためには実技試験の合格が前提となる。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	MMTの演習が始まるまでに作用する筋の起始・停止、神経支配、髄節を全て復習しておくこと。各演習の前には必ず実技の予習を行うこと。各演習後、予習と合わせて復習も行うこと。（予習・復習：1時間程度）		
教科書・参考書	【教科書】「理学療法評価学改訂第4版」松澤 正著（金原出版株式会社） 「新・徒手筋力検査法 原著第8版」Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery著、津山直一・他訳（協同医書出版社） 【参考書】「PT・OTのための測定評価DVD series3 MMT-頭部・頸部・上肢」福田 修監修（三輪書店） 「PT・OTのための測定評価DVD series4 MMT-体幹・下肢」福田 修監修（三輪書店）		
オフィス・アワー	講義日の昼休み		
国家試験出題基準	≪専門基礎≫-Ⅲ-1-A-e, ≪専門≫-Ⅱ-3-C-d		

履修条件・履修上の注意	演習時は検査しやすい・されやすい服装を準備すること。
-------------	----------------------------

講義科目名称：臨床動作分析学

授業コード：2P092

英文科目名称：Clinical analysis of human daily motions

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
高橋 正明			
浅田 春美			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
北村 達夫			

授業形態	講義9回、演習6回		
授業計画	第1回	講義：オリエンテーション、運動療法の概念と実際 講義の概要・ガイダンス、運動療法の歴史・定義・方法・今後の課題	
	第2回	講義：運動療法の基礎、基本的な運動療法 関節の構造と運動、関節運動の制限、関節可動域運動	
	第3回	講義：基本的な運動療法 関節可動域運動	
	第4回	演習：基本的な運動療法 関節可動域運動	
	第5回	演習：基本的な運動療法 関節可動域運動	
	第6回	演習：バイタルチェック、基本的な運動療法 血圧・脈拍測定、血圧調節障害へのアプローチ	
	第7回	講義：運動療法の基礎 筋力増強運動	
	第8回	演習：基本的な運動療法 筋力増強運動	
	第9回	演習：基本的な運動療法 筋力増強運動	
	第10回	講義・演習：基本的な運動療法 持久力増強運動	
	第11回	講義：運動療法の基礎 随意運動のメカニズム	
	第12回	講義：運動療法の基礎 随意運動のメカニズム	
	第13回	講義：運動療法の基礎 運動制御と運動学習	
	第14回	講義：基本的な運動療法 バランス練習	
	第15回	演習：運動療法の基礎 バランス練習	
科目の目的	運動療法の概念と基礎知識、運動の種類、基本的な運動療法の知識を習得し、基本的な運動療法の技術を習得する。【知識・理解】		
到達目標	運動療法の基礎知識・技術を整理・理解・習得し、より専門的な理学療法治療学（運動器系・神経系・呼吸循環代謝系・徒手系・高齢者・スポーツ傷害の理学療法治療学）を学ぶための基礎知識・技術を習得する。		
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰ・Ⅱ、運動生理学、表面解剖学と触診法、理学療法評価学、理学療法評価学演習、運動系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、徒手系理学療法学、スポーツ傷害理学療法学、見学実習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成績評価方法・基準	小テスト（5%）、中間テスト（30%）、期末テスト（35%）、実技テスト（25%）、課題（5%） ただし、単位認定のためには中間テスト、期末テストの合算で60%以上の獲得、実技テストで60%以上の獲得、課題提出を条件とする。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回授業範囲の教科書内の内容を事前に読み、理解しておくこと。 各演習の前には必ず実技の予習を、各演習の後には必ず実技の復習を行い、知識と技術を習得すること。 必要な学習時間の目安は1コマあたり1時間。		
教科書・参考書	教科書： 「標準理学療法学専門分野運動療法学総論」吉尾雅春編集（医学書院） 「運動療法学」柳澤健編集（金原出版） 「基礎運動学」中村隆一、齋藤宏、長崎浩著（医歯薬出版） 「理学療法ゴールド・マスター・テキスト2 運動療法学」柳澤健編（メジカルビュー社） 参考書： 「理学療法Ⅲ 運動療法Ⅰ」千住秀彰監修河元岩男、溝田勝彦編集（神陵文庫）		
オフィス・アワー	講義日の昼休み		
国家試験出題基準	《専門》Ⅲ-2-A-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m, n, o, p		

	《専門》Ⅲ-2-C-e 《専門》Ⅲ-3-A-a, b, c, d, e, f, g 《専門》Ⅲ-3-B-a, b, c, d, e 《専門》Ⅲ-3-C-a, b, c, d, e, f
履修条件・履修上の注意	演習時は運動療法に適した服装を準備する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
城下 貴司			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 整形外科疾患評価法 科目の概要・講義スケジュール 整形外科疾患とその評価法</p> <p>第2回 骨折脱臼 骨折の運動療法：総論（主に上肢）</p> <p>第3回 骨折脱臼 骨折の運動療法：総論（主に下肢）</p> <p>第4回 痛みとその評価 整形外科的痛みとその評価</p> <p>第5回 靭帯損傷、腱断裂 靭帯損傷、腱断裂の運動療法：総論</p> <p>第6回 痛みとその評価 整形外科的痛みとその評価</p> <p>第7回 骨折、靭帯損傷、腱断裂、痛みの復習と小テスト</p> <p>第8回 関節リウマチの理学療法</p> <p>第9回 末梢神経損傷 胸郭出口症候群、肘部管症候群 手根管症候群等</p> <p>第10回 末梢神経損傷 知覚異常大腿痛 梨状筋症候群、足根管症候群等</p> <p>第11回 関節リウマチ、末梢神経損傷復習と小テスト</p> <p>第12回 脊髄損傷 主に概論</p> <p>第13回 脊髄損傷 主に病態評価</p> <p>第14回 脊髄損傷 主に理学療法評価</p> <p>第15回 脊髄損傷 主に理学療法</p>
科目の目的	<p>1 理学療法の対象となる障害のうち、最も多くの割合を占める運動器系(骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織)疾患の概念を理解する</p> <p>2 運動器疾患の概念を理解する</p> <p>*ディプロマ・ポリシー【知識・理解】</p>
到達目標	各疾患別を学ぶため基礎知識の獲得
関連科目	解剖学, 生理学, 運動学, 基礎理学療法学, 運動器系理学療法評価・治療学演習I、運動器系理学療法評価・治療学演習II 徒手系理学療法学、スポーツ傷害理学療法学
成績評価方法・基準	中間テスト(2回) 40%、定期試験60%で総合評価する、ただし欠席および遅刻は減点する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業範囲は広範となる、授業前に1時間程度の予習部位は指定する、授業後の復習も必修である。
教科書・参考書	<p>教科書：中村 利孝ほか：標準整形外科学 13版. 医学書院</p> <p>教科書：野村嗟ほか 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)</p> <p>教科書：高橋正明ほか 標準理学療法学・作業療法学 運動学 (医学書院)</p> <p>教科書：中村隆一ほか 基礎運動学 第6版 (医歯薬出版)</p> <p>教科書：奈良 勲(監修)：標準理学療法学 運動療法学 総論. 医学書院</p> <p>教科書：奈良 勲(監修)：標準理学療法学 運動療法学 各論. 医学書院</p> <p>教科書：松澤 正ほか 理学療法評価学改訂第4版 (金原出版株式会社)</p> <p>参考書：細田 多穂 他編：理学療法ハンドブック第1～3巻(協同医書)</p> <p>参考書：「新・徒手筋力検査法 原著第8版」Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery著, 津山直一・他訳(協同医書出版社)</p>

オフィス・アワー	水曜日：12：00～13：00
国家試験出題基準	≪専門≫-Ⅱ-7-A-abcdefghijkl ≪専門≫-Ⅱ-7-B-g ≪専門≫-Ⅱ-7-C-e ≪専門≫-Ⅱ-7-I ≪専門≫-Ⅱ-7-L-ab ≪専門≫-Ⅲ-1-B-abcdef ≪専門≫-Ⅲ-3-F-abc ≪専門≫-Ⅲ-6-A-abcdefghijkl ≪専門≫-Ⅲ-6-I ≪専門≫-Ⅲ-6-L-ab ≪専門≫-Ⅲ-6-M ≪専門≫-Ⅲ-6-N-bc
履修条件・履修上の注意	授業範囲は広範となる、授業前に予習と復習は必修であり、独自に授業ノートを作成すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
城下 貴司			

授業形態	講義10コマ 実技5コマ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション(学習法、授業の進め方) 課題担当決定</p> <p>第2回 上肢疾患 肩関節疾患</p> <p>第6回 上肢疾患 肘関節疾患</p> <p>第4回 上肢疾患 手関節および手指</p> <p>第5回 肩関節疾患 肘関節疾患 手関節および手指の復習および小テスト</p> <p>第6回 脊柱疾患 頸椎疾患 (主に神経根症状)</p> <p>第7回 脊柱疾患 頸椎疾患 (主に脊髄症状)</p> <p>第8回 脊柱疾患 胸椎疾患</p> <p>第9回 脊柱疾患 腰椎疾患</p> <p>第10回 頸椎疾患 胸椎疾患 腰椎疾患の復習および小テスト</p> <p>第11回 下肢疾患 股関節疾患 (主に変形性股関節症)</p> <p>第12回 下肢疾患 股関節疾患 (主に大腿骨頭壊死)</p> <p>第13回 下肢疾患 膝関節疾患 (主に靭帯損傷)</p> <p>第14回 下肢疾患 膝関節疾患 (主に変形性膝関節症)</p> <p>第15回 下肢疾患 足関節と足趾</p>
科目の目的	理学療法の対象となる障害のうち、多くの割合を占める運動器系(骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織)疾患の理学療法を行うために必要な基礎知識を学ぶ。 *ディプロマ・ポリシー：【知識・理解】
到達目標	外傷性疾患の理学療法に関わるための基礎知識の獲得
関連科目	解剖学，生理学，運動学，基礎理学療法学，運動器系理学療法評価・治療学、運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ 徒手系理学療法学、スポーツ傷害理学療法学
成績評価方法・基準	中間テスト(2回) 40%、定期試験60%で総合評価する、ただし欠席および遅刻は減点する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業範囲は広範となる、授業前に1から2時間程度の学習時間を要する予習を具体的に指定する、授業後も15から30分程度復習も必修である。
教科書・参考書	<p>教科書：中村 利孝ほか：標準整形外科学 13版. 医学書院</p> <p>教科書：島田洋一、高橋仁美：術後理学療法プログラム メジカルビュー</p> <p>教科書：松澤 正ほか「理学療法評価学改訂第4版」(金原出版株式会社)</p> <p>教科書：中村隆一ほか 基礎運動学 第6版 (医歯薬出版)</p> <p>教科書：野村嵯ほか 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (医学書院)</p> <p>教科書：奈良 勲 (監修)：標準理学療法学 運動療法学 各論. 医学書院</p> <p>参考書：林 典雄ほか：関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション—</p> <p>参考書：堀尾重治：骨・関節X線写真の撮りかたと見かた 第8版. 医学書院</p>
オフィス・アワー	水曜日：12：10～13：00
国家試験出題基準	《専門》-Ⅱ-7-A-abcdefghijkl

	習し ≪専門≫-Ⅱ-7-B-g ≪専門≫-Ⅱ-7-C-e ≪専門≫-Ⅱ-7-I ≪専門≫-Ⅱ-7-L-ab ≪専門≫-Ⅲ-1-B-abcdef ≪専門≫-Ⅲ-3-F-abc ≪専門≫-Ⅲ-6-A-abcdefghijkl ≪専門≫-Ⅲ-6-I ≪専門≫-Ⅲ-6-L-ab ≪専門≫-Ⅲ-6-M ≪専門≫-Ⅲ-6-N-bc
履修条件・履修上の注意	予習と復習は必修である 実技がある動きやすい服装で望むこと

講義科目名称：運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ

授業コード：2P096

英文科目名称：Practice in Evaluation and Therapy of Musculos...II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
城下 貴司			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
鈴木 学			

授業形態	講義と実技 *毎回、講義と実技を組み合わせているので厳密に時間を区別することは不可能		
授業計画	第1回	神経疾患とは 神経疾患の病態, 筋紡錘と腱紡錘	
	第2回	各種神経系検査の理論と実技(1) 中枢性疾患の運動機能検査	
	第3回	各種神経系検査の理論と実技(2) 中枢性疾患の運動機能検査	
	第4回	各種神経系検査の理論と実技(3) 筋緊張検査, 反射検査	
	第5回	各種神経系検査の理論と実技(4) 反射検査	
	第6回	実技演習1 実技演習：片麻痺運動機能検査, 筋緊張検査, 反射検査	
	第7回	実技演習1 実技演習：片麻痺運動機能検査, 筋緊張検査, 反射検査	
	第8回	各種神経系検査の理論と実技(5) 感覚検査	
	第9回	各種神経系検査の理論と実技(6) 感覚検査, 協調性機能検査	
	第10回	各種神経系検査の理論と実技(7) 協調性機能検査	
	第11回	各種神経系検査の理論と実技(8) 脳神経の機能と検査	
	第12回	各種神経系検査の理論と実技(9) バランス機能(正常姿勢反射検査, バランススケール)	
	第13回	実技演習2 感覚検査, 協調性機能検査, 脳神経検査, バランス機能検査	
	第14回	実技演習2 感覚検査, 協調性機能検査, 脳神経検査, バランス機能検査	
	第15回	各種神経系検査の理論と実技(10) 意識障害検査, 注意障害検査, 知能検査	
科目の目的	脳神経など末梢神経と中枢神経系疾患に生じる障害の評価のための検査法と検査結果を如何に統合解釈し、問題を抽出し、目標を設定していくかを学習する。具体的には、片麻痺機能テスト、筋緊張検査、深部腱反射、病的反射、感覚検査、姿勢反射検査、協調性検査、意識レベル検査、注意機能検査、知能検査を取り上げ、それらの検査の意義、正常と異常の違いなどを学習する。さらに各種検査を統合し、その結果から問題点の抽出、目標設定を行う能力を養う。 ディプロマポリシーの1.知識・理解、3.技能・表現、4.関心・意欲、を向上させる。		
到達目標	1. 神経系疾患に生じる障害の機能評価としての各種検査法を実施することができる。 2. 疾患に即した検査方法を選択することができる。 3. 検査結果を統合・解釈し、問題点を抽出、目標を決定することができる。		
関連科目	運動学、臨床神経学、理学療法評価学、理学療法評価学演習、臨床動作分析学、神経系理学療法評価・治療学演習Ⅰ、神経系理学療法評価・治療学演習Ⅱ、臨床推論演習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成績評価方法・基準	筆記試験 60%、実技試験(2回) 40% 1回欠席するごとに2%減点する		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	神経系の解剖学、生理学の知識をもっていることが望ましい。 準備時間：30分		
教科書・参考書	教科書 田崎義昭 斎藤伊雄 著 坂井文彦 改訂：ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 松澤正著：理学療法評価学 金原出版株式会社 パワーポイント資料をPDFファイルにて配布予定 参考書： 鈴木則宏編：神経診察クローズアップ メジカルビュー社 内山靖、小林武、潮見泰三編：臨床評価指標入門 適用と解釈のポイント 協同医書出版 シグネ・ブルンストローム著、松村秩訳：片麻痺の運動療法 医師薬出版		

オフィス・アワー	水曜日12:30～13:00 605研究室
国家試験出題基準	専門Ⅱ：3-H(a, b, c, d, e) 専門Ⅱ：4-A(a), 4-B, 4-C(a, b, c, d, e, f, g, h), 4-D(a, b) 専門Ⅱ：7-B(a, b, c, d, e, f, h), 7-C(a, b, c, d, e), 7-H(a, b), 7-K(a, b), 7-N(a, b) 専門Ⅲ：1-B(a, b, c, d, e, f) 専門Ⅲ：3-E(a, b, c), 3-H(a, b, c, d, e), 専門Ⅲ：6-B(a, b, c, d, e, f, g, h), 6-C(a, b, c, d, e), 6-H(a, b), 6-K(a, b), 6-N(a, d)
履修条件・履修上の注意	中枢神経および脳神経の解剖学, 生理学の知識が乏しいと内容の理解が難しくなるのでこれらの基礎を把握することが重要である. 神経系理学療法評価治療学演習ⅠおよびⅡの内容の基礎となる.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
鈴木 学			

授業形態	講義と実技	*毎回、講義と実技を組み合わせているので厳密に時間を区別することは不可能
授業計画	第1回	片麻痺の病態(1) 片麻痺の原因疾患とその病態
	第2回	片麻痺の病態(2) 片麻痺の機能障害と回復過程
	第3回	片麻痺の治療原則 回復時期別の理学療法と治療の原則
	第4回	片麻痺の急性期理学療法 急性期の評価とベッドサイド訓練の実際、リスク管理
	第5回	片麻痺の回復期理学療法(1) 回復期の評価内容とゴール設定
	第6回	片麻痺の回復期理学療法(2) 起居移動動作練習の実際
	第7回	片麻痺の回復期理学療法(3) 起居移動動作練習の実際
	第8回	片麻痺の回復期理学療法(4) 起居移動動作練習の実際
	第9回	片麻痺の回復期理学療法(5) 起居移動動作訓練の実際
	第10回	片麻痺の回復期理学療法(6) 四肢の分離運動の促通手技
	第11回	片麻痺の回復期理学療法(7) 立位練習と歩行練習
	第12回	実技演習 起居移動動作訓練, 四肢の分離運動
	第13回	実技演習 起居移動動作訓練, 四肢の分離運動
	第14回	片麻痺の阻害因子に対する対処1 筋緊張異常, 麻痺側の不使用, 肩の亜脱臼
	第15回	片麻痺の阻害因子に対する対処2 肩の痛み, 肩手症候群, 嚥下障害, 排尿障害
科目の目的	脳出血や脳梗塞などの脳血管障害の症状と、それにともなう障害についての知識を習得するとともに、それらの理学療法、具体的には運動療法の原理、治療体系、評価、問題点抽出、目標設定、治療計画の立案方法、リスク管理方法について学習する。治療体系については技術面の習得も実施する。具体的には急性期・回復期・慢性期それぞれに対応した治療アプローチの習得を目指し評価から効果判定まで、系統的な理学療法ができるようにする。 ディプロマポリシーの1. 知識・理解, 3. 技能・表現, 4. 関心・意欲, を向上させる。	
到達目標	1. 脳血管障害に生じる障害について説明できる。 2. 脳血管障害による片麻痺や四肢麻痺に対する理学療法における評価、治療プログラム作成、理学療法実施方法について説明できる。 3. 脳血管障害に片麻痺や四肢麻痺の理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる。	
関連科目	解剖学 I, II 生理学 I, II 臨床神経学 I 神経系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学演習 II 臨床推論演習 評価学実習 総合臨床実習 I 総合臨床実習 II	
成績評価方法・基準	筆記試験 70%, 実技試験 30% 1回欠席するごとに総合得点より2%減点する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備内容：神経解剖学, 神経生理学の知識をもっていることが望ましい 準備時間：30分～60分	
教科書・参考書	教科書 「理学療法テキスト神経障害理学療法学 I」石川朗 総編集 (中山書店) 「神経内科学テキスト (改訂第3版)」江藤文夫, 飯島節 (南江堂) パワーポイント資料をPDFファイルにて配布予定 参考書 「Steps to Follow」P. M. デービス著 (シュプリンガー・フェアラーク東京) 「系統理学療法学 神経障害系理学療法学」丸山仁司 編 (医歯薬出版) 「脳卒中理学療法の理論と実技」原寛美, 吉尾雅春 編 (メジカルビュー社)	

オフィス・アワー	水曜日12:30～13:00 605研究室
国家試験出題基準	専門Ⅱ：3-H(a, b, c, d, e) 専門Ⅱ：4-A(a), 4-B, 4-C(a, b, c, d, e, f, g, h), 4-D(a, b) 専門Ⅱ：7-B(a, b, c, d, e, f, h), 7-C(a, b, c, d, e), 7-H(a, b), 7-K(a, b), 7-N(a, b) 専門Ⅲ：1-B(a, b, c, d, e, f) 専門Ⅲ：3-E(a, b, c), 3-H(a, b, c, d, e), 専門Ⅲ：6-B(a, b, c, d, e, f, g, h), 6-C(a, b, c, d, e), 6-H(a, b), 6-K(a, b), 6-N(a, d)
履修条件・履修上の注意	中枢神経および脳神経の解剖学, 生理学の知識が乏しいと内容の理解が難しくなるのでこれらの基礎を把握することが重要である。 神経系理学療法評価治療学の内容が基礎となるので合わせてしっかりと学習すること。

講義科目名称：神経系理学療法評価・治療学演習Ⅱ

授業コード：2P099

英文科目名称：Practice in Evaluation and Therapy of Neurolog...II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
鈴木 学			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学

授業コード：2P100

英文科目名称：Evaluation and Therapy of Cardiopulmonary Physic...

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
仲保 徹			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学演習 授業コード：2P101

英文科目名称：Practice in Evaluation and Therapy of Cardiopulm...

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
木村 朗			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：小児理学療法学

授業コード：2P102

英文科目名称：Pediatric Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
中 徹			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：理学療法特殊講義

授業コード：2P103

英文科目名称：Special Lecture of Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
木村 朗			
鈴木 学	岡崎 大資		

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
黒川 望			
目黒 力	岡崎 大資	松澤 正	

授業形態	講義9回、実習6回
授業計画	<p>第1回 総論（担当：黒川） 物理療法の定義、位置付け、物理療法の原理、分類</p> <p>第2回 各論（担当：松澤） マッサージⅠ（定義、生理学的作用、基本手技）</p> <p>第3回 実習（担当：松澤） マッサージⅡ（身体各部の手技の実際）</p> <p>第4回 各論（担当：黒川） 温熱療法Ⅰ（定義、熱力学、生理学的作用）</p> <p>第5回 各論（担当：黒川） 温熱療法Ⅱ（温熱療法の実際）</p> <p>第6回 各論（担当：黒川） 寒冷療法（定義、分類、生理学的作用、寒冷療法の実際）</p> <p>第7回 各論（担当：黒川） 水治療法（定義、水の物理的特性、生理学的作用、治療の実際）</p> <p>第8回 各論（担当：黒川） 高周波療法（定義、原理、生理学的作用、治療の実際）</p> <p>第9回 各論（担当：黒川） 超音波療法（定義、原理、生理学的作用、治療の実際）</p> <p>第10回 実習ガイダンス（担当：目黒、岡崎、黒川）</p> <p>第11回 実習1（担当：目黒、岡崎、黒川）</p> <p>第12回 実習2（担当：目黒、岡崎、黒川）</p> <p>第13回 実習3（担当：目黒、岡崎、黒川）</p> <p>第14回 実習4（担当：目黒、岡崎、黒川）</p> <p>第15回 実習5（担当：目黒、岡崎、黒川）</p>
科目の目的	物理療法学は、運動療法と共に、理学療法の中で車の両輪をなすもので、その治療法を理解することは、疾病治療を進める上で欠かせないものである。本科目では物理療法の治療根拠と実際を学習する。物理療法の前半として、物理療法の総論と、マッサージ、温熱療法、寒冷療法、水治療法、高周波療法、超音波療法等について、その定義、分類、原理、生理学的作用、適応、禁忌、実際について、基本的事項の習得を目的とする。 【知識・理解】、【技能・表現】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 臨床実習において実施可能になることを念頭に、物理療法の治療にあたり、その治療根拠を理解し、各種疾患に対し適切な治療ができる。 グループワークの中で、自分の役割を果たすことができる。
関連科目	生理学 運動学 内科学 整形外科学 基礎理学療法学
成績評価方法・基準	筆記試験（50%）、実習レポート（50%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書ならびに実習書の該当部分を熟読した上で参加すること。 （予習・復習：1時間程度）
教科書・参考書	<p>【教科書】松澤正，江口勝彦・監修：物理療法学 改訂第2版．金原出版株式会社，2012．</p> <p>【参考書】群馬パース大学保健科学部理学療法学科・編：図解 物理療法学実習．</p>
オフィス・アワー	講義日の昼休み
国家試験出題基準	《専門》－Ⅲ－2－B－a, c, e, f, h
履修条件・履修上の注意	実習においては、動ける服装で参加すること。

講義科目名称：物理療法学演習

授業コード：2P105

英文科目名称：Practice in Physical Agents

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
目黒 力			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：装具学

授業コード：2P106

英文科目名称：Orthotics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
橋口 優			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：義肢学

授業コード：2P107

英文科目名称：Prosthesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
平井 正利			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：徒手系理学療法学

授業コード：2P108

英文科目名称：Orthopedic Manipulative Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
城下 貴司			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：スポーツ傷害理学療法学

授業コード：2P109

英文科目名称：Physical Therapy for Sports Injuries

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
城下 貴司			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
浅田 春美			

授業形態	講義（7コマ）・演習（8コマ）
授業計画	<p>第1回 ガイダンス／ADLの概念と範囲 ADL, APDLなど言葉の定義, リハビリテーションにおける範囲について 生活機能からみたADLの位置づけ</p> <p>第2回 ADLの評価① ADL評価の目的・基準・尺度 ADL評価のポイント</p> <p>第3回 ADLの評価② 代表的なADL評価表について 課題提示：FIMについての課題説明＜資料の作成＞ 第14回講義にて発表 FIM課題提示</p> <p>第4回 ADL評価の実際／セルフケアの構成要素① 演習：セルフケア（食事・排泄・入浴・更衣・整容）を細項目に分解する（G.W.） 細目動作を各関節の運動で表現し、表に記入する</p> <p>第5回 ADL評価の実際／セルフケアの構成要素② 演習：セルフケアの構成要素をグループごとに発表（デモンストレーションを交えて行う） 講義終了時、発表に使用した表をグループごとに1通提出</p> <p>第6回 基本動作① 基本動作の定義・意味／臥位・座位・立位姿勢</p> <p>第7回 基本動作② 演習：臥位から立位までの正常動作の流れ／介助が必要な場合の介助法</p> <p>第8回 移動補助具（杖・松葉杖・歩行器）① 演習：移動補助具の定義・種類・適応／杖の合わせ方・杖歩行 課題：T字杖歩行の指導用ハンドアウトの作成A4枚＜患者さんまたは家族へ分かりやすく説明する＞ 次の講義時提出／課題のフィードバックは、返却時個人および全体へ行う</p> <p>第9回 移動補助具（杖・松葉杖・歩行器）② 演習：松葉杖の合わせ方／松葉杖歩行／歩行器歩行 実技では患者さんへ松葉杖歩行を指導するよう、分かりやすい言葉を用いて行う</p> <p>第10回 移動補助具（車いす）① 車いすの基本構造と名称・種類・適応</p> <p>第11回 移動補助具（車いす）② 演習：車いすの合わせ方（身体計測）・車いすの検定</p> <p>第12回 複合動作練習① 車いす操作とシーティング</p> <p>第13回 複合動作練習② 演習：移動動作と介助法</p> <p>第14回 ADL評価：FIM課題発表会 演習：各グループによる発表＜発表時に各項目ごとに説明を実施＞</p> <p>第15回 リハビリテーション支援機器 移乗関連機器・自助具</p>
科目の目的	日常生活活動（ADL）の概念とその範囲＜起居・移動，食事，排泄，入浴，更衣，整容＞・より広い日常生活関連動作、QOLなどの概念との関係を理解する。またADL動作の分析・評価方法，また患者さんや家族への練習・指導方法などについて学習する。さらに日常生活活動各動作の自立度の改善向上に有効な手段である歩行補助具，車いすなどの使用法，適応などについて学ぶ。【思考・判断】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ADL・APDL・IADL・QOL の概念や範囲を説明できる。 2. 代表的なADL 評価法の目的と活用法について説明できる。 3. 基本動作を含むADL を運動学的にとらえ，模倣することができる。 4. 移動・移乗動作の指導・介助ができる。 5. 移動補助具の基本構造が説明でき，適合・指導することができる。
関連科目	日常生活活動学演習，理学療法評価学，臨床動作分析学，生活環境学，環境理学療法学，地域理学療法学，地域理学療法学演習，運動器系理学療法評価・治療学，神経系理学療法評価・治療学，呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学，小児理学療法学，装具学，義肢学，評価学実習，総合臨床実習Ⅰ，総合臨床実習Ⅱ
成績評価方法・基準	筆記試験（80％），演習・課題への取り組みおよび提出（20％）

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にテキストを読み、疑問点について調べてくること <必要に応じて運動学の復習を行うこと> ・演習後のまとめ課題に取り組むこと ・授業後に実技練習を実施し、技術の向上に努めること <予習復習は概ね1時間程度必要とする>
教科書・参考書	<p>【教科書】1. 鶴見隆正, 隆島研吾編：標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学第5版, 医学書院, 2017</p> <p>2. 齋藤 宏他著：姿勢と動作 第3版, メヂカルフレンド社, 2014.</p> <p>3. 千野直一他：脳卒中の機能評価 SIASとFIM, 金原出版株式会社, 2014</p> <p>【参考書】1. Bengt Engstrom著, 高橋正樹他訳：からだにやさしい車椅子のすすめ, 三輪書店, 2007.</p> <p>2. 勝平純司他著：介助にいかすバイオメカニクス, 医学書院, 2011.</p> <p>3. 千住秀明監修：日常生活活動 (ADL) 第2版, 神陵文庫, 2008.</p>
オフィス・アワー	当該講義終了後
国家試験出題基準	<<専門>>-I-3-0、P-a, b、Q-a <<専門>>-III-2-C-c, d <<専門>>III-4-A-a、B、C-a, b, c, d, e, f, g、D-a, b <<専門>>-III-5-A、C <<専門>>-IV-1-I-a, b
履修条件・履修上の注意	実技演習の場合には、動きやすい服装で出席すること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
浅田 春美			
中 徹	城下 貴司		

授業形態	講義（6コマ）・演習（9コマ）		
授業計画	第1回	各障がい領域に対するADL指導／高齢者（老年期）のADL（浅田）【講義】 高齢者の特性（身体機能）とADLの特徴, ADL評価, ADL指導の実際	
	第2回	各障がい領域に対するADL指導／脳卒中片麻痺のADL①（浅田）【講義】 片麻痺の機能障害, ADLの特徴, ADL評価	
	第3回	各障がい領域に対するADL指導／脳卒中片麻痺のADL②（浅田）【演習】 片麻痺のADL指導の実際（セルフケア・基本動作）	
	第4回	各障がい領域に対するADL指導／脳卒中片麻痺のADL③（浅田）【演習】 片麻痺のADL指導の実際（基本動作・移動・移乗動作）	
	第5回	各障がい領域に対するADL指導／パーキンソン病のADL（浅田）【演習】 パーキンソン病の機能障害, ADLの特徴, ADL評価, ADL指導の実際	
	第6回	各障がい領域に対するADL指導／神経筋疾患のADL（浅田）【演習】 脊髄小脳変性症の機能障害, ADLの特徴, ADL評価, ADL指導の実際 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の機能障害, ADLの特徴, ADL評価, ADL指導の実際	
	第7回	病院におけるADL指導／在宅におけるADL指導（浅田）【講義】 ADL評価からADL指導の流れ	
	第8回	行動分析手法を使ったADL指導（浅田）【講義】 効果を最大限に引き出すADL練習の具体的な方法を学習する	
	第9回	各障がい領域に対するADL指導／脊髄損傷のADL指導①（城下）【講義】 脊髄損傷の機能障害, ADLの特徴, ADL評価	
	第10回	各障がい領域に対するADL指導／脊髄損傷のADL指導②（城下）【演習】 脊髄損傷（四肢麻痺）のADL指導の実際（セルフケア・基本動作・移動・移乗動作）	
	第11回	各障がい領域に対するADL指導／脊髄損傷のADL指導③（城下）【演習】 脊髄損傷（対麻痺）のADL指導の実際（セルフケア・基本動作・移動・移乗動作）	
	第12回	各障がい領域に対するADL指導／関節リウマチのADL指導（城下）【演習】 関節リウマチの機能障害, ADLの特徴, ADL評価, ADL指導の実際	
	第13回	各障がい領域に対するADL指導／脳性まひのADL指導①（中）【講義】 脳性まひの機能障害, ADLの特徴, ADL評価	
	第14回	各障がい領域に対するADL指導／脳性まひのADL指導②（中）【演習】 脳性まひのADL指導の実際（セルフケア・基本動作・移動・移乗動作）	
	第15回	各障がい領域に対するADL指導／筋ジストロフィのADL指導①（中）【演習】 筋ジストロフィの機能障害, ADLの特徴, ADL評価, ADL指導の実際	
科目の目的	日常生活活動学で学んだセルフケアや基本動作について、疾患、障害別に分析・評価および練習・指導方法を学習する。 具体的には、中枢神経疾患、脊髄損傷、関節リウマチ、骨・関節疾患、神経難病＜パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症など＞の疾患特有の障害に対し、歩行補助具、車いす、自助具、コミュニケーション装置の使用方法を含めた日常生活へのアプローチ技術（介助方法・動作練習方法・動作指導方法など）を習得する。【技能・表現】		
到達目標	1. 各疾患・障がいの機能障害を想起し、そこから派生するADLの特徴を列挙できる 2. 各疾患・障がいに対してADL上の問題をICFに当てはめて記載することができる 3. 各疾患・障がいのADL上の問題に対して、その解決法を指導できる ＜方法の工夫：各動作の手順、必要な介助方法を演示し、分かりやすく説明できる＞ 4. 各疾患・障がいのADLに必要な自助具、福祉機器を選定できる		
関連科目	日常生活活動学、生活環境学、環境理学療法学、地域理学療法学、地域理学療法学演習、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学、運動器系理学療法評価・治療学演習、神経系理学療法評価・治療学演習、呼吸・循環・代謝系理学療法評価学演習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成績評価方法・基準	筆記試験：浅田・城下担当範囲（80%）、課題提出：中担当範囲（20%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	・各課題に取り組むにあたり最低限教科書を読み、必要に応じて参考書、文献などから情報を収集すること ・授業後に該当する国家試験問題に取り組むこと ・各疾患・障がいのADL上の問題をICFで整理する ・各種ADL指導の実技練習では、講義終了後、十分に練習を実施すること ・日常生活活動学で学んだ基本的なことは随時、復習をしておくこと ＜予習復習は概ね1時間程度必要とする＞		
教科書・参考書	【教科書】1. 鶴見隆正, 隆島研吾編：標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学第5版, 医学書		

	院, 2017 2. 齋藤 宏他著：姿勢と動作 第3版, メヂカルフレンド社, 2014. 【参考書】1. 伊藤利之他編：新版 日常生活活動(ADL), 医歯薬出版, 2010. 2. 山崎裕司・山本淳一編：リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ, 三輪書店, 2010. 3. 千住秀明監修：日常生活活動(ADL) 第2版, 神陵文庫, 2008.
オフィス・アワー	当該講義終了後
国家試験出題基準	《専門》-I-3-0、P-a、b、Q-a 《専門》-III-2-C-c、d 《専門》III-4-A-a、B、C-a、b、c、d、e、f、g、D-a、b 《専門》-III-5-A、C 《専門》-IV-1-I-a、b
履修条件・履修上の注意	実技演習を行うときには、動きやすい服装で出席すること

講義科目名称：地域理学療法学

授業コード：2P112

英文科目名称：Community Based Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
岡崎 大資			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：地域理学療法学演習

授業コード：2P113

英文科目名称：Practice in Community Based Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
岡崎 大資			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：生活環境学

授業コード：2P114

英文科目名称：Human Life and Environment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
目黒 力			
佐藤 満			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：環境理学療法学

授業コード：2P115

英文科目名称：Physical Therapy in Human Life and Environment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員			
目黒 力			
中村 大介			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：見学実習

授業コード：2P116

英文科目名称：Clinical Clerkship

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
浅田 春美			

授業形態	講義（1コマ）、事前学内実習（OSCE1コマ）、学外演習（1週間）、実習後発表（1コマ）
授業計画	<p>1 実習前準備（講義、OSCE） 見学実習に関する情報収集、実技確認等</p> <p>2 オリエンテーション 見学実習の実習目的・実習内容等の説明、自己の目標設定</p> <p>3 見学実習 病院等学外実習施設における見学実習（臨床実習）</p> <p>4 実習後報告会 見学実習で学んできたことについての報告会、自己目標に対するフィードバック</p>
科目の目的	<p>病院・施設等における理学療法の臨床場面の見学を通し、社会人・専門職としての基本的態度を養い、また、見学施設での理学療法士の役割、理学療法業務、リハビリテーションの中での理学療法士の位置づけを理解することを目的とする。</p> <p>3年次での評価学実習、4年次の総合臨床実習Ⅰ・Ⅱに向けての導入・準備のための実習と位置づける。</p> <p>【知識・理解】 【思考・判断】 【技能・表現】 【関心・意欲】 【態度】</p>
到達目標	<p>1. 社会人・専門職としての基本的態度を身につける。</p> <p>2. 見学施設における理学療法士所属部署の位置づけ、他職種との関連を理解する。</p> <p>3. 見学施設における理学療法の対象を理解する。</p> <p>4. 見学施設における理学療法業務を理解する。</p>
関連科目	2年次までの履修科目全般。評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ
成績評価方法・基準	実習前準備の成績、臨床実習での成績、実習後報告会の成績を総合して評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	医療面接、理学療法評価（バイタルチェック、形態計測、関節可動域測定）、移乗動作介助の復習
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：岡田慎一郎他：理学療法臨床実習サポートブック，医学書院，2015
オフィス・アワー	学外実習のため特に設定せず。電話にてフォローアップ。
国家試験出題基準	《専門》-V-1-A, B, C, D, E, F
履修条件・履修上の注意	当該科目前に開講されている全必須科目を履修していること。

講義科目名称：評価学実習

授業コード：2P117

英文科目名称：Bedside Evaluation Praciticum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	3単位	必修
担当教員			
橋口 優			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：総合臨床実習 I

授業コード：2P118

英文科目名称：Comprehensive Clinical Practicum I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	7単位	必修
担当教員			
鈴木 学			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：総合臨床実習Ⅱ

授業コード：2P119

英文科目名称：Comprehensive Clinical Practicum II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	7単位	必修
担当教員			
鈴木 学			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	